

第11回 都道府県がん診療連携拠点病院

連絡協議会

情報提供・相談支援部会

平成30年12月4日(火) 13:00～16:30

国立がん研究センター新研究棟1階 大会議室

本日の内容

3. がん情報提供・相談支援をめぐる施策の動向

- (1) 今回の改正の要点とその背景
- (2) 新整備指針で新たに触れられた役割への対応状況
事前アンケート結果の概要
- (3) がん妊孕性医療の動向とネットワークについて
- (4) 都道府県内の連携体制の好事例
がん生殖医療との連携
AYA世代サロン～ゆるっと話そう会～について
- (5) 部会としての今後の取り組みについて（ディスカッション）

本日の内容（つづき）

4. がん対策情報センターおよび各県・ブロックからのお知らせ

- (1) 地域相談支援フォーラム開催報告および開催予定
- (2) 災害対策について
 - ・首都圏災害時を想定したシミュレーション実施について
 - ・愛媛豪雨災害への対応
- (3) 件数カウントの導入状況と新指針を踏まえた変更案について
- (4) 「療養に関する情報の探し方」公開のお知らせ
- (5) 平成30年度相談員研修・国立がん研究センター認定事業について
- (6) がん相談支援センターと地域の図書館等との連携について
- (7) 日本癌治療学会認定がんナビゲーター制度について

5. その他

6. 閉会のあいさつ

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会設置要領

平成24年11月27日より施行

(設置)

第1条 拠点病院で実施されている情報提供および相談支援体制の機能強化と質的な向上を図ることを目的とする。また、各都道府県や地域単位での取り組みを支援するため、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の下部機関として、情報提供・相談支援部会（以下「部会」という。）を設置する。

(検討事項)

第2条 部会は、次の事項について、情報を共有・検討する。

- (1) 都道府県、施設単位で行われている情報提供・相談支援の取り組みに関する現状把握と分析、情報共有に関すること。
- (2) 情報提供や相談支援体制の機能強化や質的向上を果たす上で必要となる全国、地域レベルで整備すべき体制とサポート要件の整理
- (3) 現場のみでは解決が難しい施策・制度面の改善等の必要事項の整理と（連絡協議会を通じて発信することを想定した）提言に向けた素案の作成

本日の内容

3. がん情報提供・相談支援をめぐる施策の動向

(1) 今回の改正の要点とその背景

厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課

(2) 新整備指針で新たに触れられた役割への対応状況

事前アンケート結果の概要

(3) がん妊孕性医療の動向とネットワークについて

(4) 都道府県内の連携体制の好事例

がん生殖医療との連携

AYA世代サロン～ゆるっと話そう会～について

(5) 部会としての今後の取り組みについて（ディスカッション）

新たながん診療連携病院等の整備指針における がん相談支援センターの役割について



厚生労働省健康局
がん・疾病対策課



拠点病院等の指定要件見直しについて

今回の指定要件見直しのポイント

第11回がん診療提供体制のあり方に関する検討会資料1(H30.4.11)

がん医療の更なる充実

- ・ チーム医療の更なる推進
- ・ 保険適応外の治療に関する事前審査
- ・ 診療機能による拠点病院の分類
- ・ 第三者評価の活用等による質の評価 等

病院完結型から地域完結・循環型医療へ

- ・ **病院一体でのがん相談支援センターの周知**
- ・ 専門的な施設へ「繋ぐ」
- ・ 地域連携の推進
- ・ がん教育への協力 等

医療安全の更なる推進

- ・ 医療安全管理部門の設置
- ・ 医療安全管理者の配置
- ・ 医療安全管理者の権限付与 等

指定に関する課題の整理

- ・ 同一医療圏に複数推薦があった場合の方針
- ・ 要件を満たせていない場合の指導
- ・ 移転・分離・統合があった場合の届出 等

がん相談支援センターの体制

がん診療連携拠点病院の指定要件（平成30年7月）より抜粋

相談支援を行う機能を有する部門（以下「相談支援センター」という。なお、病院固有の名称との併記を認めた上で、必ず「がん相談支援センター」と表記すること。）を設置し、①から⑧の体制を確保した上で、当該部門においてアからチまでに掲げる業務を行うこと。なお、院内の見やすい場所に相談支援センターによる相談支援を受けられる旨や、相談支援センターの場所、対応可能な時間帯についての掲示をする等、相談支援センターについて積極的に周知すること。

- ① 国立がん研究センターがん対策情報センター（以下「がん対策情報センター」という。）による「相談支援センター相談員研修・基礎研修」（１）～（３）を修了した専従及び専任の相談支援に携わる者をそれぞれ１人ずつ配置すること。
- ② 院内及び地域の診療従事者の協力を得て、院内外のがん患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備すること。また、相談支援に関し十分な経験を有するがん患者団体との連携協力体制の構築に積極的に取り組むこと。
- ③ 相談支援について、都道府県協議会等の場での協議を行い、都道府県拠点病院、地域拠点病院、特定領域拠点病院、地域がん診療病院の間で情報共有や役割分担を含む協力体制の構築を行う体制を確保すること。
- ④ 相談支援センターについて周知するため、以下の体制を整備すること。
 - ア 外来初診時等に主治医等から、がん患者及びその家族に対し、相談支援センターについて説明する等、診断初期の段階から相談支援センターの周知が図られる体制を整備すること。
 - イ 地域の医療機関に対し、相談支援センターに関する広報を行うこと。また、地域の医療機関からの相談依頼があった場合に受け入れ可能な体制を整備することが望ましい。
- ⑤ 相談支援センターの業務内容について、相談者からフィードバックを得る体制を整備することが望ましい。
- ⑥ 患者からの相談に対し、必要に応じて院内の医療従事者が対応できるように、相談支援センターと院内の医療従事者が協働すること。
- ⑦ 相談支援センターの支援員は、Ⅳの２の（３）に規定する当該都道府県にある都道府県拠点病院が実施する相談支援に携わる者を対象とした研修を受講すること。
- ⑧ 地域がん診療病院とグループ指定を受ける場合には、連携協力により相談支援を行う体制を整備すること。

がん相談支援センターの業務

がん診療連携拠点病院の指定要件（平成30年7月）より抜粋

以下に示す項目については自施設において提供できるようにすること。

- ア がんの病態や標準的治療法等、がんの治療に関する一般的な情報の提供
- イ がんの予防やがん検診等に関する一般的な情報の提供
- ウ 自施設で対応可能ながん種や治療法等の診療機能及び、連携する地域の医療機関に関する情報の提供
- エ セカンドオピニオンの提示が可能な医師や医療機関の紹介
- オ がん患者の療養生活に関する相談
- カ 就労に関する相談（産業保健総合支援センターや職業安定所等との効果的な連携による提供が望ましい。）
- キ 地域の医療機関におけるがん医療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供
- ク アスベストによる肺がん及び中皮腫に関する相談
- ケ HTLV-1関連疾患であるATLに関する相談
- コ 医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援
- サ 相談支援に携わる者に対する教育と支援サービス向上に向けた取組
- シ その他相談支援に関すること

以下に示す項目については自施設での提供が難しい場合には、適切な医療機関に紹介すること。

- ス がんゲノム医療に関する相談
 - セ 希少がんに関する相談
 - ソ AYA世代にあるがん患者に対する治療療養や就学、就労支援に関する相談
 - タ がん治療に伴う生殖機能の影響や、生殖機能の温存に関する相談
 - チ その他自施設では対応が困難である相談支援に関すること
- ※ 業務内容については、相談支援センターと別部門で実施されることもあることから、その場合にはその旨を掲示し必要な情報提供を行うこと。

がん相談支援センターに関する記載

がん診療連携拠点病院の指定要件（平成30年7月）より抜粋

Ⅱ 地域がん診療連携拠点病院の指定要件について

1 診療体制

(1) 診療機能

- コ 思春期と若年成人(Adolescent and Young Adult; AYA)世代(以下「AYA世代」という。)にあるがん患者については治療、就学、就労、生殖機能等に関する状況や希望について確認し、必要に応じて、対応できる医療機関やがん相談支援センターに紹介すること。

(2) 診療従事者

② 専門的な知識及び技能を有する医師以外の診療従事者の配置

- ウ (1)の⑤のアに規定する緩和ケアチームに協力する薬剤師、医療心理に携わる者及び相談支援に携わる者をそれぞれ1人以上配置することが望ましい。

8 地域拠点病院(高度型)の指定要件について

(1) 地域拠点病院(高度型)

- ⑤ 相談支援センターに看護師や社会福祉士、精神保健福祉士等の医療従事者を配置し、相談支援業務の強化が行われていること。

緩和ケアに関する論点

第11回がん診療提供体制のあり方に関する検討会資料3(H30.4.11)

【緩和ケア】(第4回WG)

- 苦痛のスクリーニングやがん患者の苦痛を迅速かつ適切に緩和する体制(専門的な緩和ケアに迅速につなぐ過程等)について整備することとしてはどうか。
- 緩和ケアチームの人員配置について検討してはどうか。
- 地域拠点病院における緩和ケアセンターのあり方、設置の要否について検討してはどうか。
- 緩和ケア研修会の開催や受講の目標設定について検討してはどうか。
- 緩和ケアの実績について検討してはどうか。
- アドバンス・ケア・プランニングについて検討してはどうか。
- 緩和的放射線治療について検討してはどうか。
- 都道府県拠点病院の要件である緩和ケアセンターの機能強化について検討してはどうか。

相談支援・情報提供・地域連携に関する論点

第11回がん診療提供体制のあり方に関する検討会資料3(H30.4.11)

【相談支援】(第3・4回WG)

- 相談支援センターに必要な人的配置や業務内容について再検討してはどうか。
- 相談支援に関する実績に関する評価指標や指定要件を定めてはどうか。
- 相談支援センターの周知を病院全体として取り組むようにしてはどうか。

【情報提供】(第4・6回WG)

- 院内がん登録に関する指定要件について、「がん登録等の推進に関する法律」及び「院内がん登録の実施に係る指針」に基づいて必要な修正を行うべきではないか。
- 拠点病院においては5大がん以外のがんについても院内がん登録に対応できるように体制を整備するべきではないか。
- 拠点病院の取組として、拠点病院における医療従事者が、がんに関する普及啓発を行ってはどうか。

【地域連携】(第4回WG)

- 拠点病院等と地域の医療・介護従事者等が連携できるように情報を共有する場を整備してはどうか。
- 外来診療を中心に、拠点病院が地域の医療機関等と、役割分担や診療支援を行うことで、質の担保(指定要件と見なすこと)ができるようにしてはどうか。
- 医科歯科連携については、引き続き拠点病院における医療体制として求めているかどうか。

整備指針の新たな事項について(類型の見直し)

【現行】

診療機能による分類

【見直し後】

地域がん診療連携拠点病院
(高度型)

指定類型
の見直し



指定類型の
見直し



地域がん診療連携拠点病院

指定類型の
見直し

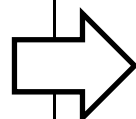


指定要件を
充足した場合
復帰



地域がん診療連携拠点病院
(特例型)

地域がん診療
連携拠点病院



- 必須要件に加え、望ましい要件を複数満たす。
 - 高度な放射線治療の実施が可能
 - 同一医療圏のうち診療実績が最も優れている。
 - **相談支援センターへの医療従事者の配置**や緩和ケアセンターの整備
 - 医療安全に関する取組
- 等の条件を満たし、診療機能が高いと判断された場合に指定。

従来の地域がん診療連携拠点病院と同様。

平成31年以後に既指定の拠点病院で、指定要件の充足状況が不十分であると判断された場合に経過措置的に指定類型を見直す。
未充足である状況が持続した場合は、**指定の取消しも検討する。**

ご清聴ありがとうございました。



ひと、くらし、みらいのために

本日の内容

3. がん情報提供・相談支援をめぐる施策の動向

(1) 今回の改正の要点とその背景

厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課

**(2) 新整備指針で新たに触れられた役割への対応状況
事前アンケート結果の概要**

(3) がん妊孕性医療の動向とネットワークについて

(4) 都道府県内の連携体制の好事例

がん生殖医療との連携

AYA世代サロン～ゆるっと話そう会～について

(5) 部会としての今後の取り組みについて（ディスカッション）

新整備指針で新たに触れられた 役割への対応状況

がん相談対応体制整備に関するアンケート
集計結果

アンケート 概要

調査目的

- 新整備指針において、拠点病院が取り組むべき事項や相談支援センターの業務が拡充されたことを受け、都道府県や施設内でのがん相談対応体制整備の現状を把握し、部会として取り組むべき方向性について議論を深めるための資料とする。

調査方法

- 拠点病院メーリングリスト（Kyoten-CISC）にて、WEBアンケートへの協力依頼を行い、2018年9月26日～ 10月26日にかけてアンケートを実施した。
- 回収率：
 - 都道府県拠点病院：48施設（94.1%）
 - 地域拠点病院：171施設（48.8%）
 - 上記以外の病院（特定領域拠点・地域がん診療）：15施設（40.5%）
- 有効回答数：234
（複数回答、同施設から複数名回答、県指定病院からの回答等無効：7）

アンケート 概要：アンケートの構成

0. 回答ご担当者情報

1. 新整備指針で示されている「相談支援センターの業務」への対応体制整備状況について

問1 がんゲノム医療

問2 希少がん

問3 AYA世代にあるがん患者に対する治療療養や就学、就労支援

問4 がん治療に伴う生殖機能の影響や、生殖機能の温存

2. がん相談支援センターの質の向上および対応の均てん化に向けた活動について

問5 系統的継続的研修への参加状況

問6 「相談記録のための基本形式」の導入状況

問7 がんに関する信頼できる情報の入手方法

問8 自施設で行われている臨床試験に関する情報の入手方法

(問9～13は都道府県がん診療連携拠点病院の方のみご回答ください)

問9 都道府県内での役割分担や連携協力体制に関する協議状況

問10 都道府県内のがんに関する情報をまとめた冊子やホームページの作成状況

問11 系統的継続的研修の企画にあたり希望する支援内容

問12 PDCAサイクルチェックリストの作成状況

問13 大規模災害発生時の情報収集体制

3. 情報提供・相談支援部会で共有したい取り組みや活動について

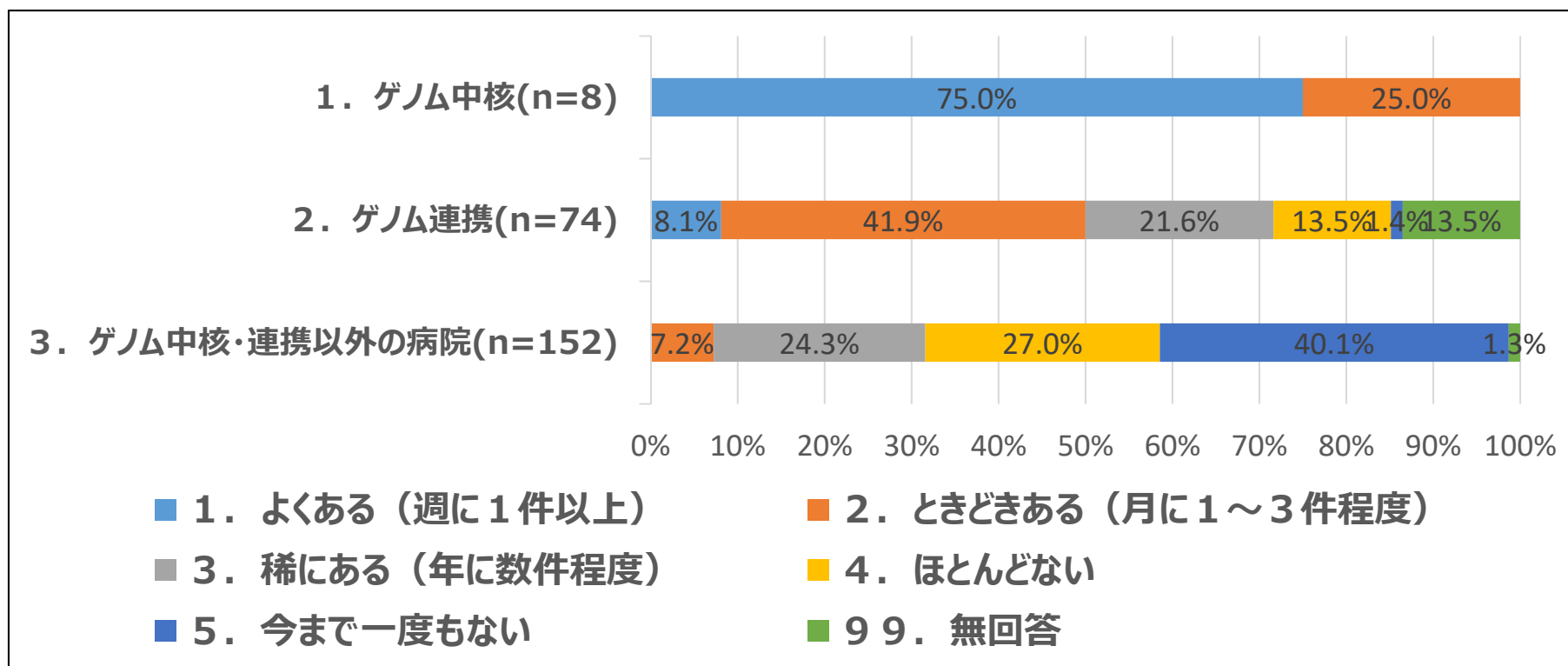
問14 他県、他施設の取り組みで紹介してほしいテーマや話題

問15 全国のがん相談支援センターにとって有用と思われる自県や自施設での取り組み

全体像の把握に必要であるため、期間内に回答をいただけなかった都道府県拠点病院の方には、問9～13（都道府県拠点病院のみを対象とした設問）に絞り、再度回答を依頼した。

がんゲノム医療に関する相談

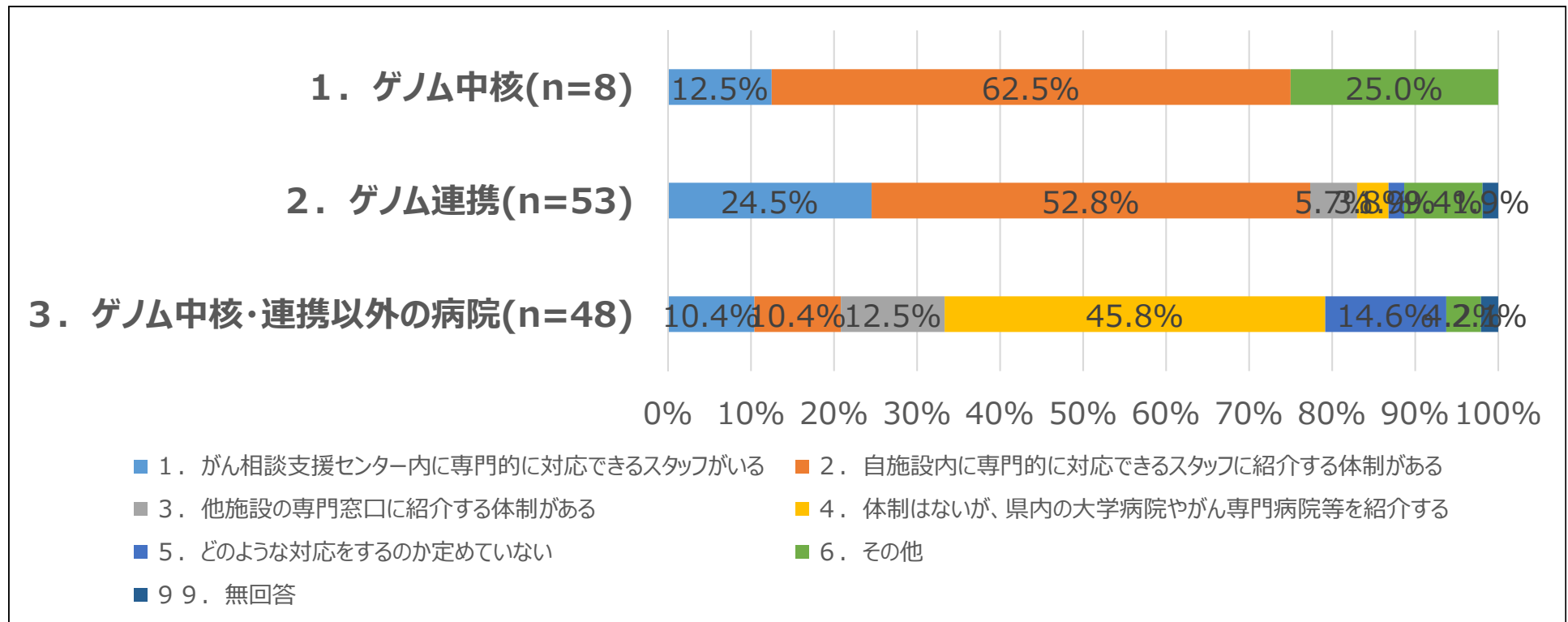
問1 貴センターでは、「がんゲノム医療」に関する相談が寄せられることがありますか。



ゲノム中核病院だと、週または月に数件のペースで相談を受けている。
ゲノム連携病院でも、週または月に数件の相談があるという回答が半数を占める。
一方、それ以外の病院では、相談がほとんどないという回答が大多数。

がんゲノム医療に関する相談

副問1-1 問1で「ある（よくある・ときどきある・稀にある）」と答えたセンターではどのように対応されていますか。

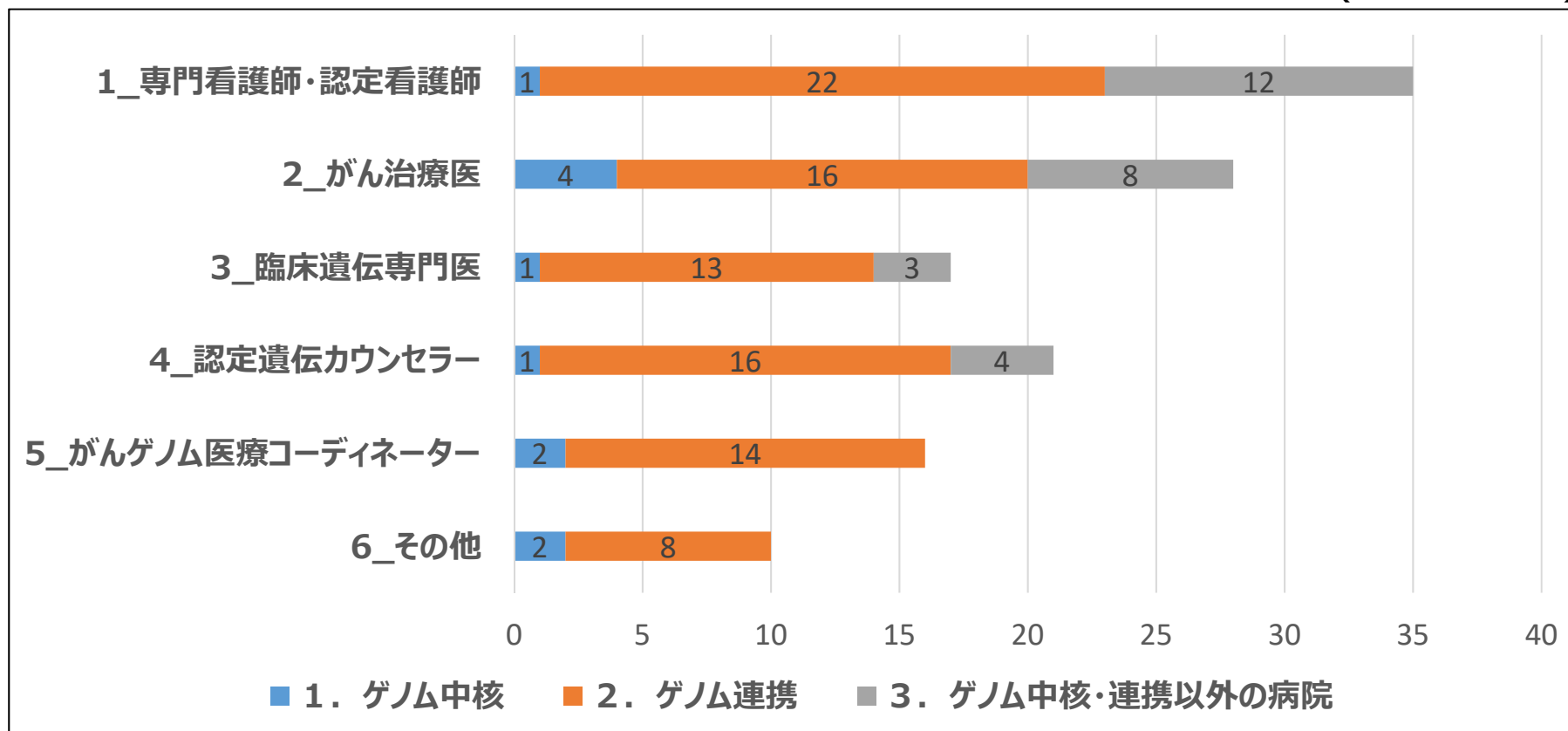


がんゲノム医療に関わる指定を受けている病院（ゲノム中核・連携）では、自施設で相談対応できる体制のある施設が7割以上を占める。
一方、それ以外の病院では、他施設につなぐ対応が半数以上を占める。

がんゲノム医療に関する相談

副問1-2 副問1-1で、1, 2, 3を選択されたセンターに伺います。

センター内または紹介した先で対応する専門のスタッフはどのような立場の方ですか。(複数選択可)



対応する専門のスタッフは専門看護師・認定看護師が最も多く、次いでがん治療医、認定遺伝カウンセラー等となっている。

がんゲノム医療に関する相談

副問1-3 副問1-1で、3を選択されたセンターに伺います。

紹介する主な機関（3つまで）の機関名とその機関の種類をお書きください。

機関名	件数
がんゲノム医療中核病院	12
北海道大学病院	1
東北大学病院	3
国立がん研究センター	2
東京大学病院	1
京都大学医学部附属病院	1
阪大病院	1
九州大学病院	3
がんゲノム医療連携病院	11
千葉県がんセンター遺伝子診療部	1
横浜市立大学附属病院	1
滋賀医科大学医学部附属病院	1
三重大学病院	1
大阪国際がんセンター	1
近大病院	1
独立行政法人国立病院機構四国がんセンター	1
九州がんセンター	1
北九州市立医療センター	1
佐賀大学医学部附属病院	1
琉球大学医学部附属病院	1

紹介する主な機関として記載されていたのは、全てがんゲノム医療に関わる指定を受けている病院（ゲノム中核・連携）であった。

がんゲノム医療に関する相談

副問1-4 「がんゲノム医療」に関する相談でお困りのこと／うまくいっている活動があればお書きください。

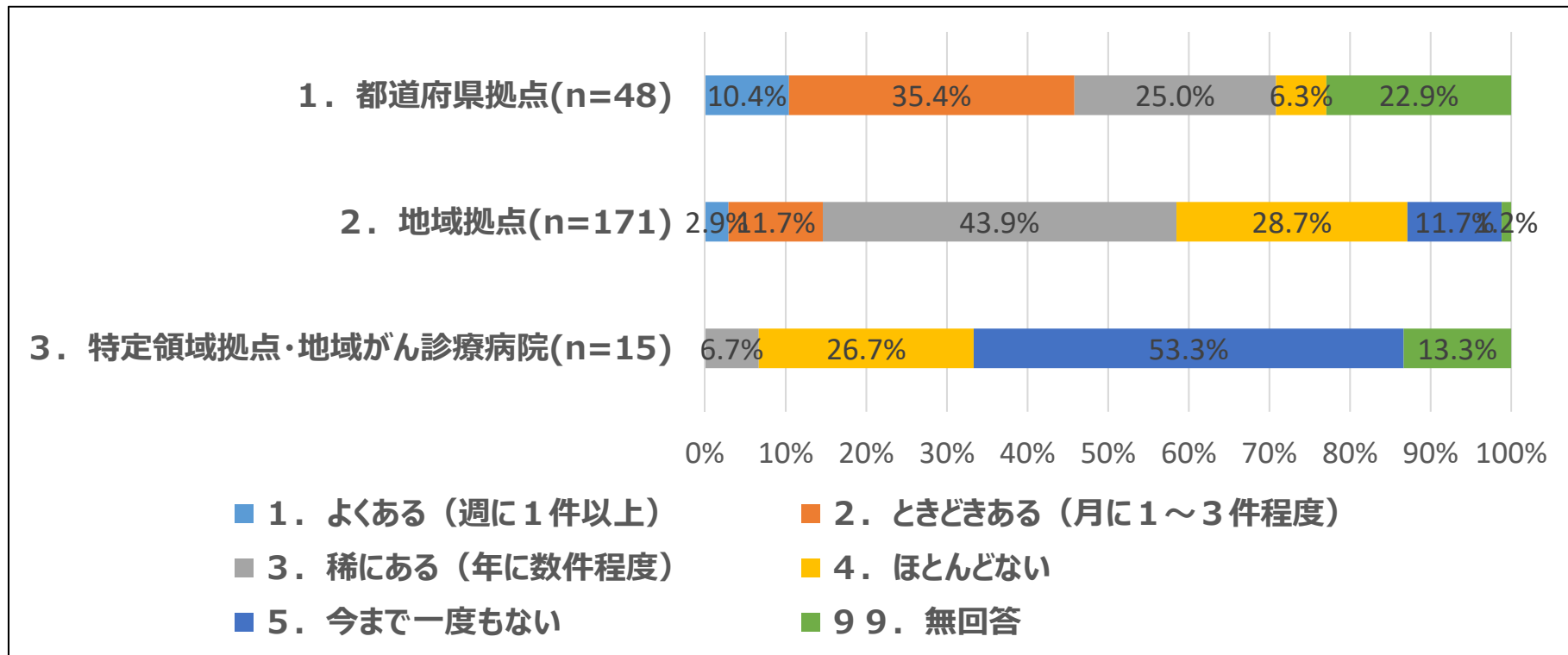
主な困りごと	件数
1. 相談がない、イメージがわからない	17
2. ゲノム医療やその実施体制に関する知識・情報がない	32
3. 患者向けの資料やパンフレットがない	2
4. マスコミ、メディアによる影響	7
5. 院内（ゲノム中核・連携）の実施体制が整っていない	5
6. 対応方針が決まってない	3
7. 相談員の役割範囲が不明瞭	3
8. 相談対応の中での相談者とのやりとり	7
9. その他	3

「2. ゲノム医療やその実施体制に関する知識・情報がない」は、がんゲノム医療に関わる指定を受けているかどうかに関わらず、困りごととして多くあがっている。

また、他の相談（希少がん、AYA、生殖機能）と比べ特徴的なものとして、「4. マスコミ、メディアによる影響」がある。

希少がんに関する相談

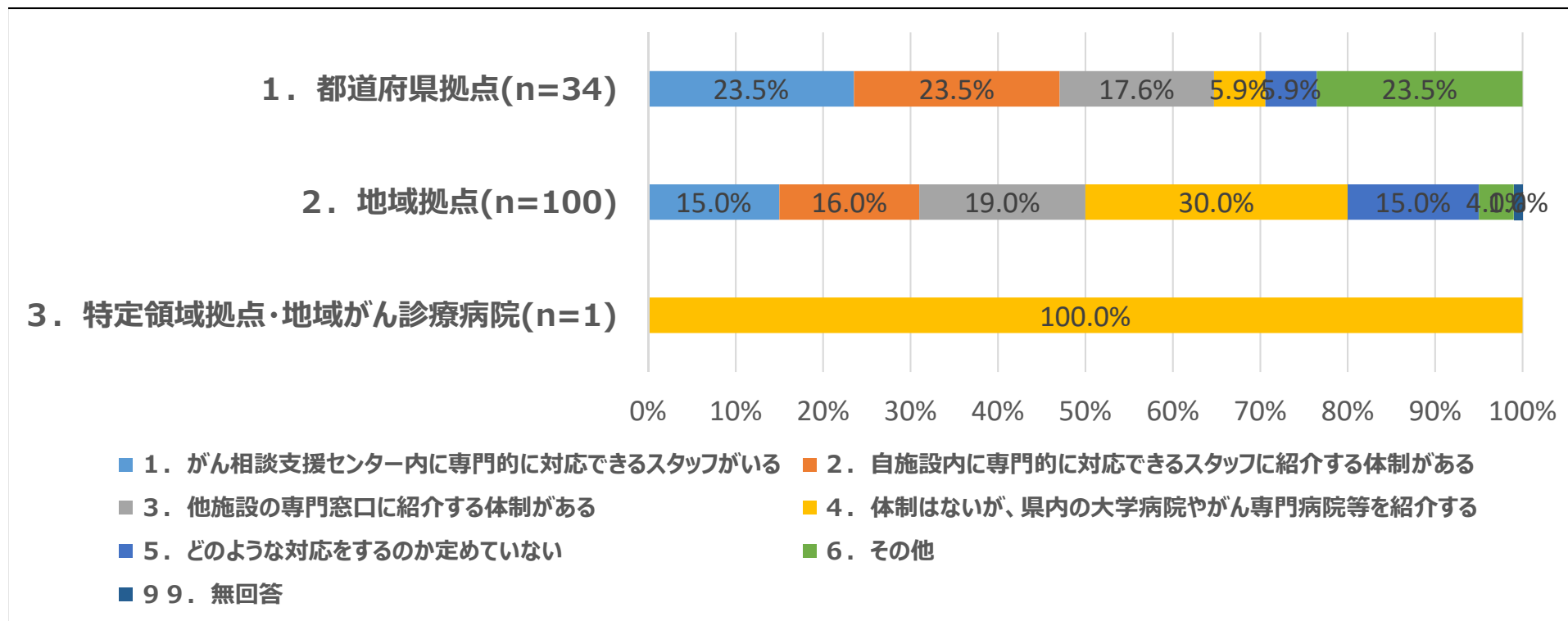
問2 貴センターでは、「希少がん」に関する相談が寄せられることがありますか。



週または月に数件の相談があるという回答は、都道府県拠点病院で4割、地域拠点病院で1割、それ以外の病院では相談がほとんどないという施設が大多数。

希少がんに関する相談

副問2-1 問2で「ある（よくある・ときどきある・稀にある）」と答えたセンターではどのように対応されていますか。



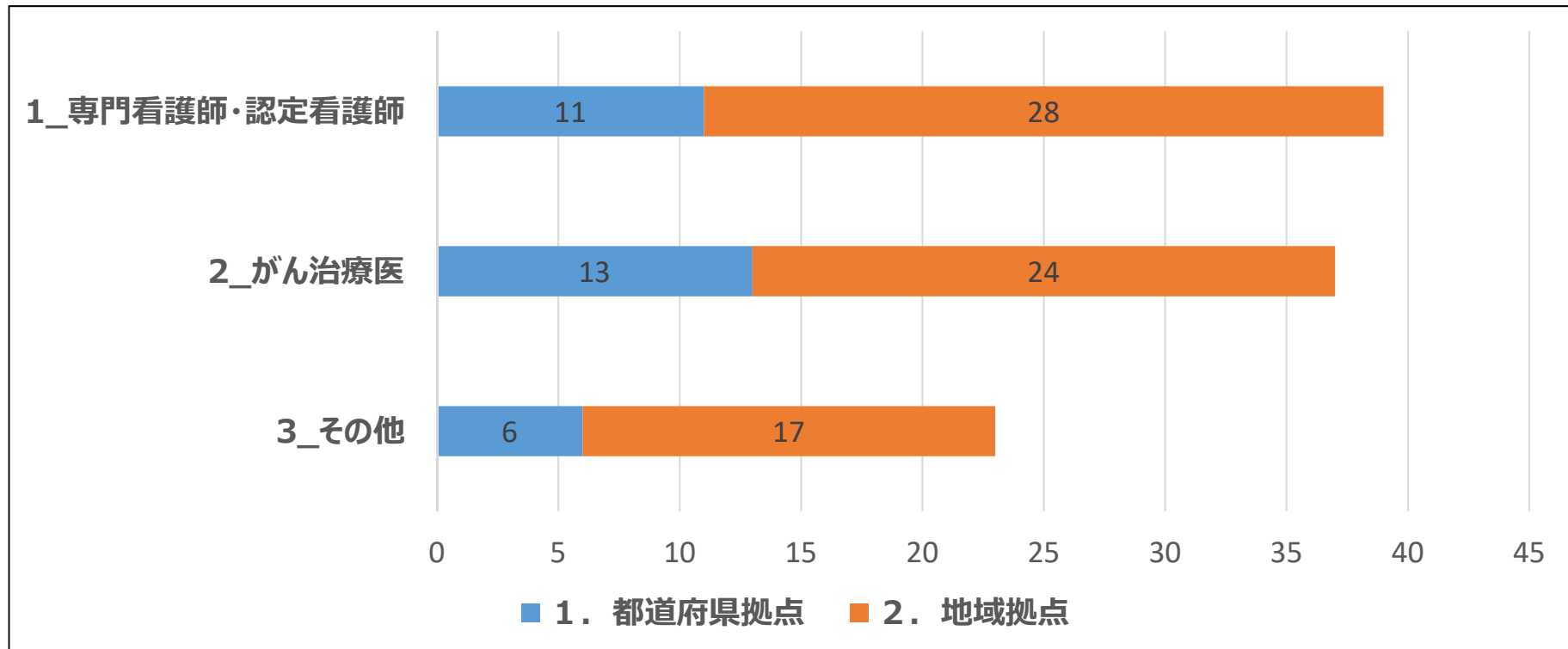
全体で見ると、自施設で相談対応できる体制のある施設は3～4割程度。

都道府県拠点病院の場合は「6.その他」として、「相談内容に応じて、施設別がん登録検索システムの活用、院内専門スタッフへの連携、国立がん研究センター希少がんセンターの紹介等を行う」といった回答が多く見られる。

希少がんに関する相談

副問2-2 副問2-1で、1, 2, 3を選択されたセンターに伺います。

センター内または紹介した先で対応する専門のスタッフはどのような立場の方ですか。(複数選択可)



対応する専門のスタッフは専門看護師・認定看護師、がん治療医の他、がん相談員や希少がんセンタースタッフ等があがっていた。

希少がんに関する相談

副問2-3 副問2-1で、3を選択されたセンターに伺います。

紹介する主な機関（3つまで）の機関名とその機関の種類をお書きください。

機関名	件数
国立がん研究センター	14
国立がん研究センター	6
国立がん研究センター希少がんセンター	3
国立がん研究センター中央病院	2
国立がん研究センター東病院	1
国立がん研究センターがん対策情報センター	1
希少がんネットワーク	1
都道府県がん診療連携拠点病院	13
北海道がんセンター	2
京都大学医学部附属病院	2
九州大学病院	2
九州がんセンター	2
九州大学九州がんセンター	1
信州大学医学部附属病院	1
千葉県がんセンター	1
兵庫県立がんセンター	1
琉球大学医学部附属病院	1
患者会・患者支援団体（NPOなど）	3
オンコロ	1
キュアサルコーマ	1
患者会・患者団体	1
その他	3
山梨大学医学部附属病院	1
名古屋大学医学部附属病院	1
神戸大学医学部附属病院	1

紹介する主な機関としては、国立がん研究センターと都道府県拠点病院が多いが、大学病院（地域拠点）や患者支援団体もあがっていた。

希少がんに関する相談

副問2-4 「希少がん」に関する相談でお困りのこと／うまくいっている活動があればお書きください。

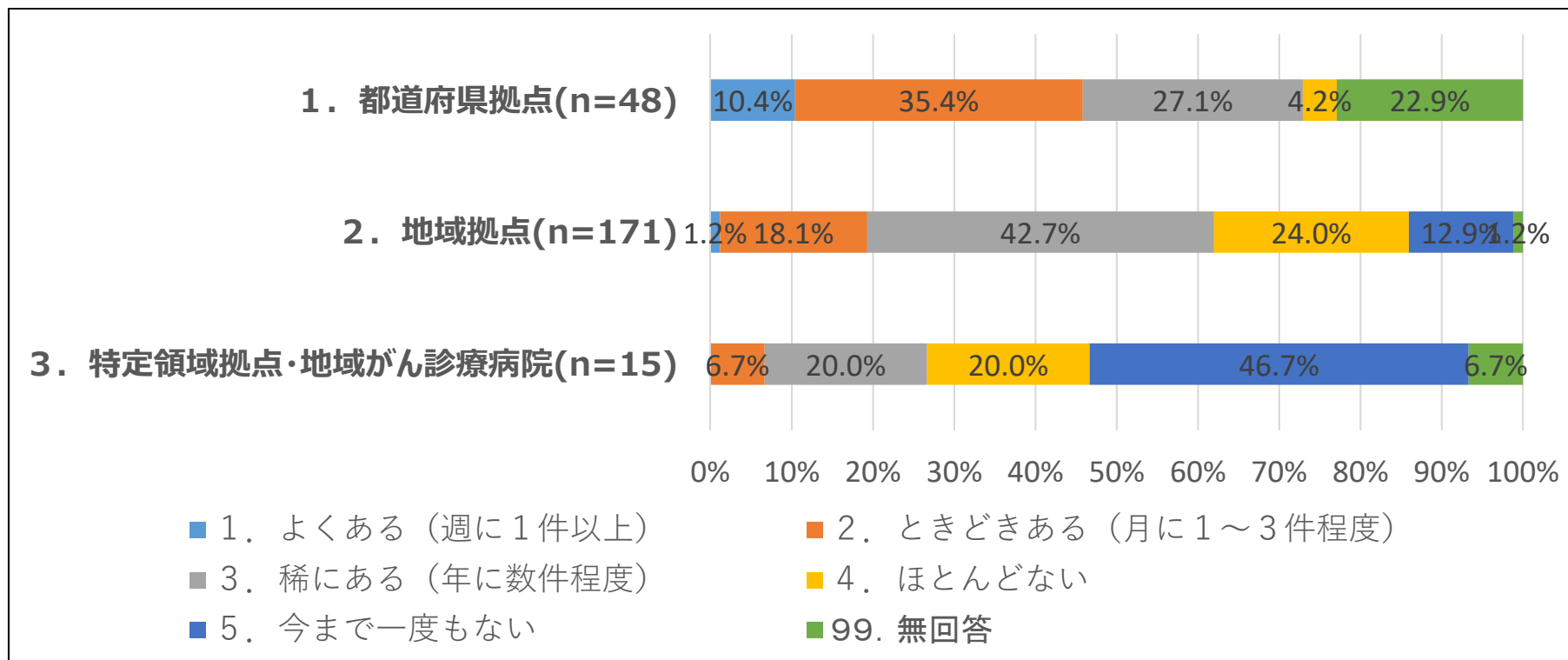
主な困りごと	件数
1. 希少がんの知識・情報が不十分	25
2. 相談対応の中での相談者とのやりとり	9
3. 標準治療未確立、限られた情報の中での支援の難しさ	3
4. 症例検索システムの限界、使いづらさ	3
5. 自施設での症例が少なく、相談対応も困難	7
6. 希少がんセンターとの連携に課題がある	3
7. その他	4

「1. 希少がんの知識・情報が不十分」は、がん拠点病院の指定区分に関わらず、困りごととして多くあがっている。

また、「3. 標準治療未確立、限られた情報の中での支援の難しさ」「4. 症例検索システムの限界、使いづらさ」「6. 希少がんセンターとの連携に課題がある」等、希少がん特有の困りごとが見られる。

AYA世代の治療療養、就学就労に関する相談

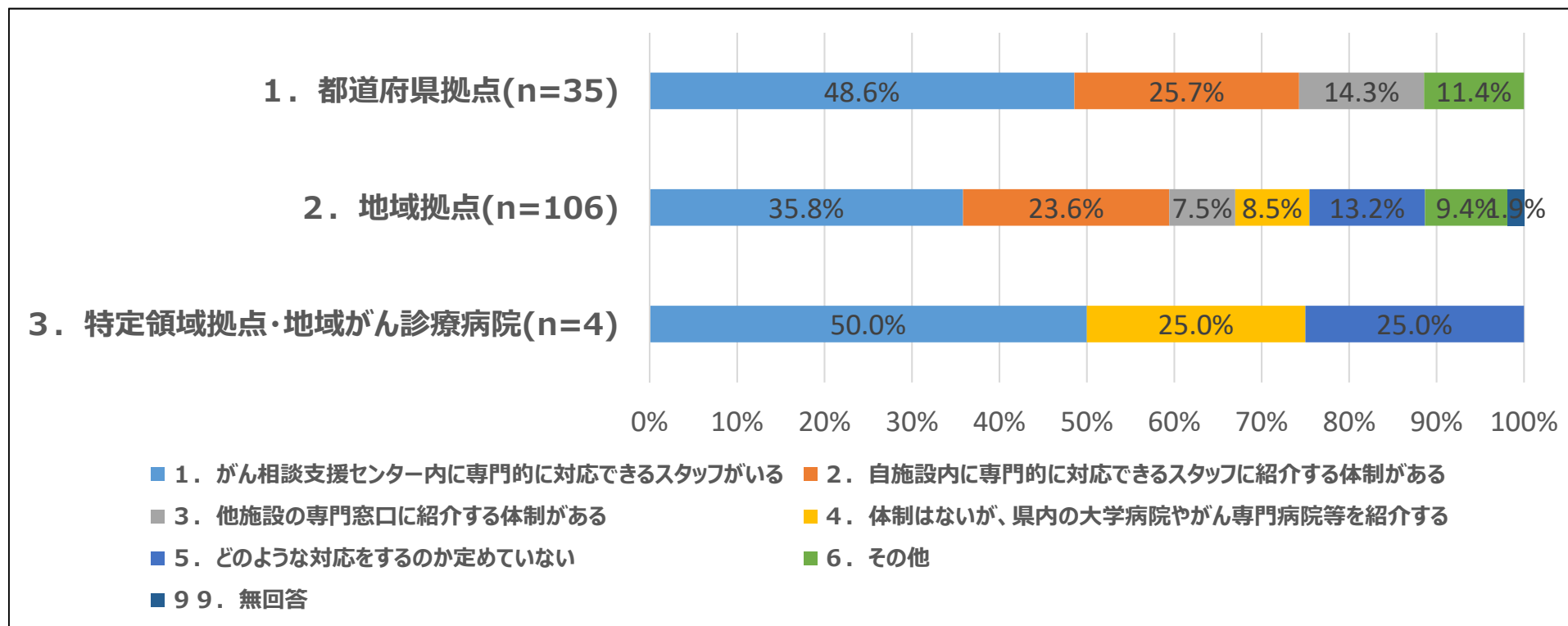
問3 貴センターでは、「AYA世代にあるがん患者に対する治療療養や就学、就労支援」に関する相談が寄せられることがありますか。



週または月に数件の相談があるという回答は、都道府県拠点病院で4割、地域拠点病院で2割、それ以外の病院では1割に満たない。

AYA世代の治療療養、就学就労に関する相談

副問3-1 問3で「ある（よくある・ときどきある・稀にある）」と答えたセンターではどのように対応されていますか。

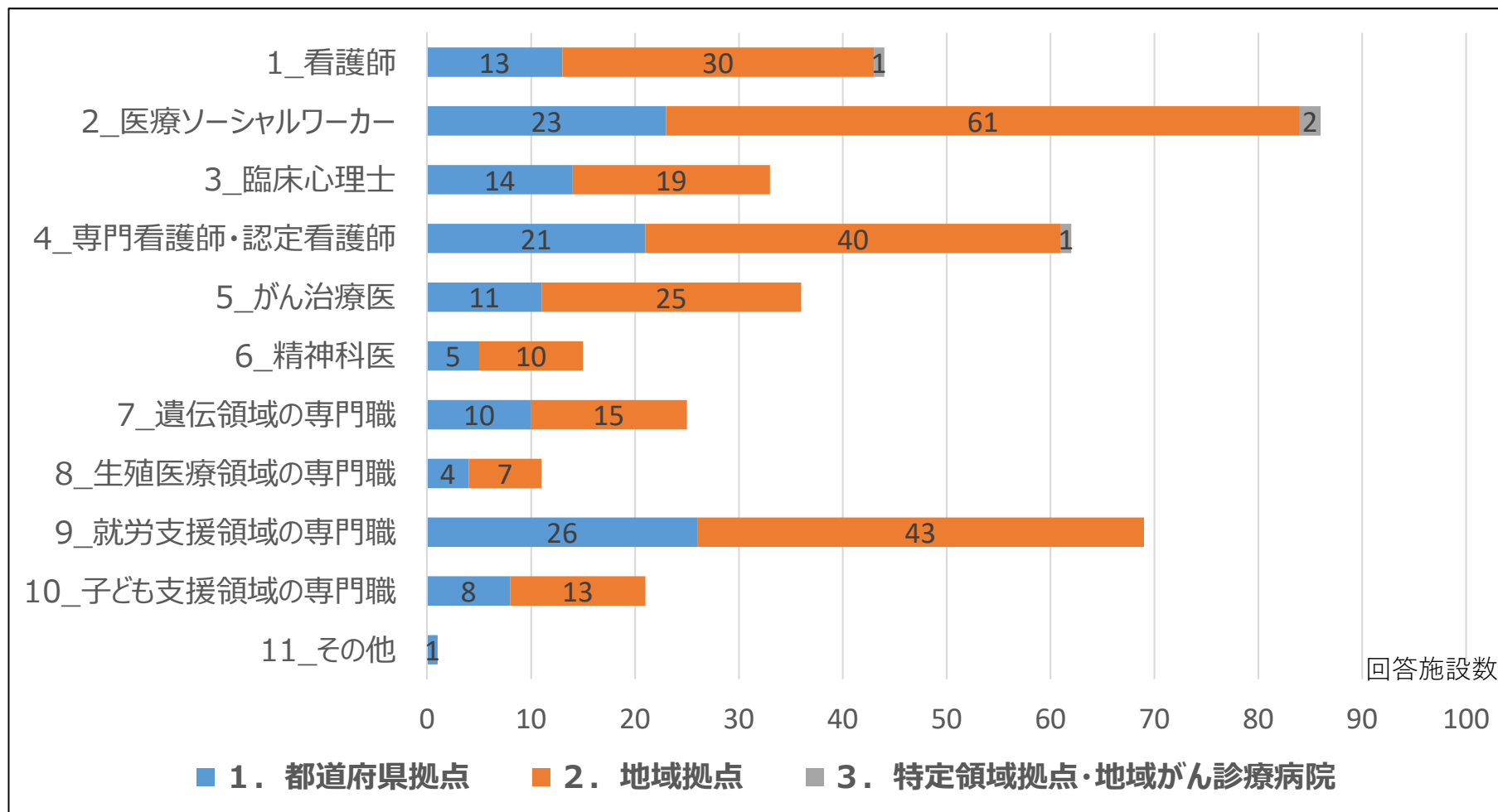


全体で見ると、自施設で相談対応できる体制のある施設は6割程度。

「6.その他」として、「AYAに特化した窓口は特設設けておらず、一般的な相談としてがん相談員が対応している」「相談内容に応じて、がん相談部門内での対応、院内専門スタッフへの連携、他施設の紹介、いずれもあり得る」といった回答が見られる。

AYA世代の治療療養、就学就労に関する相談

センター内または紹介した先で対応する専門のスタッフはどのような立場の方ですか。(複数選択可)



対応する専門のスタッフは医療ソーシャルワーカーが最も多く、次いで就労支援領域の専門職、専門看護師・認定看護師等となっている。

AYA世代の治療療養、就学就労に関する相談

(多施設を紹介すると回答した施設のみ回答)

紹介する主な機関（3つまで）の機関名とその機関の種類をお書きください。

都道府県がん診療連携拠点病院

栃木県立がんセンター	1
神奈川県立がんセンター	1
九州大学病院	2
九州がんセンター	3

都道府県拠点病院以外の医療機関

北海道大学病院	1
手稲溪仁会病院	1
自治医科大学病院	1
横浜市立大学市民総合医療センター	1
岐阜大学病院	1
名古屋大学病院	1
福岡市立こども病院	1
県立こども病院	1

就労支援領域の専門機関

産業保健総合支援センター	2
社会保険労務士会	3
ハローワーク	8
電話相談（ほっとコール）	1
がん就労支援ホットライン	1

学校教育関連の機関

支援学校	1
県教育委員会	1

患者支援団体

がんの子どもを守る会	1
------------	---

紹介する主な機関としてあげられていたのは、医療機関、就労支援領域の専門機関が多く、学校教育関連の機関や患者支援団体は少なかった。

AYA世代の治療療養、就学就労に関する相談

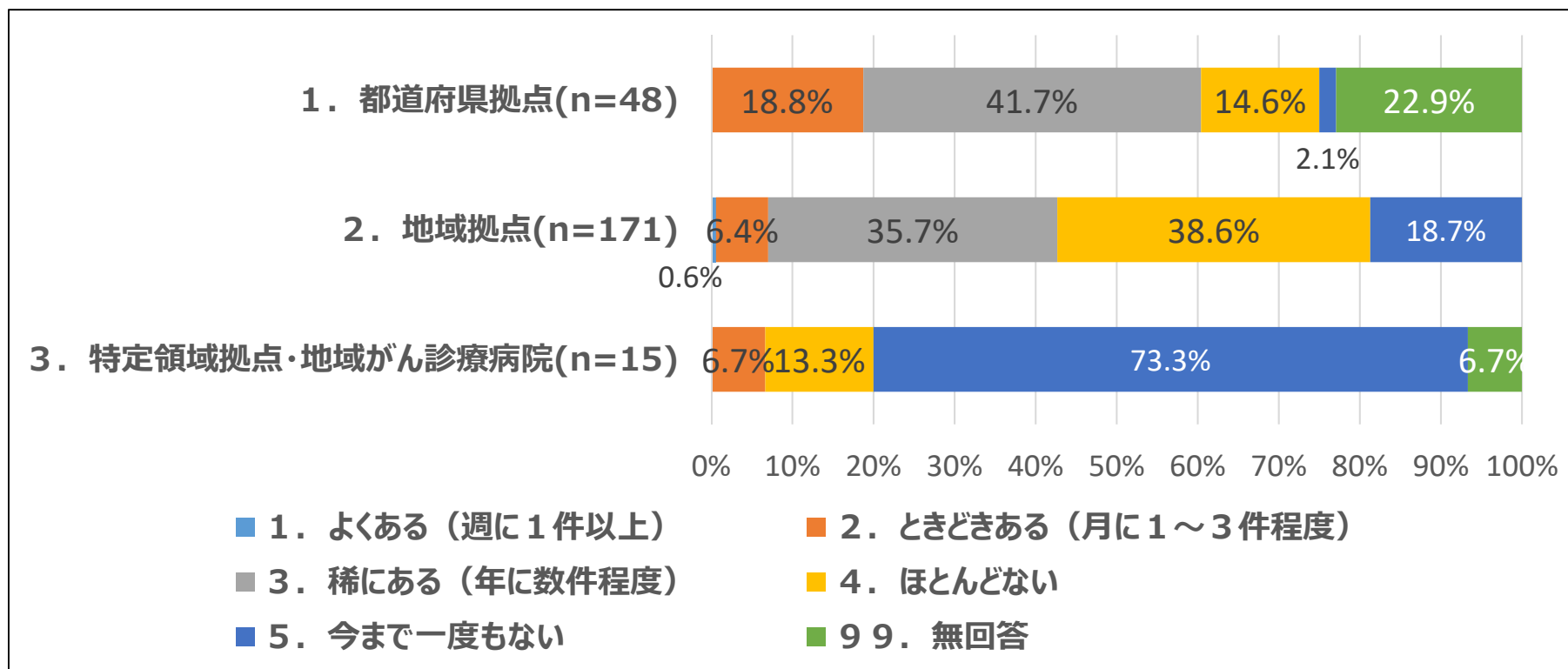
副問3-4 「AYA世代にあるがん患者に対する治療療養や就学、就労支援」に関する相談でお困りのこと／うまくいっている活動があればお書きください。

主な困りごと	件数
1. 相談がない、ニーズの拾い上げが難しい、広報が不十分	24
2. 当事者同士の交流の場がない	4
3. 学校との連携が難しい、就学支援のための資源がない	5
4. 就労支援が円滑に進まない	2
5. 介護保険の対象にならない	2
6. 相談対応の中での相談者とのやりとり	3
7. 院内の体制が整っていない、対応方針が決まってない	6
8. その他	5

ゲノム医療や希少がんでは「相談自体がない」という記載が多く見られたが、AYAでは「潜在的なニーズはあるのかもしれないが、拾い上げが難しい」という記載が多く見られた。また、「2. 当事者同士の交流の場がない」「3. 学校との連携が難しい、就学支援のための資源がない」等、特徴的な困りごとが見られた。

生殖機能に関する相談

問4 貴センターでは、「がん治療に伴う生殖機能の影響や、生殖機能の温存」に関する相談が寄せられることがありますか。

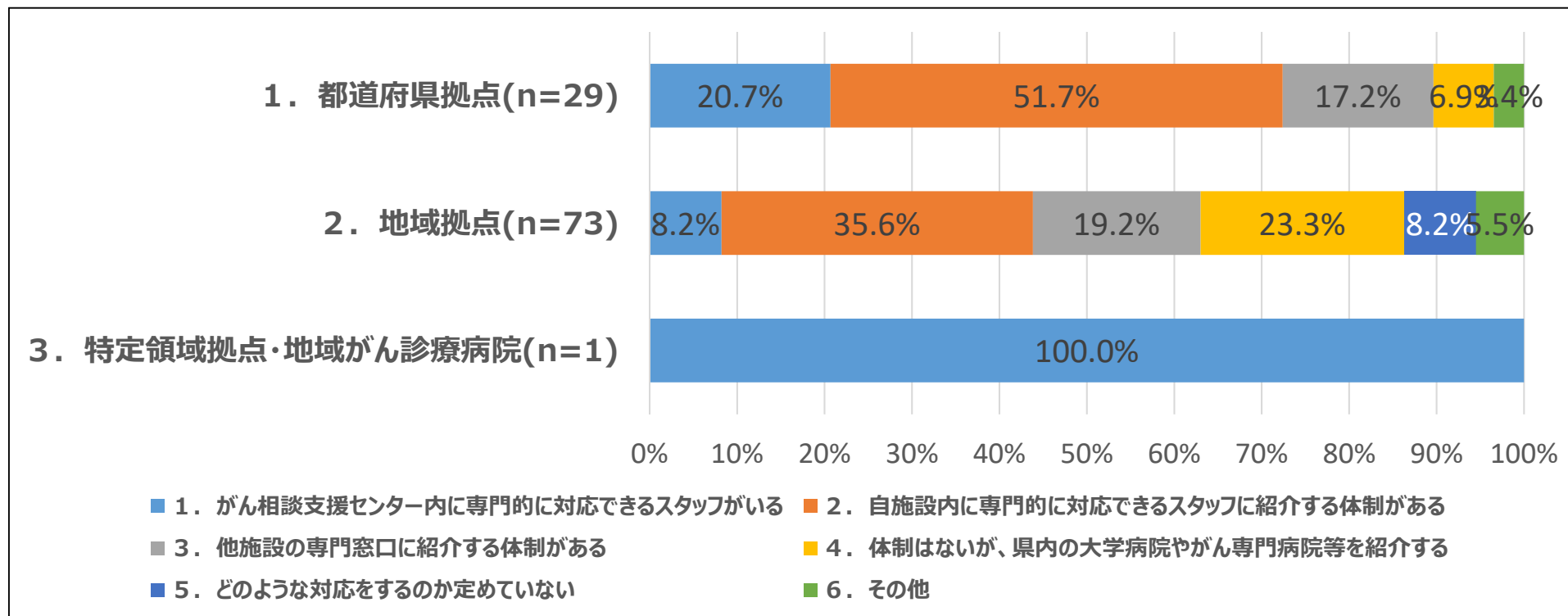


都道府県拠点病院でも、相談がほとんどない、または年に数件程度という回答が約6割を占める。

それ以外の病院では、今まで一度もないという回答が占める割合が増加する。

生殖機能に関する相談

副問4-1 問4で「ある（よくある・ときどきある・稀にある）」と答えたセンターではどのように対応されていますか。



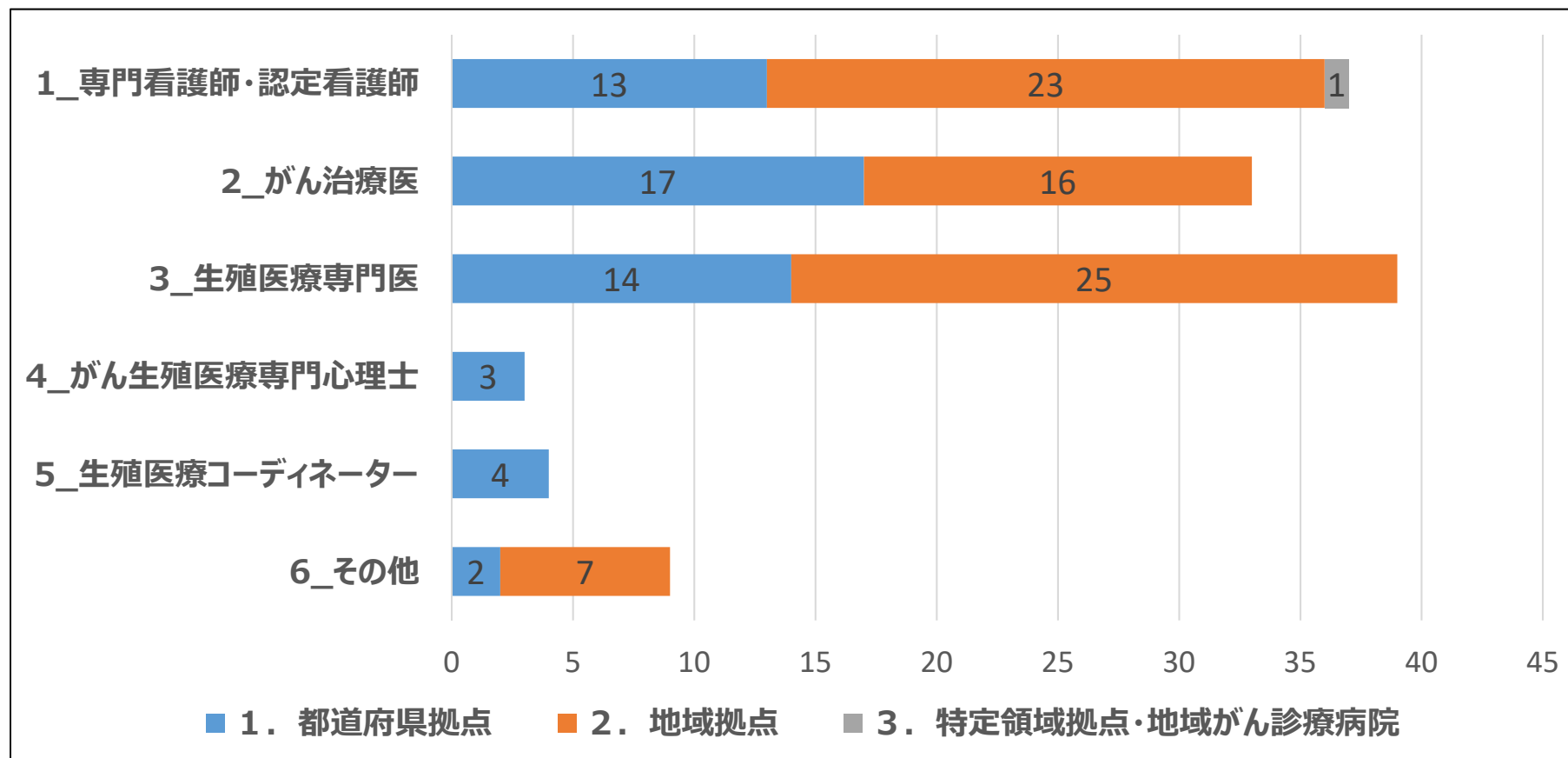
自施設で相談対応できる体制のある施設は、都道府県拠点病院では7割程度。地域拠点病院では4割程度。

「6.その他」として、「一般的な相談としてがん相談員が対応している」「相談内容に応じて、がん相談部門内での対応、院内専門スタッフへの連携、他施設の紹介、いずれもあり得る」といった回答が見られる。

生殖機能に関する相談

副問4-2 副問4-1で、1, 2, 3を選択されたセンターに伺います。

センター内または紹介した先で対応する専門のスタッフはどのような立場の方ですか。(複数選択可)



対応する専門のスタッフは生殖医療専門医、専門看護師・認定看護師、がん治療医が多くなっている。

生殖機能に関する相談

副問4-3 副問4-1で、3を選択されたセンターに伺います。

紹介する主な機関（3つまで）の機関名とその機関の種類をお書きください。

機関名	件数	機関名	件数
都道府県がん診療連携拠点病院	5	その他	7
信州大学医学部付属病院	1	札幌医科大学病院	1
三重大学病院	1	札幌厚生病院	1
徳島大学病院	1	斗南病院	1
熊本大学医学部附属病院	1	日本大学医学部付属板橋病院	1
琉球大学医学部付属病院	1	Kobaレディースクリニック	1
生殖医療領域の専門職がいる医療機関	21	ソフィアレディースクリニック	1
岐阜大学病院	2	矢野産婦人科	1
名古屋大学病院	2		
独協医科大学埼玉医療センター リプロダクションセンター	1		
埼玉医科大学総合医療センター 妊孕性温存外来	1		
順天堂浦安病院	1		
横浜市立大学付属市民総合医療センター	1		
聖マリアンナ医科大学病院	1		
焼津市立総合病院	1		
山梨大学医学部付属病院	1		
滋賀医大	1		
兵庫医科大学病院	1		
岡山大学病院	1		
中山産婦人科	1		
俵IVFクリニック	1		
諏訪マタニティークリニック	1		
静岡レディースクリニック	1		
英ウイメンズクリニック	1		
岡山二人クリニック	1		
婦人科クリニック	1		

紹介する主な機関としてあげられていたのは、大学病院、生殖補助医療に取り組んでいる婦人科クリニック等であった。

生殖機能に関する相談

副問4-4 「がん治療に伴う生殖機能の影響や、生殖機能の温存」に関する相談でお困りのこと／うまくいっている活動があればお書きください。

主な困りごと	件数
1. 相談がない、ニーズの拾い上げが難しい	15
2. 相談対応の中での相談者とのやりとり	6
3. 治療開始前の情報提供が十分にできていない	6
4. 相談、連携できる体制がない、不十分	5
5. がん生殖医療やその実施体制に関する知識・情報がない	11
6. 地域の生殖医療資源が少ない	4
7. その他	2

生殖機能に関しても、AYAと同じように「潜在的なニーズはあるのかもしれないが、拾い上げが難しい」という記載が多く見られた。

まとめ

- 「ゲノム医療」「希少がん」「AYA」「生殖機能」に関する相談への対応が、新整備指針で新たに触れられた。
- ゲノム中核病院・ゲノム連携病院の場合に、ゲノム医療に関する相談が一定割合で、また、都道府県拠点病院の場合に、希少がんに関する相談が一定割合である等の傾向は見られる。
- しかし、全体で見ると、いずれの相談も多くはない状況で、「稀に相談があった時にどう対応すればよいのか、情報や知識が十分でなく心配」という自由記載が目立った。

本日の内容

3. がん情報提供・相談支援をめぐる施策の動向

(1) 今回の改正の要点とその背景

厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課

(2) 新整備指針で新たに触れられた役割への対応状況

事前アンケート結果の概要

(3) がん妊孕性医療の動向とネットワークについて 配布資料5参照

日本がん・生殖医療学会

岐阜大学大学院医学系研究科 産婦人科分野 古井辰郎様

(4) 都道府県内の連携体制の好事例

がん生殖医療との連携

AYA世代サロン～ゆるっと話そう会～について

(5) 部会としての今後の取り組みについて（ディスカッション）

がん・生殖医療に関する 滋賀県の取り組み

滋賀県がん診療連携協議会 診療支援部会

山内 智香子(部会長)

岡村 理(部会員・相談支援員)

第11回情報提供・相談支援部会

平成30年12月4日

がん対策推進基本計画（平成30年3月）

（7）小児がん、AYA世代のがん及び高齢者のがん対策

② AYA世代のがんについて

（現状・課題）AYA世代に発症するがんについては、その診療体制が定まっておらず、また、小児と成人領域の狭間で患者が適切な治療が受けられないおそれがある。他の世代に比べて患者数が少なく、疾患構成が多様であることから、医療従事者に、診療や相談支援の経験が蓄積されにくい。また、AYA世代は、年代によって、就学、就労、生殖機能等の状況が異なり、患者視点での教育、就労、生殖機能の温存等に関する情報・相談体制等が十分ではない。心理社会的状況も様々であるため、個々のAYA世代のがん患者の状況に応じた多様なニーズに対応できるよう、情報提供、支援体制及び診療体制の整備等が求められている。

(取り組むべき施策) 国は、AYA世代のがんについて、小児がん拠点病院で対応可能な疾患と成人領域の専門性が必要な病態とを明らかにし、その診療体制を検討する。

国は、AYA世代の多様なニーズに応じた情報提供や、相談支援・就労支援を実施できる体制の整備について、対応できる医療機関等の一定の集約化に関する検討を行う。

国は、関係学会と協力し、治療に伴う生殖機能等への影響など、世代に応じた問題について、医療従事者が患者に対して治療前に正確な情報提供を行い、必要に応じて、適切な生殖医療を専門とする施設に紹介できるための体制を構築する。

滋賀県がん対策推進計画

全ての県民が、がん対策の主役！

【計画期間】平成30年度(2018年度)～平成35年度(2023年度) 6年間

基本理念

『県民一人ひとりが輝ける健やかな滋賀の実現』
～県民が、がんを知り、がんを予防し、がんになっても納得した医療・支援が
切れ目なく受けられ、自分らしく暮らせる滋賀を目指して～

全体目標

- 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実
- 患者本位のがん医療の実現
- 尊厳をもって安心して暮らせる社会の構築



滋賀県健康づくりキャラクター「しがのハグ&クミ」

計画の4つの施策の柱と目標

1. がんの予防

- ・がんの罹患率の減少
- ・がんが早期発見される

2. がん医療の充実

- ・がんの死亡率の減少
- ・がん治療の向上

4. これらを支える基盤の整備

- ・がん予防・医療・支援の人材が確保が出来る
- ・県民、がん患者・家族、医療保険福祉労働関係者等がそれぞれの立場でがんを考え、がんに向かうことが出来る
- ・がん登録による施策の立案が出来る

3. がんとの共生

- ・がん患者・家族の苦痛の軽減とQOLの改善がされる
- ・がん患者・家族に必要な情報提供がされる
- ・住んでいる地域で望むがん治療が受けられる
- ・がん患者・家族が安心して在宅療養生活を送れている
- ・がん治療と仕事の両立を望むがん患者が支援を受けられる
- ・県民にがん治療と仕事の両立が出来るという認識が広がる
- ・県民にがんと学校生活の両立が出来るという認識が広がる

小児・AYA世代の生殖機能に関すること

2. がん医療の充実

(7)小児がん・AYA(思春期・若年成人)世代のがん対策

分野目標

小児がん、AYA世代(思春期・若年成人)のがん患者の診療・相談の提供体制整備がされる

【具体的施策】

将来子供を持つことを希望するがん患者が、治療前に正確に生殖機能等への影響と治療について情報提供が行われるようにする体制整備を行う。

3. がんとの共生

(5)ライフステージに応じたがん対策

分野目標

生殖機能の温存に関する確実な情報提供

【具体的施策】

県は、滋賀がん・生殖医療ネットワークと協力して、妊孕性温存技量について医療従事者に対して、知識習得と対応のための研修会を開催するなど人材育成に努めます。

滋賀県のサポートシステム

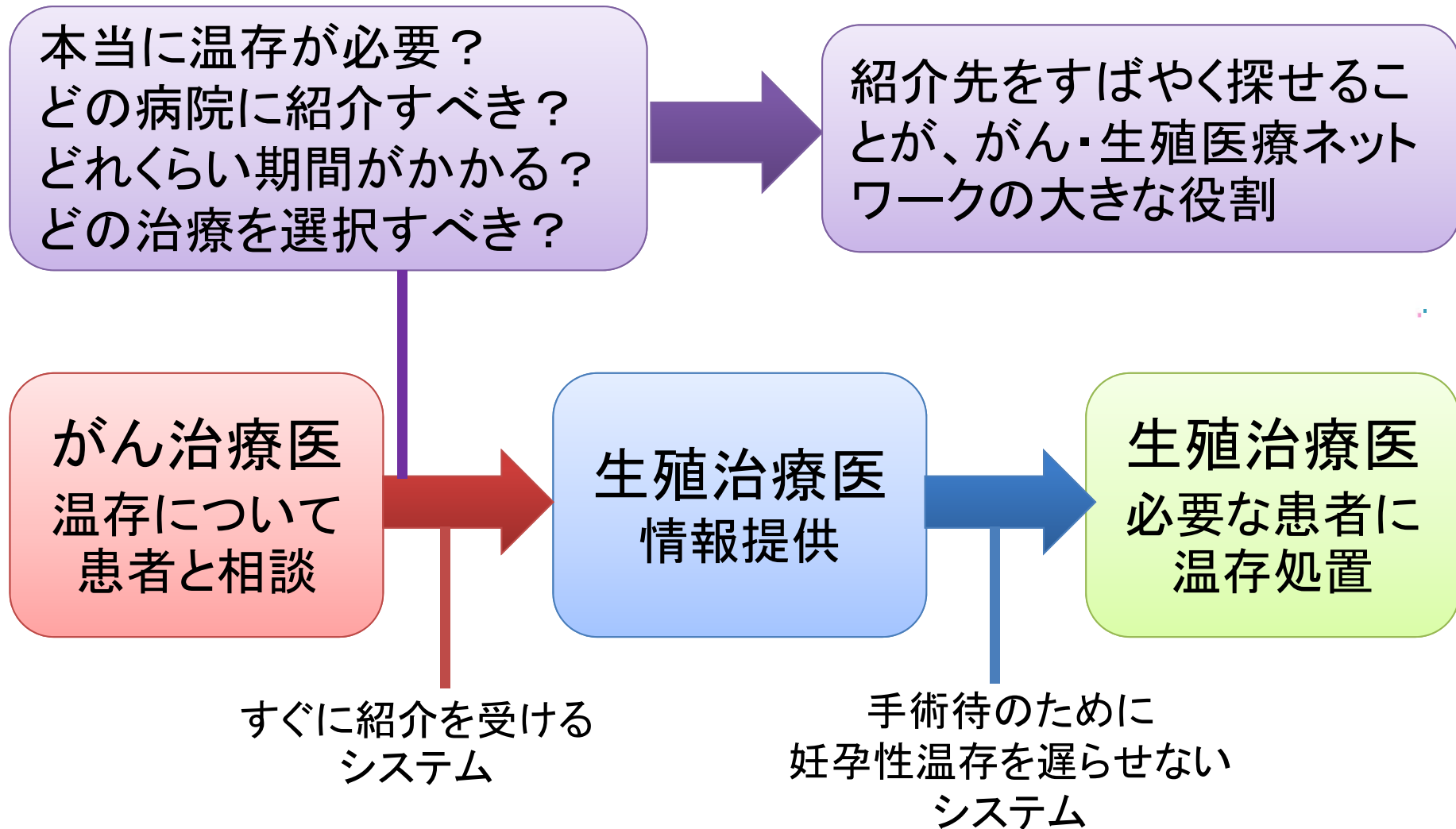


- 滋賀がん・生殖医療ネットワーク
(滋賀県委託事業)
 - ◆ 電話相談事業
 - ◆ ネットワーク内のコンテンツ作成事業
 - ◆ 医療者に対する研修事業
- 滋賀医科大学附属病院
 - ◆ がん妊孕性外来
 - ◆ 麻酔科・手術部との連携
- 滋賀県による患者に対する医療費助成事業

滋賀のネットワーク: OF-Net Shiga

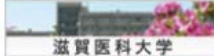
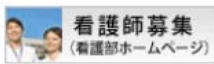
- 2015年7月に発足(滋賀県委託事業:滋賀医大産科婦人科学講座)
 1. 電話相談事業
 - がん治療医療機関からの相談に個別対応
 - 相談窓口:滋賀医大産科婦人科学講座
 - 2016年度:3件(2件が処置)、2017年度:7件(3件が処置)
 2. HP上での情報提供(コンテンツ作成)
 3. 医療者に対する研修事業

患者が妊孕性温存を希望した場合 早急に対応するために





- ホーム
- 教室紹介
- 受診希望の方
- 医療関係者の方
- 学生の方
- 研修医の方
- お問い合わせ・リンク



〒520-2192
 大津市瀬田月輪町
 滋賀医科大学産科学婦人科学講座
 TEL 077-548-2267 (直通)
 FAX 077-548-2406



滋賀医科大学医学部附属
 病院 母子・女性診療科
 外来 TEL 077-548-2576
 病棟 TEL 077-548-2674



トワーク (OF-Net Shiga)

ネットワーク (OF-Net Shiga)



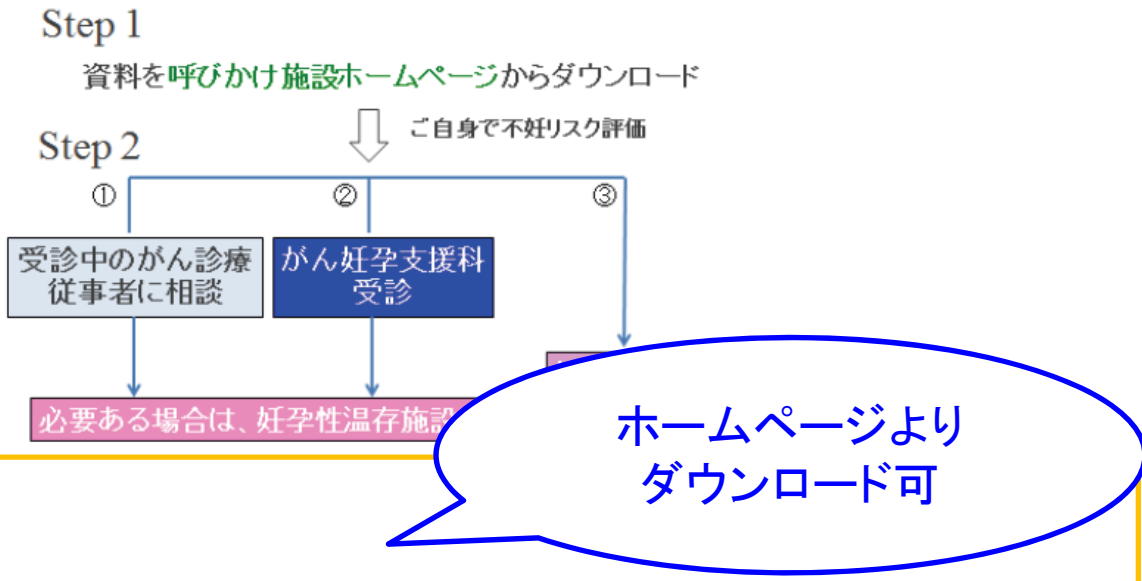
みんなのハートで未来の扉を開こう

- 設立の背景と目的
- ネットワークの概要
- ネットワークの特徴
- ネットワークのご利用方法

がん診療の進歩によりその治療成績は向上し、がんを克服した患者さん（がん生存者）が増えています。これは非常に喜ばしいことですが、その一方で手術、放射線照射、化学療法による影響で妊娠することができなくなり、自らのお子さんを得ることができなくなる患者さんも少なくありません。このことは、がん生存者につきつけられる非常に悲しい現実であり、大きな問題です。

このような中、生殖医療の発展により、がん治療前や治療中に生殖細胞を凍結し、がん治療後に妊娠する力が損なわれた場合の予備として保存しておく試みがなされています。2003年には、悪性腫瘍治療前に卵巣組織の一部を凍結保存しておき、悪性腫瘍治療後、凍結しておいた卵巣を融解し体内に戻し、その卵巣から排卵した卵子により妊娠・出産した患者さんが、世界で始めて報告されました。この分野が、医療として大きく注目されるきっかけとなりました。2014年末までに世界で41人の赤ちゃんが、この方法に

表2. 患者さんが直接ネットワークを利用される場合



- ◆共有する資料
- ①説明用動画
 - ②問診票
 - ③患者用リーフレット
 - ④医療者用リスク分類表
 - ⑤医療者用妊孕性温存のためのアルゴリズム
 - ⑥施設および診療内容一覧

NETがん・生殖医療ネットワーク説明用DVD」の音声入り画像をご用意しました。ダウンロードしてご視聴ください。(ご視聴いただいた方は、ofnshiga@belle.shiga-med.ac.jp までご意見をいただければ幸いです。どうぞ宜しくお願い申し上げます)

患者さん用ダウンロードはこちらからどうぞ

- がん治療と妊孕性について
- 登録施設一覧表
- OF-Net がん・生殖医療ネットワーク説明用画像

がん診療従事者がネットローカルを利用される場合

できるだけ早く生殖医療医を 受診できるシステム

滋賀医科大学附属病院がん妊孕外来

正式名称 :がんや自己免疫疾患などの患者さんの妊孕性温存外来
通称 :がん妊孕外来

診療日時 月曜日から金曜日の 9時から12時まで

診療内容 1件相談に対し1時間から1.5時間

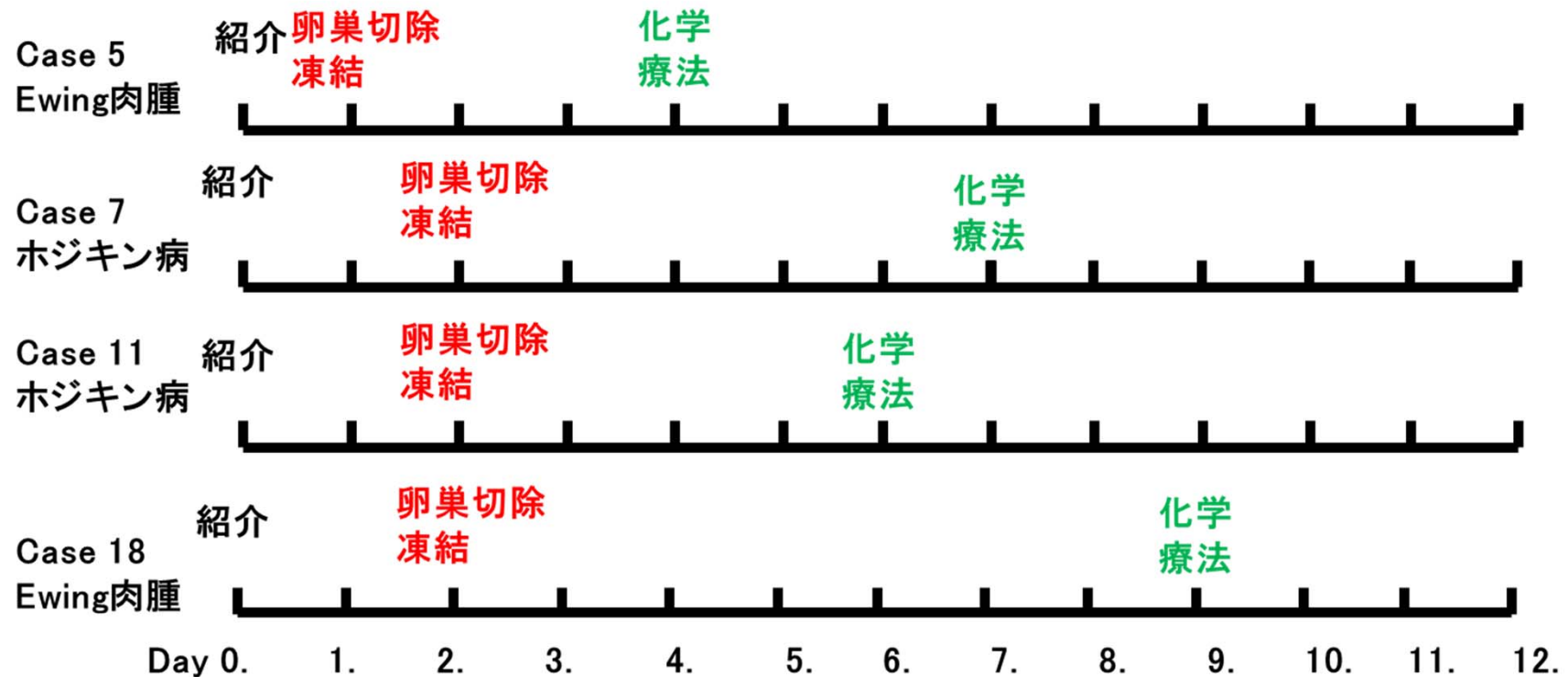
治療による影響や治療方法などにつき詳しく説明

予約方法 電話相談なしでも病診連携を用い受診可能

平成27年6月1日より開設

受診後の迅速な対応

紹介から治療までのタイムスケジュール



急ぐ必要のある症例は麻酔科、手術部の協力で迅速に対応できています

滋賀県の事業：平成28年度開始

医療連携の基盤

H27年7月

「滋賀がん・生殖医療ネットワーク」発足

連↕携

がん患者の妊孕性温存治療事業 H28年度

(1)がん診療従事者の啓発

- ・妊孕性温存の理解を広げる
- ・患者指導を支援する

(2)温存医療の費用助成

若いがん患者の経済的負担を軽減

患者が
・安心・納得のがん治療
・将来、家族をもつ希望を両立



生殖医療医からの説明のうち妊孕性温存の受療に影響を与える因子(患者アンケート結果)

影響を与える因子として割合が高かった因子

- 予定されているがん治療の妊孕性へ与える影響
- 抗がん薬治療の妊孕性へ与える影響
- 卵巣組織凍結保存する際の費用

平成28年度厚生労働省研究

がん生殖医療に対し医療補助が開始された滋賀県における患者の妊孕性温存治療受療に影響を与える事項、および、妊孕性温存療法を受療するがん患者への医療補助に対する医療者の意識に関する調査 研究者 木村文則

滋賀方式 妊孕性温存に対する助成

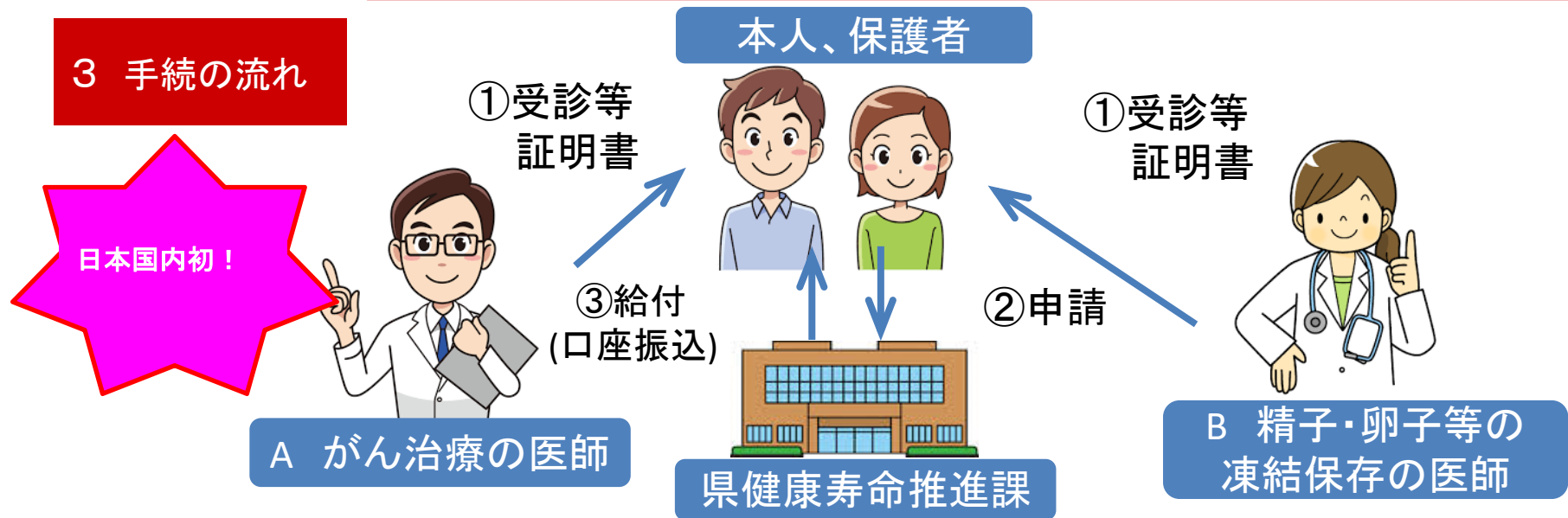
1 助成内容

精子、卵子、受精卵、卵巢組織等の採取、凍結保存等にかかる
保険適用外経費(生涯で1回) 上限:男性2万円、女性10万円

2 対象者

がん治療により子どもができなくなるおそれがあり、
助成内容の処置の時点で滋賀県内にお住まいの43歳未満の人

3 手続の流れ



4 申請先

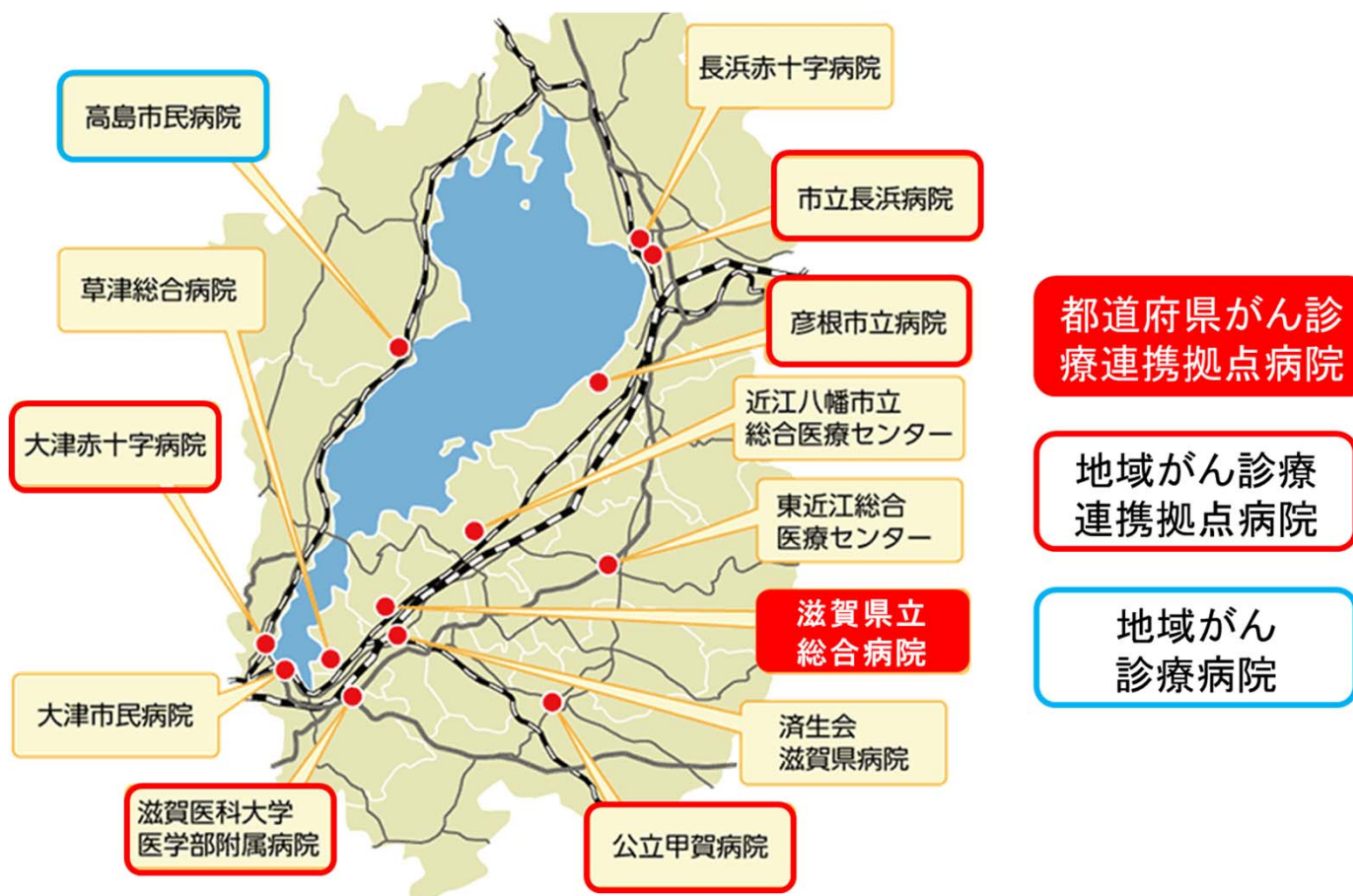
滋賀県健康医療福祉部健康寿命推進課がん・疾病対策係へ郵送

滋賀県の妊孕性温存に対する 助成の実績

- 2016年度
 - ◆ 男性 2例
 - ◆ 女性 7例
- 2017年度
 - ◆ 男性 2例
 - ◆ 女性 5例

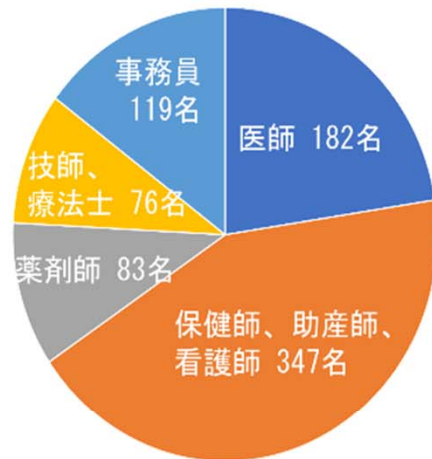
がん医療者への啓蒙

- 平成28年度滋賀県がん患者の妊孕性温存のための普及啓発事業

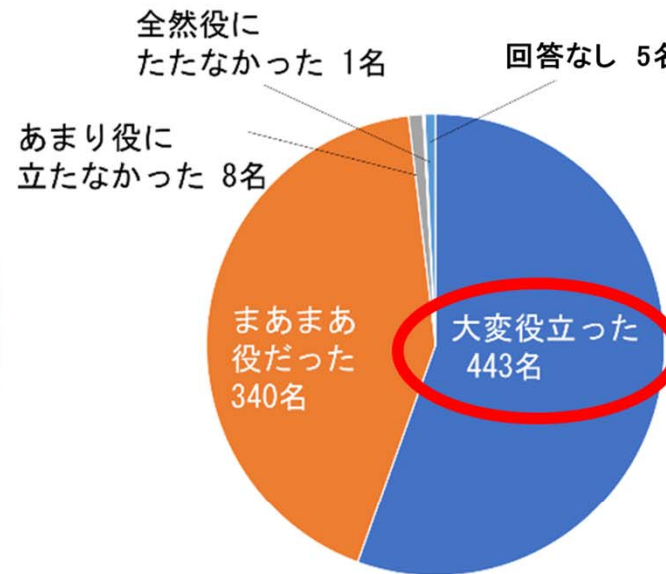


アンケート結果

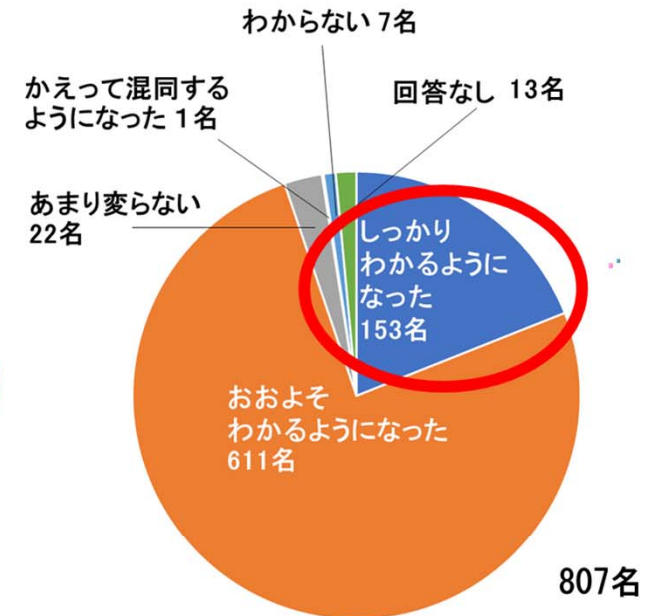
アンケート参加者数



研修会の有用性・満足度



がん患者への対応方法の理解



研修会の内容には満足したが、患者がいた場合に
実際どうすればよいかわからない

さらなる発展のために

- がん患者の妊孕性温存の情報提供にかかるワーキンググループ
 - ◆ 滋賀県
 - ◆ 滋賀県がん診療連携協議会 相談支援部会
 - ◆ 滋賀県がん診療連携協議会 診療支援部会
 - ◆ 滋賀がん・生殖医療ネットワーク
- ① 患者向けリーフレットの作成
- ② 拠点病院での医療者向け研修会

平成30年度医療者向け研修会

- 平成28年度研修会はOF-Net Shigaから講師を派遣
- 平成30年度は各施設のがん診療支援部会員・相談支援部会員を中心に開催
- OF-Net Shigaでベースとなる研修用スライドを作成し各施設に配布
- 各施設で今後の‘取り組み’を検討・発表

当院での取り組み例

- 必要な患者に必要な情報をもれなく届けるために

症状確認表(入院)

あなたのつらさができるだけやわらかくように一緒に考えたいと思います
以下のことについて お聞かせください

記入日 年 月 日

病名

性別 男・女

年齢

科

病室

担当医

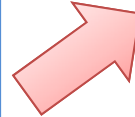
2) 主治医以外の専門家に相談を希望しますか？いずれかに○をつけてください

症状	0	1	2	3	4
痛み	0	1	2	3	4
だるさ	0	1	2	3	4
息切れ(息苦しき)	0	1	2	3	4
咳・痰	0	1	2	3	4
吐き気	0	1	2	3	4
食欲不振	0	1	2	3	4
便秘	0	1	2	3	4
下痢	0	1	2	3	4
悪臭	0	1	2	3	4
不眠	0	1	2	3	4
不安	0	1	2	3	4
気持ちのつらさ	0	1	2	3	4
()	0	1	2	3	4

2) 主治医以外の専門家に相談を希望しますか？いずれかに○をつけてください

	早く相談したい	必要になったら	不要
① 痛みや心のつらさ、睡眠の問題などに対応する医師や看護師			
② 医療費や経済的な問題 → MSW (医療福祉相談員)			
③ お仕事の相談 → MSW (医療福祉相談員)			
④ 治療等の一般的な情報 → 相談支援センター/地域医療連携室			
⑤ 日常生活、これからの過ごし方について → 看護師			
⑥ 将来の妊娠・出産について → 相談支援センター			

3) その他、気がかり



滋賀県の妊孕性温存に関する 情報提供

● がん情報しがHP

The screenshot shows the homepage of the 'Shiga Cancer Information Portal' (がん情報しがHP). The header includes the Shiga Prefecture logo and navigation tabs for Home, Culture, Health, Children, etc. A search bar and utility links are also present. The main content area features a search bar and a '最新日' (Last updated) date of July 23, 2018. A sidebar on the left lists various cancer-related topics. The main content area is titled 'がんとともに生きる' (Living with Cancer) and includes a section for 'がん妊孕性温存治療' (Cancer Pregnancy Preservation Treatment), which is circled in red. Below this, there are sections for 'お子様を望む方が希望をもってがん治療に取り組むために' (For those who want children, to approach cancer treatment with hope) and '相談先' (Consultation locations).

がん情報しがHP

滋賀県のがんに関する情報を集めた、がん情報ポータルサイトです。

更新日：2018年7月23日

がん妊孕性温存治療

- お子様を望む方が希望をもってがん治療に取り組むために

まずはがん治療の主治医にご相談ください

相談先

- ・ がん相談支援センター、がん相談窓口
- ・ 滋賀・がん生殖医療ネットワーク (外部サイトヘリンク)
- ・ 滋賀県

● 滋賀県がん患者妊孕性温存治療助成事業

● 滋賀の療養情報

The image shows the cover of a booklet titled '滋賀の療養情報' (Shiga Cancer Care Information). The cover features a map of Shiga Prefecture and the text 'がんになっても安心して暮らせるように' (So you can live peacefully even if you get cancer). It is the 5th edition ('第5版'). The booklet is published by the '滋賀県がん診療連携協議会 相談支援部会' (Shiga Cancer Care Network Association, Consultation Support Committee).

滋賀の療養情報

—がんになっても安心して暮らせるように—

【第5版】

滋賀県がん診療連携協議会
相談支援部会

今後の取り組み

- 平成30年度研修会の結果集計中
 - ◆ 参加者アンケート
 - ◆ 各施設の今後の取り組みについて報告
- 次年度以降、研修会の効果を検証
- 診療支援部会との連携体制



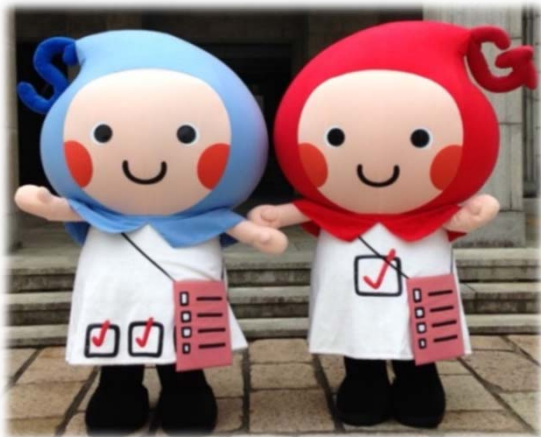
就労支援 その他の情報提供でも連携

最後に

- がん治療開始前に妊孕性温存の希望を拾いあげる
- 妊孕性温存が困難な場合でも、情報を提供することは患者の満足につながる
- 医療者のネットワークは非常に重要

平成30年12月4日（火）
情報提供・相談支援部会

滋賀県の取り組み



「しがのハグ」「しがのクミ」

県民のみなさんへ「健康づくり」をひろめていきます。

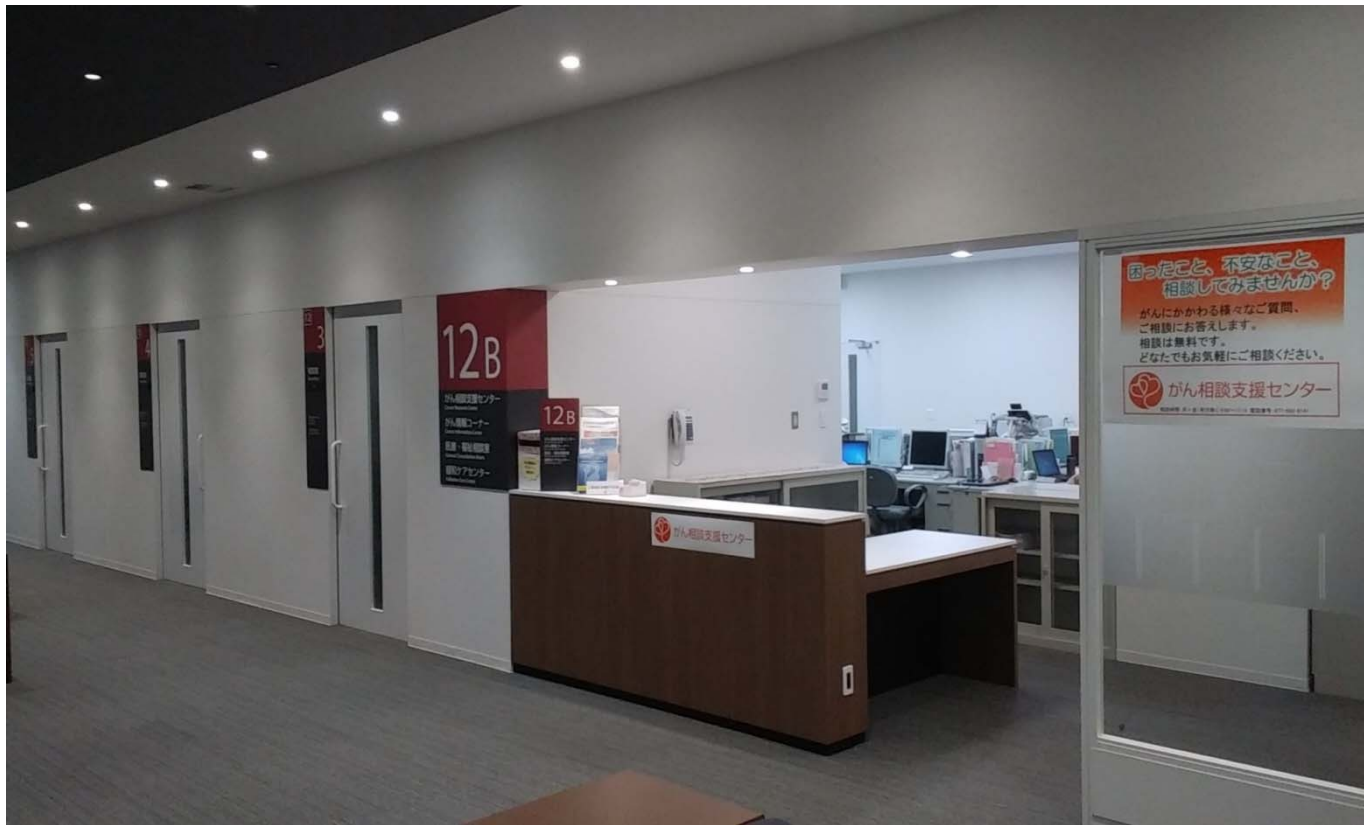
滋賀県立総合病院
がん相談支援センター
岡村 理

がん相談支援センターのご紹介

- ・がん相談支援センター
- ・がん情報コーナー
- ・医療・福祉相談室



がん相談支援センター



がん相談支援センターの体制（平成30年12月現在）

専従認定がん専門相談員	1名（SW）
専任認定がん専門相談員	2名（SW1名、Ns1名）
兼任がん専門相談員	3名（Ns、SW、CP）

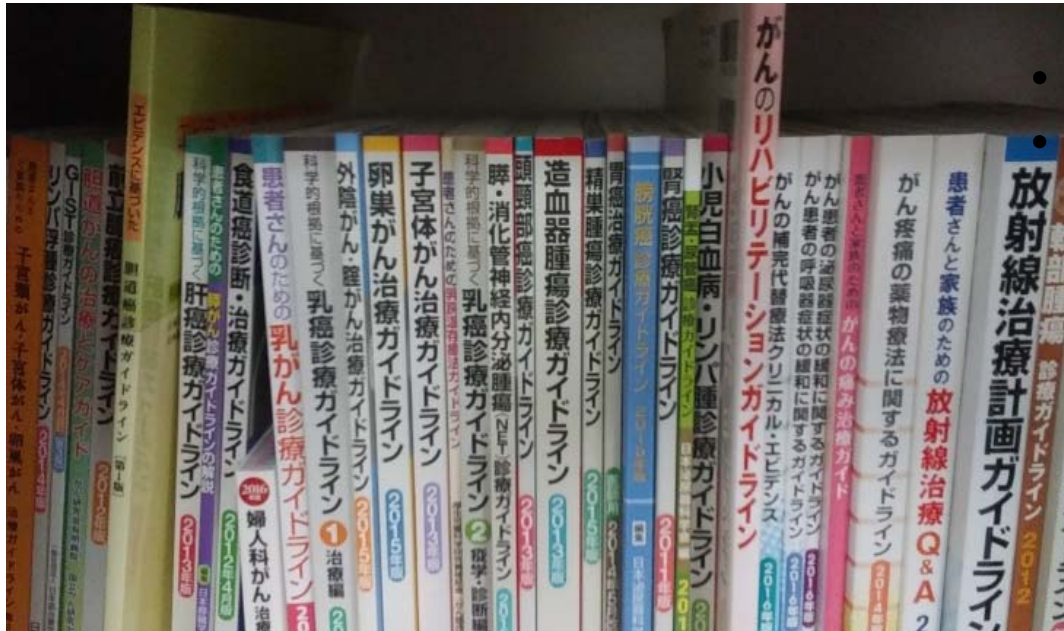
がん情報コーナー

- 各種 がんのパンフレット
- 妊よう性温存に関するパンフレット
- 患者会等の情報
- がん関連イベント開催の案内
- などなど



ゆっくりくつろいで情報を探してもらったり、
読んでいただくための環境も心がけています

がん情報コーナー



- 各がん種の診療ガイドライン
- 患者・家族のためのガイドライン

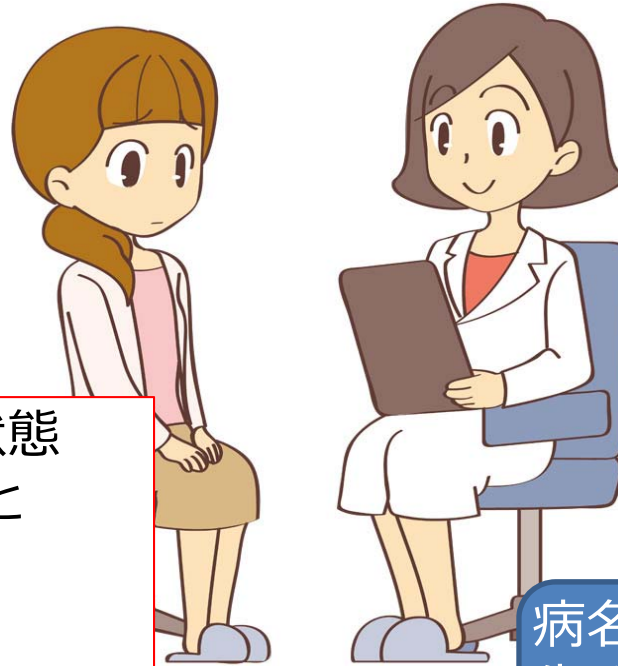


- 闘病記
- がんに関する図書
- がんに関する絵本

新しいシステムを作成した経緯

がん患者の告知後の心理状態

がんであることの受け入れ vs 期を逃さない



告知後の患者さんの状態

- これからの治療のこと
- がんの恐怖
- 将来の不安
- 多様な喪失感
- 不確実性の中での自己決定

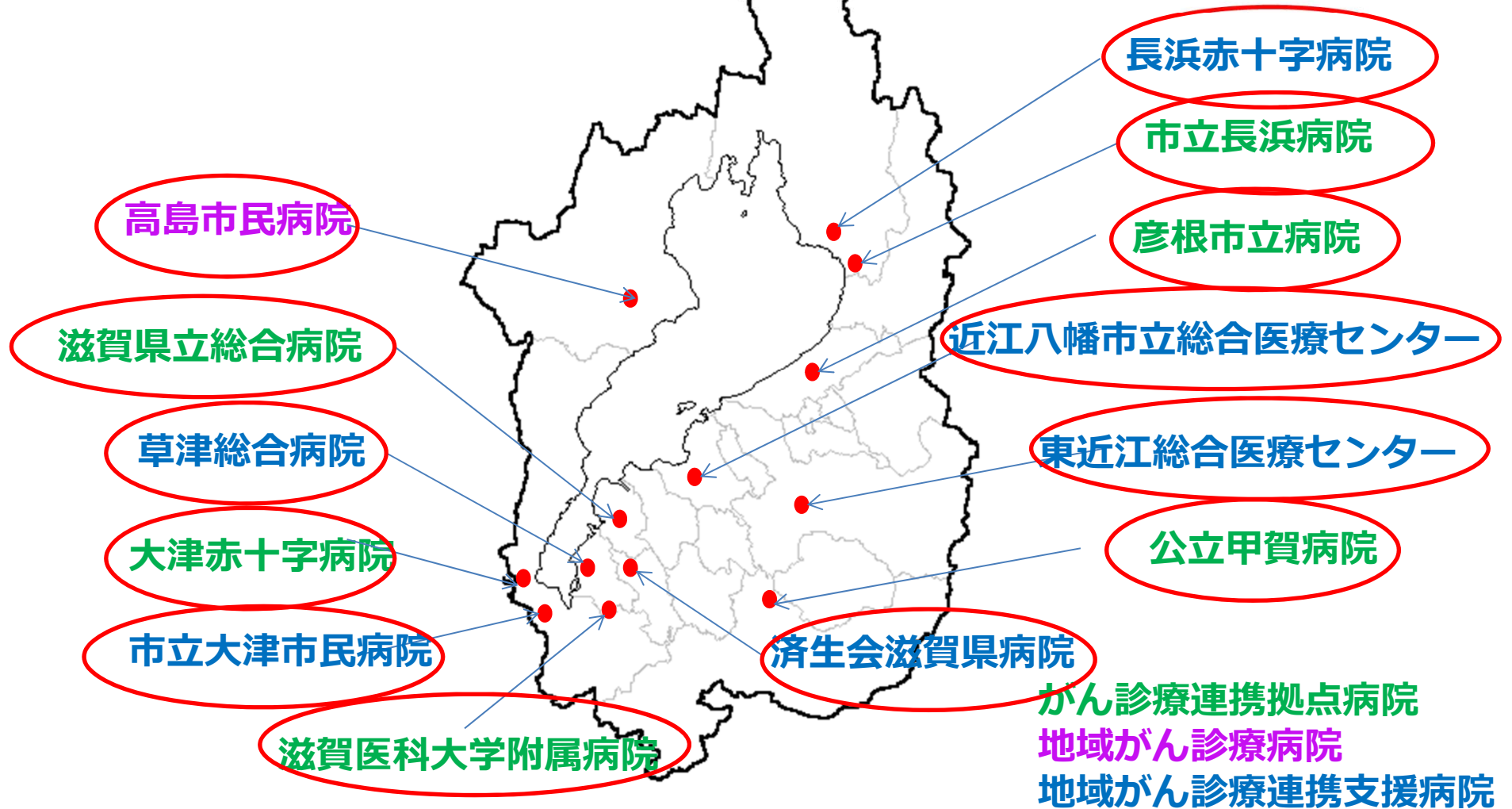
患者さんに将来の妊娠や出産のことまで考える余裕があるのか？

病名告知、治療方法の提示が優先される中で妊よう性温存の情報をいつ伝えるのか？

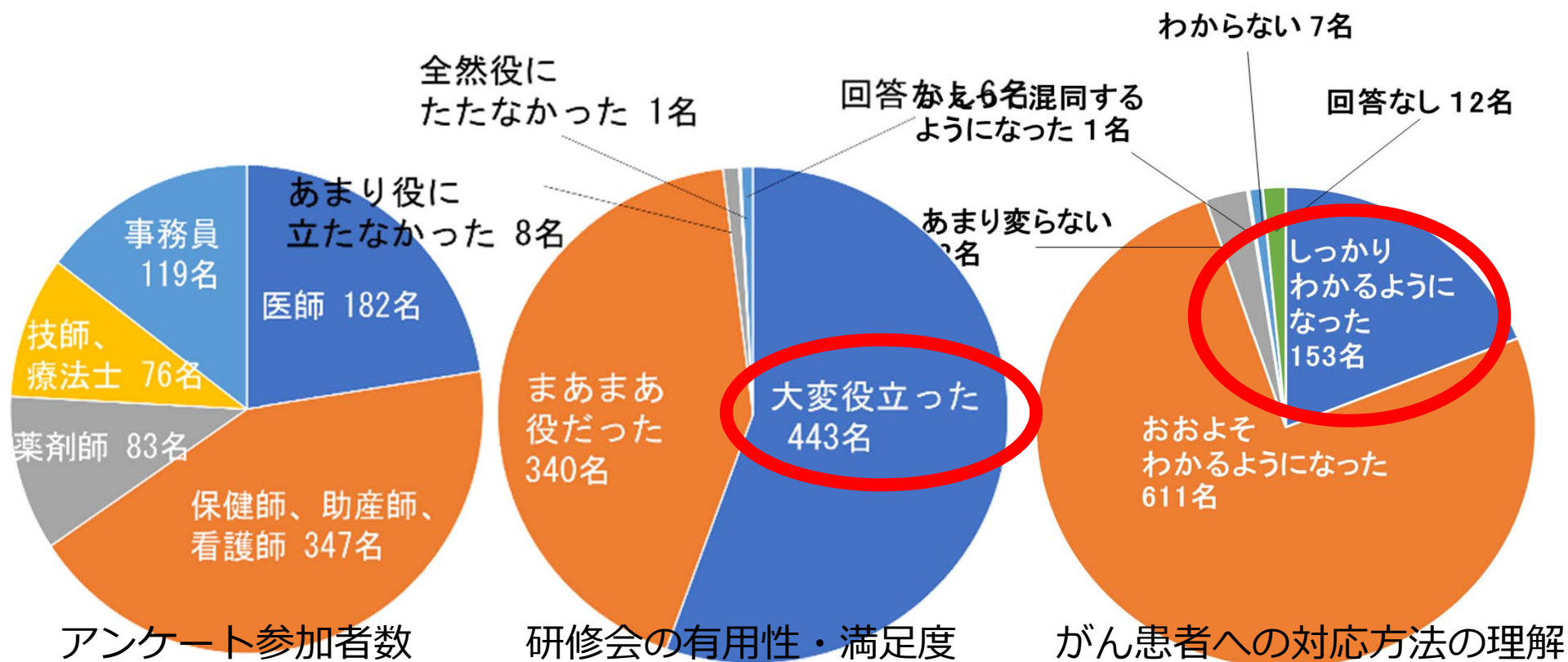
- 患者さんによって考える視点や考えがまとまる時間に差がある
- がん・生殖医療の情報提供は医療者が強要できるものではないが、一方で機会を逃がして欲しくない
- 県内の拠点病院等で医療者が標準的に妊よう性温存に関する情報提供できる体制が必要

平成28年度滋賀県がん患者の 妊よう性温存のための普及啓発事業

各拠点病院、支援病院等のがん相談支援センターが
研修会のコーディネーター



滋賀県事業アンケート調査の結果



807名

研修会の内容には満足したが、患者がいた場合に
実際どうすればよいかわからない

さらなる発展のために

- 患者自身が妊よう性温存について、意思決定をしていく補助を行う
- 患者にとって、医療者にとって単純で理解しやすい

このようなシステムが必要

がん患者の妊孕性温存の情報提供にか かかるワーキンググループ

➤ 滋賀県

➤ 滋賀県がん診療連携協議会 相談支援部会

(相談支援部会長、部会員3名)

➤ 滋賀県がん診療連携協議会 診療支援部会

➤ 滋賀がん・生殖医療ネットワーク

上記のメンバーが集まり、がん患者の妊孕性温存の情報提供にかかかるワーキンググループを結成、新しいシステムを考えました

新しいシステム

- 妊よう性温存に関するリーフレットの作成
(相談支援部会が中心に原案作成)
- 平成30年度中に、がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院、がん診療連携支援病院にて、妊よう性温存に関する研修会を実施
 - －妊よう性温存に関する知識→医師
 - －リーフレットについて・相談窓口の紹介→相談員
- ワーキンググループの作成したリーフレットを主治医、看護師、相談員ががん告知後に患者に手渡しする
- リーフレットを気軽に手にとることが出来るよう各病院がん相談支援センターや院内のパンフレットラック等に配置する

作成したリーフレットについて

- リーフレットは、「がん情報しが」よりダウンロードできます

がん情報しが > がんとともに生きる > がん治療をはじめると将来子どもを持ちたい

<http://www.pref.shiga.lg.jp/e/kenko-j/gan/ninyousei.html>



医療費助成について

滋賀県では、がん患者ご本人の妊よう性温存処置に対する助成制度が受けられます。

妊よう性温存の処置を受ける時点で滋賀県内にお住まいの43歳未満の方が対象です。

詳しくは、がん相談窓口までお問い合わせください。

※滋賀県以外にお住まいの方も都道府県によっては利用できる助成制度があります。

詳しくは

がん情報がHP



もっと詳しく知りたい方へ

治療の妊娠出産への影響を詳しく知りたい

かかる期間や費用は？



自分の場合の妊よう性低下のリスクを知りたい

妊よう性を温存する方法を詳しく知りたい

等々、ご心配なことがありましたら、がん相談窓口にご相談いただくか、以下のホームページなどをご参照ください。各種資料などのダウンロードもできます。



インターネット

①滋賀がん・生殖医療ネットワーク (OF-Net Shiga)

②日本がん・生殖医学学会 (JSFP)

③小児・若年がんと妊娠HP



どこで相談できるの？

まずは、ご自身の担当医やがん相談窓口にご相談ください。

滋賀県内のがん相談窓口一覧

医療圏	施設名	名称/連絡先
湖南	滋賀県立総合病院	がん相談支援センター 077-582-8141
	草津総合病院	がん相談支援センター 077-516-2511
	済生会滋賀県病院	がん診療支援センター 077-552-1221
大津	滋賀医科大学 医学部附属病院	がん相談支援センター 077-548-2859
	大津赤十字病院	がん相談支援センター 077-522-4131
	市立大津市民病院	患者総合支援センター 患者相談支援室 077-522-4607
甲賀	公立甲賀病院	がん相談支援センター 0748-65-1641
東近江	近江八幡市立総合医療センター	患者総合支援課 0748-33-3151
	東近江総合医療センター	がん相談支援室 0748-22-3111
湖東	彦根市立病院	がん相談支援センター 0749-22-6050
湖北	市立長浜病院	がん相談支援センター 0749-68-2354
	長浜赤十字病院	がん相談窓口 0749-68-3389
湖西	高島市民病院	がん相談支援センター 0740-36-0220

2018年8月 作成

これからがん治療を受けられる若い皆さんに知ってほしい

がん治療と妊娠・出産について

将来お子さんを希望されるがん患者ご本人・ご家族へ



滋賀県
滋賀県がん診療連携協議会
診療支援部会
相談支援部会
滋賀がん・生殖医療ネットワーク



はじめに

このリーフレットには、妊よう性温存についての基本的な事柄が書かれています。

患者ご本人が、パートナーやご家族、ご自身の担当医、生殖専門医と十分に話し合い、選択していただける手助けとなれば幸いです。

がん治療と妊よう性

妊よう性とは

妊よう性とは、男女問わず「妊娠する力」のことを言います。

がん治療と妊よう性

がんの治療による影響で、治療中だけでなく治療後も、自らの力で子どもを持つことが難しくなる場合があります。

ただし、がん治療すべてに妊よう性低下のリスクがあるわけではありません。ご自身のリスクについては、がん治療医にご確認ください。

妊よう性の温存について

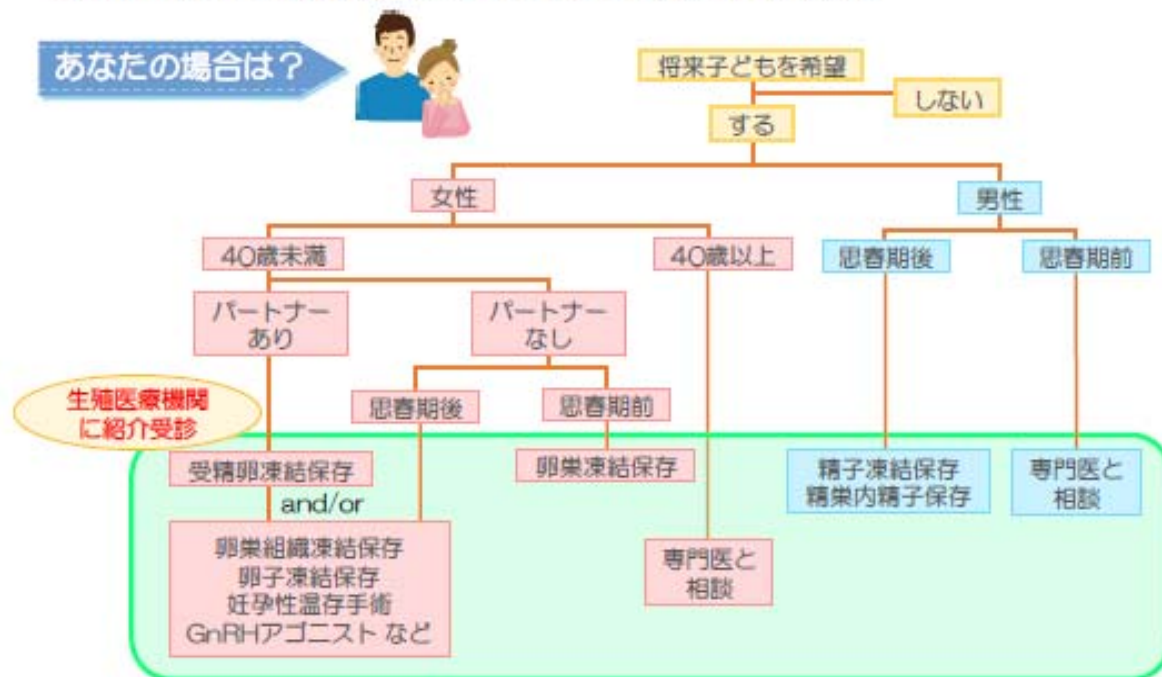
最近では生殖医療の進歩により、妊よう性を温存しながら、がん治療に取り組むことが可能になりつつあります。

がんと診断されて頭や気持ちがいっぱいかもしれませんが、少し立ち止まって、将来お子さんがほしいかどうか、考えてみたり、大切な人と話し合ってみませんか。

妊よう性温存を希望される方へ

妊よう性温存の治療のために、適切ながん治療を行わなかったり、がん治療を遅らせることは望ましくありません。妊よう性温存の治療を行う場合でも行わない場合でも、適切ながん治療を行ってから、妊娠・出産をすることが大切になります。

あなたの場合は？



温存方法の比較

女性			男性	
卵子凍結	受精卵凍結 (胚凍結)	卵巣凍結	精子凍結	精巣凍結 ※研究段階
採取した卵子を凍結します	採取した卵子を精子と受精させ凍結します	手術により卵巣組織を採取し凍結します	射精した精子を凍結します	手術により精巣組織を採取し凍結します
対象年齢や処置にかかる期間など詳しくは生殖医療機関やがん相談窓口にご相談ください。				



先ずはご連絡ください

がん相談支援センター

TEL : 077-582-8141

Mail : gansoudan@mdc.med.shiga-pref.lg.jp

受付時間 月～金（祝日・年末年始除く）9:00～17:15

〒524-8524

滋賀県守山市守山五丁目4番30号

滋賀県立総合病院

新館1階 12患者サポートセンターラウンジ内

JR東海道線守山駅より 徒歩・バスにて

HP : <http://www.pref.shiga.lg.jp/e/seijin/>



滋賀県立総合病院は厚生労働省指定の「都道府県がん診療連携拠点病院」です

ご清聴、ありがとうございました

本日の内容

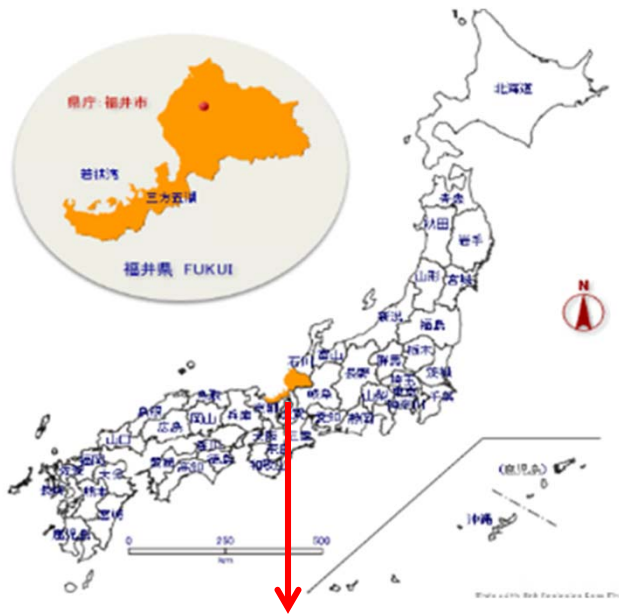
3. がん情報提供・相談支援をめぐる施策の動向

- (1) 今回の改正の要点とその背景
- (2) 新整備指針で新たに触れられた役割への対応状況
事前アンケート結果の概要
- (3) がん妊孕性医療の動向とネットワークについて
- (4) 都道府県内の連携体制の好事例
がん生殖医療との連携
AYA世代サロン～ゆるっと話そう会～について
福井県立病院 吉川 淳様
- (5) 部会としての今後の取り組みについて（ディスカッション）



AYA世代サロン ～ゆるっと話そう会～

福井県立病院
がん医療センター長・副院長 吉川 淳



あらかじめ、
幸せだったらいいな。

幸せ度
いちばん
福井県

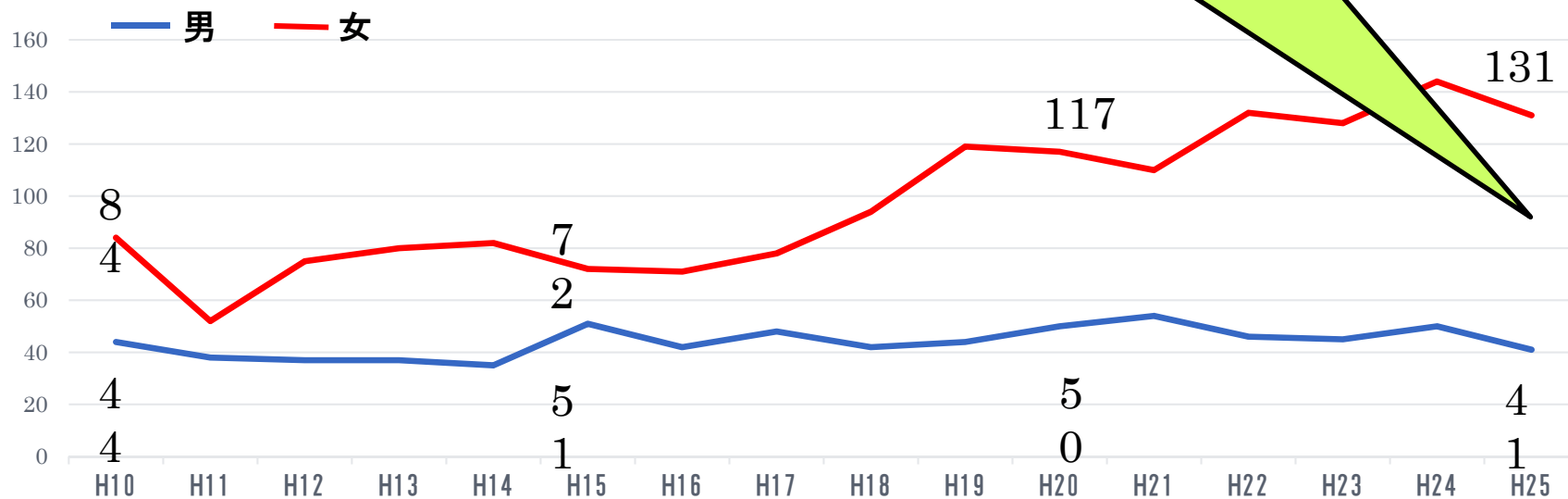


福井県立病院 880床
陽子線がん治療センター こころの医療センター併設

AYA世代がん罹患患者数の推移（福井県）

AYA世代（15-39歳）罹患患者の推移（性別） 上皮内がんを含む

男性131人・女性41人



出典 福井県がん登録

平成25年 男性41人(1.3%) 女性131人(5.2%) 計172人 (2.9%)
 全国 (2.5%)



AYA世代がん罹患者さんの課題

- 他世代に比べて患者数が少なく、疾患構成が多様。
医療従事者に診療や相談支援の経験が蓄積されにくい。
- 年代による就学、就労、生殖機能等の状況が異なる。
患者視点での教育、就労、生殖機能の温存等に関する情報・相談体制が十分ではない。
- 心理社会的状況も様々。
- 個々のがん患者の状況に応じた提供・支援体制および診療体制の整備が必要。



AYAサロン開催の動機

- 国・県のがん対策推進計画において、AYA世代の支援強化が施策として盛り込まれた。
- 当院がん看護専門看護師のAYA世代への思い
 - AYA世代のがん患者に関する研究経験有
 - AYA世代の患者さんより、同世代の人たちと話がしたいという希望。
 - がんサロンに講師として参加、AYA世代サロン必要性を自覚、相談員と共有していた。

AYAサロンの目的

同じ経験を持つ仲間と、悩みや思いを話し合うことで、病気を乗り越え、希望ある社会生活を送るヒントをつかめる機会とする。

【企画】

がん看護専門看護師

ピア・サポーター

がん相談員

県庁地域医療連携推進室

企画・アドバイザー

体験から助言

企画・広報

広報



AYAサロンの内容

がん相談支援センターが定期的に行っている
「がんサロン：きねの」のひとつとして実施

- お茶を飲みながらのフリースタイル
アドバイザー（がん看護専門看護師）・ピアサポーターが話題を提供。
- 会場の環境整備
テーブルクロスや花など話やすい環境づくりに配慮
話し合うきっかけづくりに、アピアランスケア用品やパンフレットを置く。

AYAサロンの広報

- 新聞社に事前掲載を依頼
- 当院HP、福井県HP、相談員ワーキングで他がん拠点病院に周知
- 院内関係病棟にチラシ配布、外来テロップ



~サロン「きねの」~

~AYA(あや)世代 思春期、若年成人のがん患者さんへ~
ゆるっと話してみようかい

日時：2018年5月24日(木)
13時~14時30分

**場所：福井県立病院 がん医療センター
カンファレンス室**

アドバイザー：がん看護専門看護師 玉村尚子

AYA(あや)とは
Adolescent and Young Adult (アドレッセント、アンド、ヤング、アダルト)の略で「思春期と若年成人」という意味

15歳以上40歳未満のがん患者
(上記年齢中にがんになった方、治療終了後のがん患者、AYA世代にある小児がん経験者も含む)

日本では、AYA世代の若者が、がんになるのは 毎年5,000人

日本で毎年がんになる人は100万人とされているから、AYA世代のがん患者がどれだけの少ないかわかると思う

就学、就職、結婚、卒業、結婚、出産など 人生のターニングポイントとなる様々な出来事と向き合う機会がこれからたくさんある

どう生きていこうか、どうしていけばよいのか、いっしょに悩める方がたくさんいます

ここがどう思える場所にぜひ来い!

問い合わせ先 福井県立病院 がん相談支援センター
0776-54-5151 (内線 S100)
担当 橋岡 (おにほら)

AYAサロンの様子

2018年5月24日

男性2名・女性5名の参加

10代 1名 20代1名 30代4名 40代1名



AYAサロンの様子

2018年5月24日

男性2名・女性5名の参加

10代 1名 20代 1名



AYAサロンの様子

2018年11月29日

男性3名・女性3名の参加

10代0名 20代1名 30代5名 60代2名（家族）



話し合いの内容

治療と仕事の両立について

- 再発したら仕事を辞められるという不安。
- 会社の理解がないかぎり、治療と仕事の両立は困難。
- 体調が悪くても休んだら辞めさせられるのではないかと思います、無理をして出勤する。
- 社内では、上司にしか病名は話していない。
- 社内では、周囲の人に話しており、みんなが病気のことを理解してくれたので、働きやすい。
- 病院側が会社側に病気や今後の治療のことを説明すれば、雇用を継続しやすいのではと思う。

AYA世代サロン参加者の感想

- 普段は、周りの人と深く病気の話をする事がないので、とても気持ちが楽になった。
- 娘のことを思うと涙が出る。同じ悩みを持った人と話し、気持ちが楽になった。
- 乳がんで通院しているが、人に会うことで生きる勇気や希望をもらえてよかった。先のことを考えるより明日を元気に過ごしたい。
- 男性がいたため、聞きたいことが聞けなかった。
- 年代的に働いている人も多く、夜開催すると参加しやすいのではないか。



考察と反省

- 子育て中の女性に配慮して、開始時刻を設定したが、日中働いている男性は、夜の方が参加しやすいという意見。
- 治療と仕事の両立などは、男女共通の悩みのため、意見が活発に出たが、性別の悩みなどは男女別のサロンの必要性。
- アピアランスの用品を置くことで、女性の会話ははずんだが、男性が会話に入れない傾向。
- 新聞社や関係職員が同席していたため、参加者に圧迫感。

今後の方向性

- 参加者のニーズに合った内容と設定。
ナイトサロンの実施、男性・女性別の設定、会場設定
- 看護協会など多施設、機関と連携して継続開催
県立病院（対象者に直接声をかけることができる）
県看護協会（受診病院に関係なく集まりやすい）
5月 6月 8月 11月 1月 （年5回）
- 広報の工夫（講演会、マスメディアとの連携）
- 見学者が参加者に圧迫感を与えない配慮の実施



本日の内容

3. がん情報提供・相談支援をめぐる施策の動向

- (1) 今回の改正の要点とその背景
- (2) 新整備指針で新たに触れられた役割への対応状況
事前アンケート結果の概要
- (3) がん妊孕性医療の動向とネットワークについて
- (4) 都道府県内の連携体制の好事例
がん生殖医療との連携
AYA世代サロン～ゆるっと話そう会～について
- (5) 部会としての今後の取り組みについて（ディスカッション）**

新整備指針に基づいた、がん相談支援センター PDCA実施状況チェックリストの更新の提案

【背景】

- H29年度に、「がん診療連携拠点病院等の指定要件に関するWG」への提言を検討するためのワーキンググループで、提言案を作成し、部会として（親会を経て）厚生労働省に提出した
- その中で、がん相談支援センター活動指標を提案したが、整備指針には反映されなかった
- 本部会に先立つ拠点病院向けアンケートにおいては、各都道府県においてチェックリストが策定・更新されている

【提案】

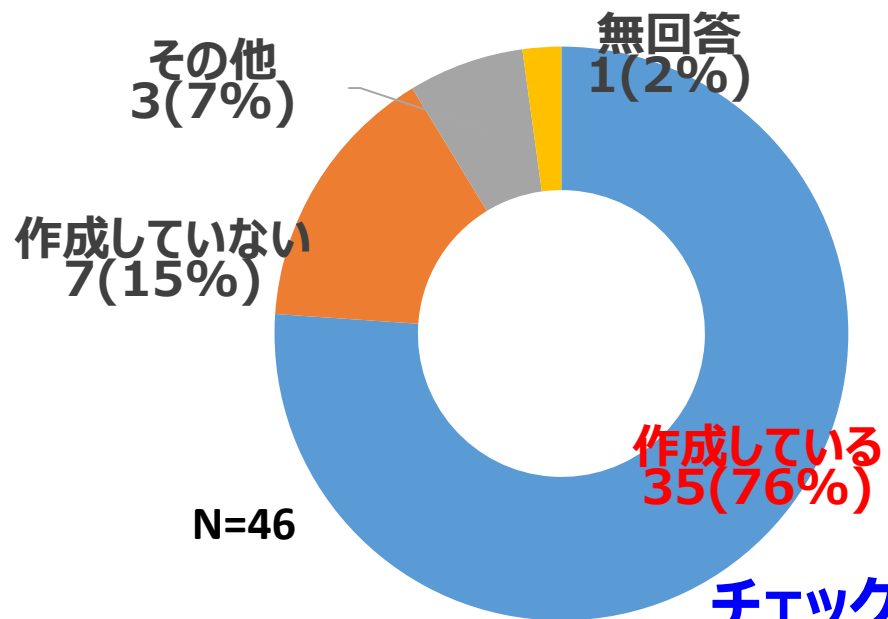
- 全国のがん相談支援センターが共通して取り組むべき方向を確認するため、第5回部会において合意された「がん相談支援センターPDCA実施状況チェックリストの骨子」について、現状と新整備指針を踏まえて、改訂を行ってはどうか。
- 改訂を行うにあたっては、参考資料として、現状の各都道府県におけるチェックリストを資料として収集し、新整備指針への提言をとりまとめたワーキンググループメンバーに継続して検討を依頼してはどうか。

がん相談支援センター指標骨子

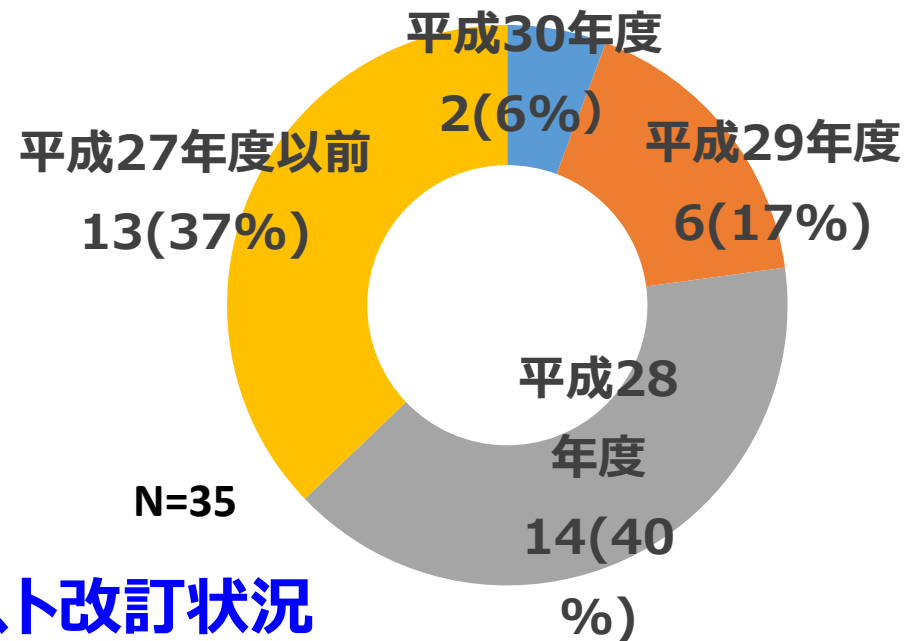
<目標の整理と対応する指標について>

アウトカム			プロセス		測定指標		構造	施策
患者・家族・市民			がん相談支援センター		測定関連指標	調査関連	体制	整備指針の内容
最終目標	準最終目標	必要な条件	必要な条件・状態	実施状況の例示				
困っている患者・家族が減る	頼りにできる人・相談の場がある	相談の場があると感じる人が増える	その人にとってアクセスしやすい相談場所・相談の入り口がある	<ul style="list-style-type: none"> センターの窓口をわかりやすく提示した センター外で出張がん相談を行った ヒアポートの場をつくった ... 	院内・院外での相談対応件数	【住民調査】 【患者体験調査】「相談の場がある」の回答割合	相談ブース数 プライバシーの保てる部屋数 電話回線数 直通電話の有無 相談員数 ...	必ず「がん相談支援センター」と表記する
		相談支援センターの役割を知っている人が増える	多様な相談先がある	複数の相談場所がある				
		患者が孤立しない	情報や助けを求めている人に気づく人が増える	<ul style="list-style-type: none"> 案内を個別に配布している 	担当医から紹介された相談件数	(【医療者調査】相談支援センター認知度、有用度)	(拠点病院であることの広報)	④主治医等から、がん患者及びその家族に対し、周知が図られる体制を整備する

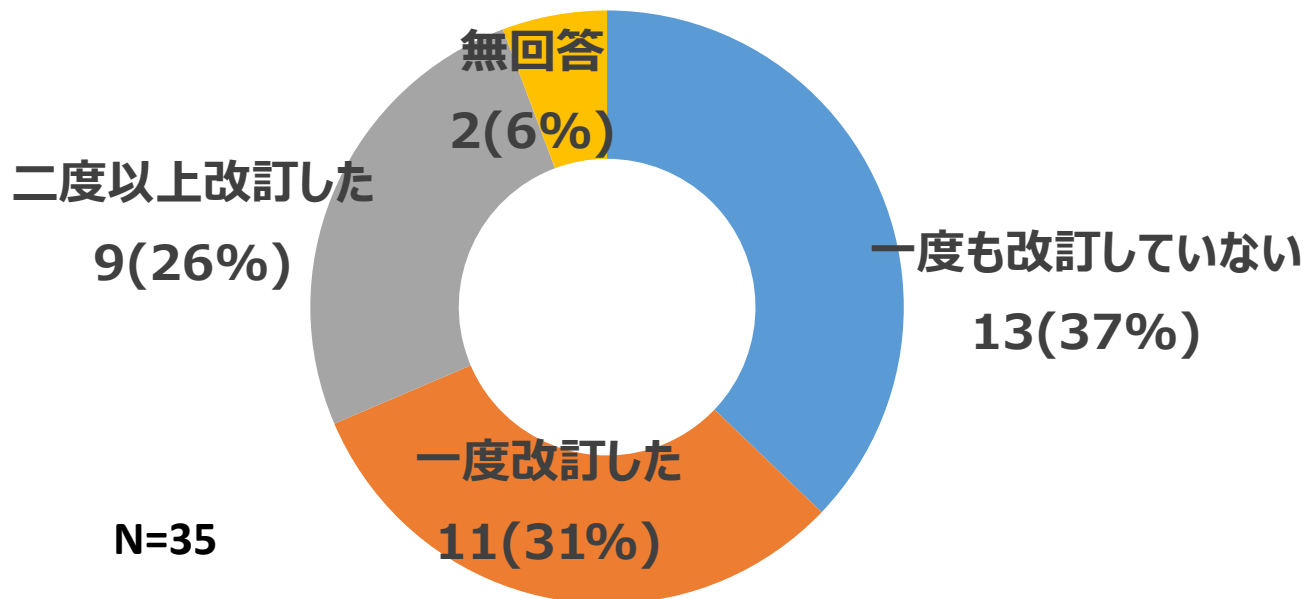
PDCAサイクルの チェックリスト作成状況



チェックリスト初版 作成時期



チェックリスト改訂状況



都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会設置要領

(ワーキンググループ)

第4条 部会長は、部会の円滑な運営を図るため、必要と認めるときは部会にワーキンググループを設け、グループ長及びグループ委員を指名することができる。

2 ワーキンググループは、グループ長及びグループ委員を指名することができる。

3 グループ長は、ワーキンググループを主宰する。

4 グループ長は、検討した結果を部会に報告し、了承を得る。

本日の内容

4. がん対策情報センターおよび各県・ブロックからのお知らせ

(1) 地域相談支援フォーラム開催報告および開催予定

青森県立中央病院	成田富美子様
福島県立医科大学附属病院	齋藤慎也様
千葉県がんセンター	中村晃子様
宮崎大学医学部附属病院	高山晶子様
茨城県立中央病院	馬込ひろみ様
兵庫県立がんセンター	橋口周子様

(2) 災害対策について

(3) 件数カウントの導入状況と新指針を踏まえた変更案について

(4) 「療養に関する情報の探し方」公開のお知らせ

(5) 平成30年度相談員研修・国立がん研究センター認定事業について

(6) がん相談支援センターと地域の図書館等との連携について

(7) 日本癌治療学会認定がんナビゲーター制度について

開催報告

北海道青森 地域相談支援フォーラムin青森 テーマ「地域・多職種との連携・協働」



平成30年9月22日(土)ねぶたの家 ワラッセ イベントホール

青森県立中央病院

がん相談支援センター 成田富美子

開催概要

目的

がん等に関する相談支援実務を担当している者に対し、がん相談支援に係る具体的事例を紹介することにより、北海道・青森における相談支援実務者の能力の向上及び均てん化を図り、もって、がん患者やその家族等の支援に資すること

主催

北海道がん診療連携協議会相談・情報部会
青森県がん診療連携協議会相談支援部会

日時 場所

平成30年9月22日(土) 14:00～17:00
ねぶたの家 ワラッセ イベントホール

後援

—

実行委員会

平成30年2月

- 北海道部会、青森県部会それぞれで、地域相談支援フォーラムの目的、開催地、開催日、実行委員、連絡調整窓口担当者決定

平成30年6月

- 第1回実行委員会（北海道実務者会議の場を利用）
- 目的、開催日時、開催場所決定

「初めての開催なので、両県の連携に関わる取り組み状況を知りたい。」

以降～

- 各部会での検討内容を窓口を介して、電話やメールで情報共有、役割分担し準備

9月 6日3時7分 北海道胆振東部地震発生

9月 7日 ~~発表者スライド提出締切~~ 延長

9月10日 フォーラム開催決行を決定

9月22日(土) 当日プログラム

14:00 開会挨拶	青森県がん診療連携協議会 相談支援部会 部会長 丹野 弘晃 (十和田市立中央病院 院長)
14:05 講演	テーマ「地域医療のパラダイムシフトの到来とがん相談員に望むこと」 青森県がん診療連携協議会会長 吉田 茂昭 (青森県立中央病院 事業管理者) 座長 北海道がん診療連携協議会会長 加藤 秀則 (北海道がんセンター 院長)
14:45 実践報告	テーマ「化学療法チームと相談支援センターとの連携・協働」 北海道がんセンター がん化学療法看護認定看護師 高橋 由美 座長 北海道がん診療連携協議会相談・情報部会長 永森 聡 (北海道がんセンター 副院長)
15:25 パネルディスカッション	テーマ「地域との連携・多職種との連携」 座長 青森県がん診療連携協議会相談支援部会長 丹野 弘晃 (十和田市立中央病院 院長) 「患者会活動に参加して」 市立函館病院 新井山 ちづる 「就労、ピアサポート、地域機関との橋渡し」 日鋼記念病院 山本 亮 「弘前市立図書館との連携」 弘前大学医学部附属病院 青木 広美 「がんリンクナースとがん相談支援センターとの連携・協働」 八戸市立市民病院 佐藤 美穂
16:50 閉会挨拶	北海道がん診療連携協議会会長 加藤 秀則 (北海道がんセンター 院長)

参加者内訳

総数76名(うち がん相談支援センター所属 34名)

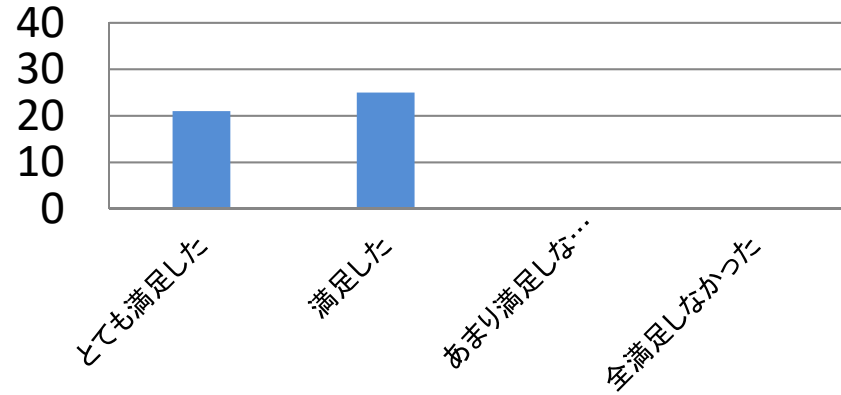
職種別	人数
福祉職	28
看護職	32
医師	8
その他病院職員	2
労働局	3
行政	1
がん対策情報センター	2

都道府県別	人数
北海道	28
青森県	41
秋田県	4
福島県	1
その他	2

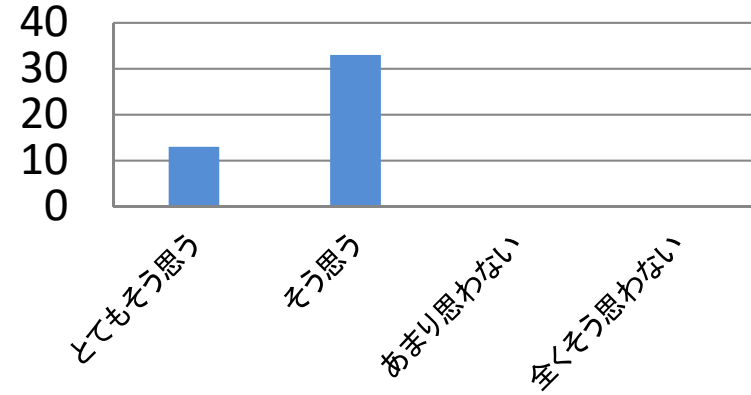
アンケート結果

参加者	76名
アンケート回収	46名
回収率	60.5%

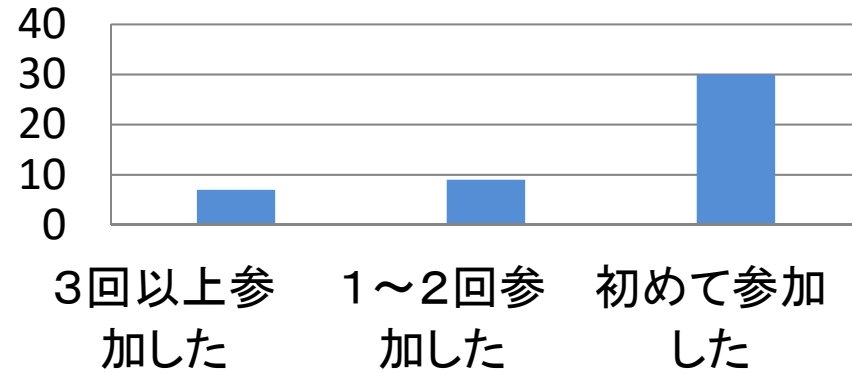
参加して満足したか



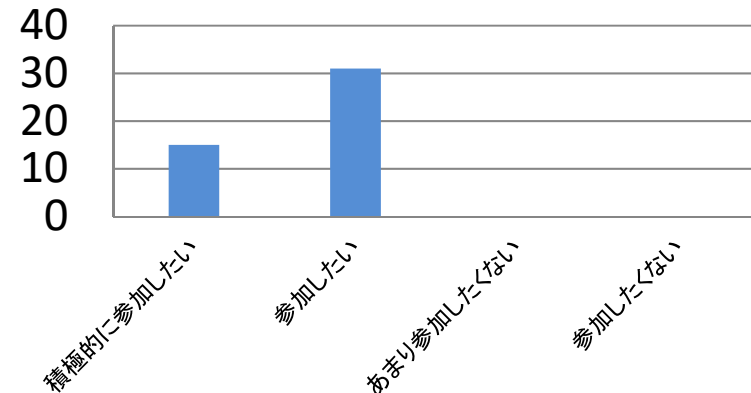
今度の活動に役立つか



過去のフォーラム参加回数



今後のフォーラム参加希望



アンケート結果（自由記載まとめ）

- 他県の相談支援センターの情報や取り組みが聞けて参考になり良かった
- 今後もこのような機会があれば参加したい
- このフォーラムのような各がん相談支援センターの活動（周知活動も含めて）や取り組みを報告し合う機会が増えるとよい
- 来年の北海道開催が楽しみ
- 休憩時間が少ない
- がん相談に従事する人が多く参加していて、よい交流になった。

学びと今後の課題

北海道と青森の相談支援の実際、取組みについてお互いを知る良い機会となった。

今回のフォーラムは「連携」がキーワードであったが、今後も「連携」をメインテーマに両県相談部門が共催する機会を増やし、相談員のネットワークの強化を図る。そして、相談員同士の絆の深め、北海道青森から北海道東北への拡大を目指す。

開催予告

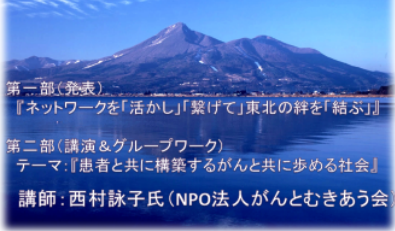
平成31年度
北海道青森地域相談支援フォーラムin北海道

開催日 未定
開催地 北海道

平成30年度 地域相談支援フォーラムin福島開催報告

平成30年度
地域相談支援フォーラムin福島

「患者と共に構築するがんと共に歩める社会」
～「Access to Information」とその先にある「Life」～




第一部(発表)
『ネットワークを「活かし」「繋げて」東北の絆を「結ぶ」』

第二部(講演&グループワーク)
テーマ:『患者と共に構築するがんと共に歩める社会』
講師:西村詠子氏(NPO法人がんとむきあう会)

日 時:平成30年11月17日(土) 10:00~17:00
場 所:コラッセふくしま 4階多目的ホール
対象者:主に東北地方でがん相談に携わる方

【主催】
福島県がん診療連携協議会相談支援部会
【共催】
国立がん研究センターがん対策情報センター
東北がんネットワークのからむ患者支援推進委員会
東北がん診療連携協議会患者支援部会
【後援】
岩手県、秋田県、宮城県、茨城県、山形県
【お問合せ先(事務局)】
福島県立医科大学附属がん相談支援センター
電話:024(547)1088(直通)



患者と共に構築するがんと共に歩める社会
～「Access to Information」とその先にある「Life」～

日時:平成30年11月17日(土) 10:00~17:00

場所:コラッセふくしま 4階多目的ホール

福島県がん診療連携行議会相談支援部会
福島県立医科大学附属病院

斎藤 慎也

開催概要

テーマ：患者と共に構築するがんと共に歩める社会
～「Access to Information」とその先にある「Life」～

主催	福島県がん診療連携協議会相談支援部会
共催	国立がん研究センターがん対策情報センター、東北がんネットワークがん患者相談室専門委員会、青森県・秋田県・岩手県・宮城県・山形県がん診療連携協議会患者相談部会、福島県
後援	青森県、秋田県、岩手県、宮城県、山形県
研修のねらい	がん相談支援センターの職員として、がん患者ががんと共に歩める社会の実現を目指し、問題点や課題に気づき、解決のための手法について考え、今後の各県の活動に結び付けるきっかけとすることができる。
研修の目的	がん相談支援に携わる職員が、行政や患者と共に、がんと共に歩める社会の構築のためにがん相談支援センターにできることは何かについて考える。
実行委員	21名（事務局含む） 青森県1名、秋田県1名、岩手県1名、宮城県1名、山形県1名、福島県16名
当日参加者	111名（うち受講証発行者85名） （県別内訳） 福島県39名、宮城県21名、山形県18名、青森県10名、秋田県7名、岩手県10名、東京都3名 （職種別内訳） 看護師30名、MSW49名、心理士2名、医師6名、行政5名、ピアサポーター12名、その他7名 ※行政、ピアサポーターはオブザーバーとして参加

開催までのスケジュール

11月17日（日）フォーラム開催

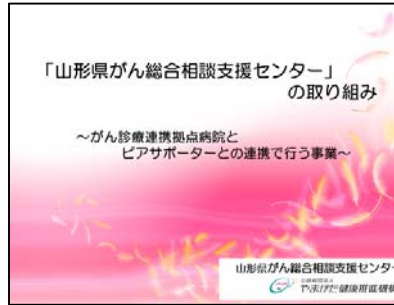
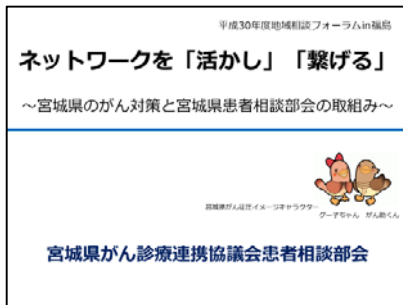
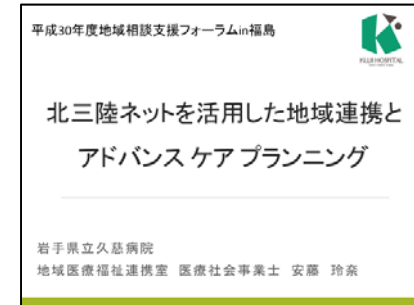
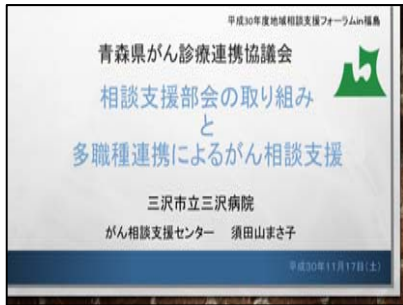
	3月以前	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
運営係 (4名)			担当者決定			フォーラム概要資料作成		ファシリテーターマニュアル作成 ・当日役割決定		
広報係 (2名)			担当者決定	参加登録フォーム作成	参加申込開始 国がんホームページ案内掲載		※参加申込期限延期	・参加申込〆切 ・グループ分け/名簿作成		
資料係 (2名)			担当者決定	ポスター/チラシ原案作成	・抄録掲載内容決定 ・抄録見積もり	抄録資料(部会長挨拶、行政取り組み説明、講師資料、発表スライド)作成依頼	福島県療養冊子取り寄せ	・福島県観光冊子取り寄せ	・抄録印刷 ・アンケート作成	
会場係 (2名)			担当者決定				懇親会会場予約	・BGM決定 ・PR動画取り寄せ	・会場担当打合せ/レイアウト作成 ・放映スライド作成 ・垂幕等作成 ・弁当注文	
実行委員会 (19名)			コアメンバー会議	第一回開催					・コアメンバー会議 ・第二回開催	
事務局 (2名)	・講師・実行委員依頼 ・会場決定予約	・開催要領作成 ・収支予算書作成	・他県実行委員依頼手続き ・共催/後援手続き	東北がんネットへ経過報告		・発表者/オブザーバー選出依頼 ・部会長参加依頼	・オブザーバー参加依頼 ・Ⅲ群申請 ・講師打合せ	報告資料作成	・運営マニュアル作成 ・講師打合せ ・スライドデータ取り寄せ	報告

当日のスケジュール

時間	概要	
9:30~	受付開始	
9:55~	オリエンテーション	
10:00~	開会挨拶／来賓挨拶	
10:10~	第一部（各県発表） 『ネットワークを「活かし」「繋げて」東北の絆を「結ぶ」』	東北6県よりがん相談に関する取り組みの好事例 （他機関連携を中心に）発表
12:00~	昼休憩 ・福島県PR動画放映 ・福島県がん診療連携協議会相談支援部会活動スライド	
13:00~	第二部①（講演） 『病院の外の生活の場「元ちゃんハウス」でがん患者を支える』 講師：西村詠子氏（NPO法人がんとむきあう会）	地域でがん患者支援に携わる方の思いや現状についてご講演
14:20~	第二部②（グループワーク） 『患者と共に構築するがんと共に歩める社会』	各県発表、講演を受けて、がん相談支援センターとして何が出来るか、可能性等について協議（二回実施） 第一回目（運営側指定のグループ） 第二回目（各県ごとのグループ）
16:45 ~17:00	閉会 総評／引継式／閉会の挨拶	

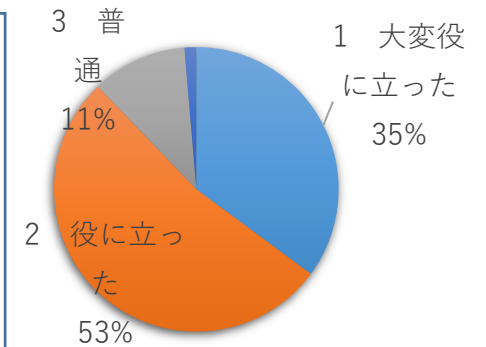


第一部(各県発表)



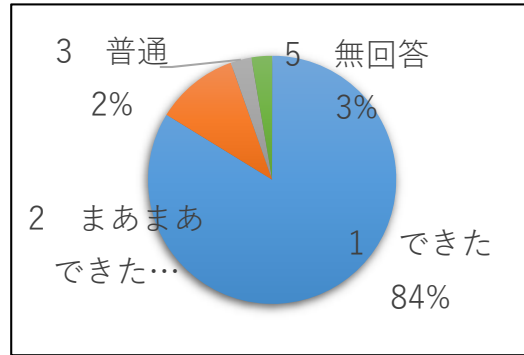
<アンケート結果>~自由記載より一部抜粋~

- 東北各県の取り組みを知ることが出来、良い機会となった。行政との連携が重要であり、これからの課題が見えた。
- 他県の取り組みを聞く機会がなかなかないので、大変参考になります。毎年、どの県も新たな取り組みがされていたり、新たな発見に新しい気持ちになります。
- 他県の取り組みを知ること、自県の課題の気づきが得られ、これからすべきこと、したいことが見えてきた。また、行政の方のオブザーバーが入ることで、様々な事業につながる可能性もあるのではないかと思います。

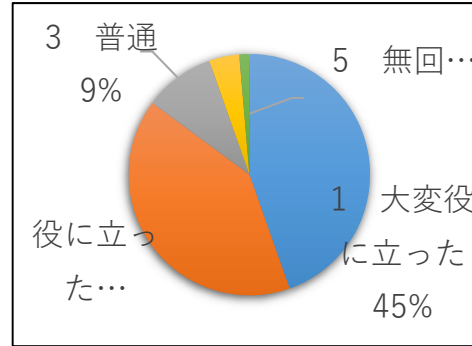


第二部(講演及びグループワーク)

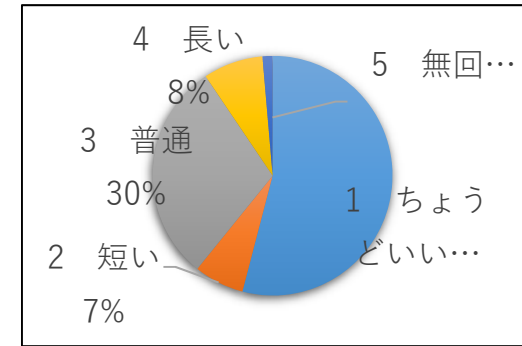
①講演は理解できたか



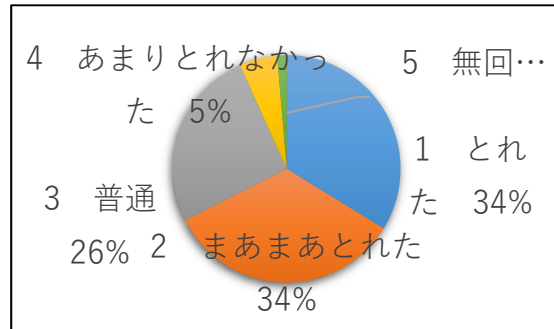
②グループワークは如何でしたか



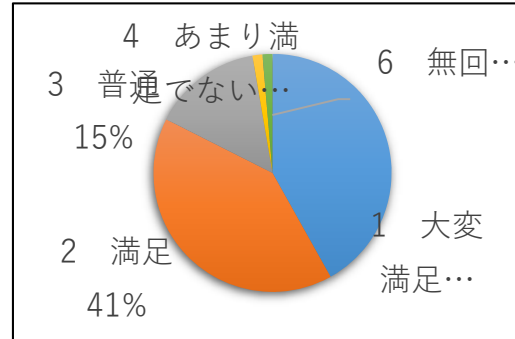
③研修時間はどうでしたか



④参加者間のコミュニケーションは取れましたか?



⑤全体を通して、研修内容はいかがでしたか



<自由記載より一部抜粋>

- ・ピアサポーターの生の声を聞くことが出来参考になった。大変貴重な機会でした。
- ・他県の取り組みを知ることが出来たこと、加えて自分の県で深めて話をする事が出来たので、大変貴重な機会でした。
- ・元ちゃんハウスの講演、大変興味深かったです。様々なつながりを大切に、自施設でできること、県としてできることを各拠点病院の風通しを良くして一緒に考えていきたいです。
- ・病院は一步入ったら非日常という言葉。本当にその通り。その病院の中にあるがん相談だけではやはり相談しづらい感じがあるのかもしれない。相談室や相談員の環境、雰囲気も大事と感じた。グループワークでは、具体的なことも話ができ、今後活かしていきたい。参加している人たちみんなの思いがとても熱いと感じました。

その他アンケート結果

Q 今後フォーラムで取り上げたいテーマや試してみたいプログラム編成がございましたらご記入ください

＜自由記載より一部抜粋＞

- ・他院、地域等の“連携”について
- ・地域づくりのノウハウ
- ・就労支援
- ・AYAがんについて



Q 本フォーラムについてご意見やご感想がございましたらご記入ください

＜自由記載より一部抜粋＞

- ・ピアサポーターの殻の方たちの意見、生の声を聞いたことはとても有意義でした。
- ・東北内でこれだけの方が集まってというのは大変貴重な機会だと思います。是非有用な機会として活用していただきたいです。
- ・東北ならではの人手不足、在宅医療の現実を充実している県から話を聞きたい。
- ・会場のアクセスが良かった。

今後に向けて

【課題】

- 事務局としての事務作業の多さ
- 実行委員間の情報共有の機会を確保することが困難
- 予算の確保・管理

皆様のご協力を賜り、無事、盛会にフォーラムを終了できました。誠にありがとうございました。

東北ブロックでは、来年度、青森県でフォーラムを開催いたします。引き続きよろしく願いいたします。





平成30年度地域相談支援フォーラム

in東京・神奈川・埼玉・千葉

A Y A世代の「い・ろ・は」

～いま、なにが必要？

考えようA Y A世代のサポート～

開催報告

千葉県がん診療連携協議会

相談支専門部会

千葉県がんセンター

中村晃子

研修概要



◆主催 千葉県がん診療連携協議会 相談支援専門部会

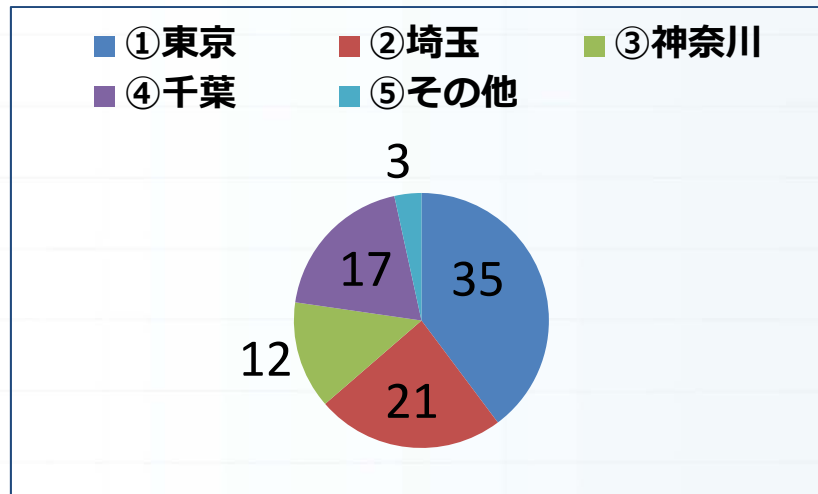
◆共催 国立がん研究センター がん対策情報センター

◆後援 東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県

◆対象者

東京・埼玉・神奈川・千葉のがん診療連携拠点病院および都県認定がん診療病院等においてがん相談支援業務を行う相談員 120名

◆当日参加者 88名（修了証発行86名）



実行委員

運営メンバー32名（実行委員・ファシリ・オブザーバー）

地区	施設名	名前			
千葉県 ★コアメンバー	千葉県がんセンター	中村晃子	国立がん研究センター がん対策情報センター		若尾 文彦
	順天堂大学医学部附属浦安病院	吉岡多美子			八巻 千香子
	日本医科大学千葉北総病院	高井緑子			伊東 洋介
	国立がん研究センター東病院	坂本はと恵	ファシリ協力者	※ 九州がんセンター	野口 久美子
	船橋市立医療センター	平川寛幸		〃	松尾 由佳
	東京歯科大学市川総合病院	藤崎千晶		1 埼玉県立がんセンター	片桐 三枝子
	東京慈恵会医科大学柏病院	千田 操		2 埼玉県立がんセンター	仲島 晴子
		3 さいたま赤十字病院		松島 涼香	
		4 深谷赤十字病院		小暮 三千代	
		5 神奈川県立がんセンター		得 みさえ	
埼玉県	埼玉県立がんセンター	仲島晴子	6 大和市立病院	小峰 晶子	
	埼玉県立がんセンター	片桐三枝子	7 相模原協同病院	波多江 優	
	さいたま赤十字病院	松島涼香	8 聖マリアンナ医科大学病院	杉浦 貴子	
神奈川県	神奈川県立がんセンター	得みさえ	9 がん研究会有明病院	花出 正美	
	大和市立病院	小峰晶子	10 順天堂大学医学部附属練馬病院	佐藤 有沙	
東京都	がん研究会有明病院	花出正美	11 杏林大学医学部附属病院	小林 夏紀	
	東京都立駒込病院	長谷川尚子	12 東京女子医科大学東医療センター	菊地 桃	
			13 国保旭中央病院	高山 美津子	
			14 東京慈恵会医科大学付属柏病院	荒井 賞枝	
			15 成田赤十字病院	山元 かおり	

実行委員会 2回（平成30年5月23日、10月12日）

千葉県コアメンバー会議 6回（平成29年6月より。平成30年度は2か月毎）

研修のねらい・目的



◆研修のねらい

A Y A世代のがん患者の支援について『どこまで相談支援でやるか』についてコンセンサスを得ることが出来る。

◆研修目的

- ・ AYA世代がん患者の抱える問題を知り、必要な支援を知る
- ・ 相談支援の実情を知り、出来る支援を考える
- ・ 妊孕性の相談支援を考え、相談支援技術を学ぶ


開催プログラム



時間	内容
10 : 10 ~ 11 : 20	講演① AYA世代が抱える問題と支援
11 : 20 ~ 12 : 10	グループワーク① 「AYA世代がん患者の相談の実情は」
12 : 10 ~ 13 : 10	昼食休憩
13 : 10 ~ 14 : 10	講演② がんと妊孕性について相談員としての支援は
14 : 10 ~ 14 : 55	グループワーク② 「妊孕性の相談で明日から出来そうなこと」
14 : 55 ~ 15 : 05	休憩
15 : 05 ~ 16 : 15	グループワーク③ 「治療後に妊娠希望している患者への支援」
16 : 15 ~ 16 : 30	閉会挨拶 / アンケート

AYA世代が抱える問題・支援すべき内容を知り、何が出来るか考える

妊孕性に焦点化し、具体的に何が出来るか考える



グループワーク③

治療後に妊娠希望している 患者への支援

～この患者さんにどう支援する？～

事例①

乳がんで手術と抗がん剤治療を受ける予定の35歳女性。

外来看護師より相談の依頼があり来室。

結婚して1年で子どもはいない。治療後には子供を持ちたい希望がある。

千葉県在住で東京の病院で治療を受ける予定。

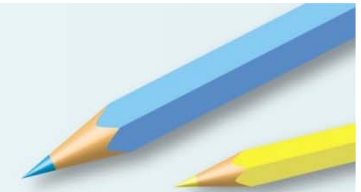
事例②

精巣がんで術後、化学療法を受ける予定の23歳男性患者の母。

自分で相談支援センターを調べて来室。

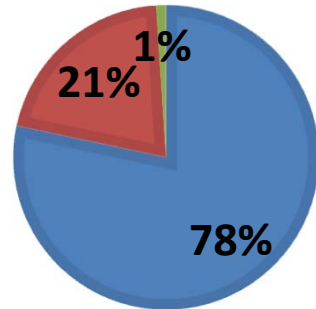
患者本人は「精子保存なんていい、結婚しない」と言っているが、母親としては「いろんな可能性を残しておきたい」と考えている。

アンケート結果



期待に沿う内容でしたか？

- 大変そう思う
- そう思う
- ふつう
- そう思わない
- 全くそう思わない

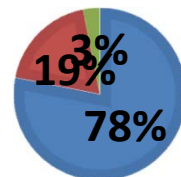


今後取り上げてほしいテーマ（複数意見抜粋）

- ・ AYA世代については今後も取り上げてもらいたいです（5）
- ・ 療養両立支援の加算に関すること
- ・ グリーフケア（2）
- ・ 患者会、ピアサポートの実際について
- ・ がんゲノム医療について（3）
- ・ 合同企画なので、この件ではこういう事業をやっているなど各県の情報提供があれば良いと思う（2）

また参加したいと思いますか？

- 大変そう思う
- そう思う
- ふつう
- そう思わない



感想（複数意見抜粋）

- ・ AYA世代の就学（高校、大学）就労支援などの最近話題に上がる事もあるので、地域の情報なども含めて知りたいです。
- AYAのことが勉強することができて、明日からの支援につなげたい
- ・ 妊孕性については不確定な事もあること、個に向き合ってその人の人生価値観を聞けるような相談員になれるように研鑽をつみたい。
- ・ 会場は中心（東京あたり）で検討いただけると助かります

今後の継続開催に向けて



- ◆ 相談支援におけるトピックス、相談員が支援に困っているテーマを選択する
- ◆ 首都圏と周辺地域ならではの相談支援の連携を視野に入れる
- ◆ 開催場所の検討（アクセスの良さは重要）
- ◆ 円滑な企画準備のため、前回開催都県が支援する体制



地域相談支援フォーラムin四国



日時: 2019年2月9日(土) 10:00~17:00(受付開始9時30分)

場所: かがわ国際会議場

* 皿群申請手続き予定

香川県高松市サンポート2-1

企画名: がんになってもその人らしい選択を支えるために
— 相談支援・情報提供の架け橋 —

内容: ① 四国4県の取り組み報告

② 講演「相談員の情報支援の力をつける

～情報を見極めて、相談者が活用できる情報にするために」

③ グループワーク

- ・がん相談支援センターで扱う情報について
- ・がん専門相談員が行う支援を考える

国立がん研究センターウェブホームにて申込みを!
(皆さまのお越しをお待ちしています!)

うどん県
それだけ
じゃない
香川県



地域相談支援フォーラム in 四国
がんになってもその人らしい選択を支えるために
— 相談支援・情報提供の架け橋 —

開催日時 平成31年2月9日(土)
10:00~17:00(受付開始9時30分)

会場 かがわ国際会議場
(香川県高松市サンポート2-1 高松シンボルタワー タワー棟)

対象 中国・四国地方のがん相談支援拠点機関に在籍するがん相談員、および医療機関等に在籍するがん相談員

参加方法 事前申し込みが必要
(ウェブフォームにてお申し込み下さい)

申込締切 平成30年12月28日(金)

定員 100名

参加費 無料

プログラム
10:00~10:15 開会式(国立がん研究センター-がん相談支援センター-主催)
10:15~10:30 受付開始
10:30~11:00 中国・四国地方のがん相談支援拠点機関の取り組み報告
11:00~11:30 講演「相談員の情報支援の力をつける～情報を見極めて、相談者が活用できる情報にするために」
11:30~12:00 休憩
12:00~12:30 ランチ
12:30~13:00 中国・四国地方のがん相談支援センター-がん相談支援センター-が活用できる情報について
13:00~13:30 がん相談支援センター-がん相談支援センター-が活用できる情報について
13:30~14:00 中国・四国地方のがん相談支援センター-がん相談支援センター-が活用できる情報について
14:00~14:30 中国・四国地方のがん相談支援センター-がん相談支援センター-が活用できる情報について
14:30~15:00 中国・四国地方のがん相談支援センター-がん相談支援センター-が活用できる情報について
15:00~15:30 中国・四国地方のがん相談支援センター-がん相談支援センター-が活用できる情報について
15:30~16:00 中国・四国地方のがん相談支援センター-がん相談支援センター-が活用できる情報について
16:00~16:30 中国・四国地方のがん相談支援センター-がん相談支援センター-が活用できる情報について
16:30~17:00 中国・四国地方のがん相談支援センター-がん相談支援センター-が活用できる情報について

平成30年度

第7回九州沖縄ブロック



地域相談支援フォーラム

in 宮崎

主催：宮崎県がん診療連携協議会 相談支援専門部会

テーマ **新たな普通を共にみつける**
～がんと共存しながらおくる自分らしい生活の支援～

開催日時

平成31年 **1月26日 土**
13:00 ~ 17:00

開催場所

株式会社 アステム
2F 会議室
宮崎市江平中町5番地1
TEL. 0985-24-3443

開催の目的

九州沖縄地区のがん相談支援を行っている医療者を対象に年1回、相談員の質やレベルの向上を目指して行われているフォーラム。

開催内容

九州・沖縄各県のがん相談支援センター活動報告、基調講演・グループワーク

参加予定人数(職種)

120名
(看護部・MSW・医師・各県がん行政担当者等)

後援

宮崎県・福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・鹿児島県・沖縄県・国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター

プログラム

- 12:30 ~ 受付開始
- 13:00 ~ 13:10 開会式
(1) 開会挨拶 (2) 来賓挨拶 (3) 全体オリエンテーション
(各県の発表) (九州・沖縄8県)
①「がん相談支援センターの紹介」 and
②「就労支援の取組報告」
- 13:50 ~ 14:50 《講演》三好 敏・NPO法人がんサポートかごしま理事長
「がんとともに生きること」
- 15:00 ~ 15:40 《事例紹介 (困難事例)》
- 15:40 ~ 16:50 《グループワーク》
- 16:50 ~ 17:00 閉会式

申込方法

オンラインでの申込となっています。
以下のURLにアクセスしてお申し込みください。

がん相談支援 地域相談支援フォーラム
https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/forum/index.html



主催事務局

宮崎大学医学部附属病院 患者支援センター
〒889-1692 宮崎市清武町木原 5200
TEL 0985-85-1909
FAX 0985-85-9769



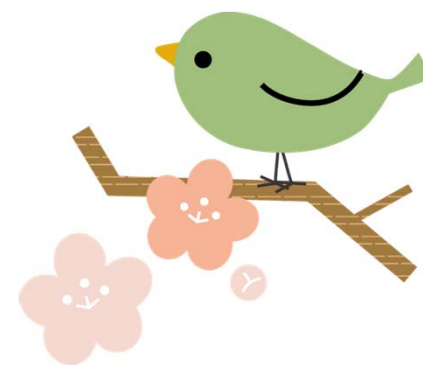
地域相談支援フォーラム in北関東甲信越ブロック（茨城）

開催日：

2019年11月9日（土）10:00～17:00

開催地：

つくば国際会議場 中ホール200
（つくば市竹園2-20-3）



皆さまのご来場をお待ちしております



地域がん相談支援フォーラムin近畿 開催告知

- 企画担当：兵庫県
- 日時：2019年秋頃
- テーマ：高齢者支援

本日の内容

4. がん対策情報センターおよび各県・ブロックからのお知らせ

- (1) 地域相談支援フォーラム開催報告および開催予定
- (2) 災害対策について**
 - ・**首都圏災害時を想定したシミュレーション実施について**
 - ・愛媛豪雨災害への対応
- (3) 件数カウントの導入状況と新指針を踏まえた変更案について
- (4) 「療養に関する情報の探し方」公開のお知らせ
- (5) 平成30年度相談員研修・国立がん研究センター認定事業について
- (6) がん相談支援センターと地域の図書館等との連携について
- (7) 日本癌治療学会認定がんナビゲーター制度について

災害発生時：非常用ページが表示されます

国立がん研究センターサーバーから表示

<https://ganjoho.jp/emergency/emergency.html>

国立がん研究センター
がん情報サービス ganjoho.jp

HOME > 災害に関する情報

災害に関する情報

首都圏以外での災害発生時の表示内容

■被災地の各病院の状況 ■周辺各県における被災地のがん患者さんの受け入れ対応状況 ■被災地のがん患者さんの受け入れ状況の把握について ■全国がん診療連携拠点病院・がん相談支援センター一覧 ■災害時関連情報

被災者の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

被災地および周辺地域における国指定のがん診療連携拠点病院などの状況についてお知らせします。

■被災地の各病院の状況

国指定のがん診療連携拠点病院などの、がん相談支援センター、化学療法、放射線治療、緩和ケア(がんの痛み、苦痛緩和への対応)などの対応状況をまとめました。

- 被災地の病院におけるがん患者さんの受け入れ体制(PDF)

■周辺各県における被災地のがん患者さんの受け入れ対応状況

国指定のがん診療連携拠点病院などの状況をまとめました。

- 周辺各県の病院における被災地のがん患者さんの受け入れ体制(PDF)

■被災地のがん患者さんの受け入れ状況の把握について

- 被災地において:「被災地 医療機関対応状況」
- 被災周辺地域において:「周辺地域 医療機関受入状況」

※災害対策サーバーに切り替わります

https://ganjoho.jp/emergency/index_emergency.html

国立がん研究センター
がん情報サービス ganjoho.jp

HOME > 災害に関する情報

災害に関する情報

首都圏での災害発生時(NCCサーバーダウン時)の表示内容

現在、関東地方に発生した災害により「がん情報サービス」の一部の機能が停止しております。ご覧いただいているウェブサイトは、緊急時用の臨時サーバーより配信しています。

■被災地の各病院の状況 ■周辺各県における被災地のがん患者さんの受け入れ対応状況 ■被災地のがん患者さんの受け入れ状況の把握について ■全国がん診療連携拠点病院・がん相談支援センター一覧 ■災害時関連情報 ■臨時サーバーからの配信による影響

■被災地の各病院の状況

国指定のがん診療連携拠点病院などの、がん相談支援センター、化学療法、放射線治療、緩和ケア(がんの痛み、苦痛緩和への対応)などの対応状況をまとめました。

- 被災地の病院におけるがん患者さんの受け入れ体制(PDF)

■周辺各県における被災地のがん患者さんの受け入れ対応状況

国指定のがん診療連携拠点病院などの状況をまとめました。

- 周辺各県の病院における被災地のがん患者さんの受け入れ体制(PDF)

■被災地のがん患者さんの受け入れ状況の把握について

- 被災地において:「被災地 医療機関対応状況」
- 被災周辺地域において:「周辺地域 医療機関受入状況」

災害に関する情報

現在、関東地方に発生した災害により「がん情報サービス」の一部の機能が停止しております。ご覧いただいているウェブサイトは、緊急時用の臨時サーバーより配信しています。

■ 被災地の各病院の状況

国指定のがん診療連携拠点病院などの、がん相談支援センター、化学療法、放射線治療、緩和ケア（がんの痛み、苦痛緩和への対応）などの対応状況をまとめました。

- 被災地の病院におけるがん患者さんの受け入れ体制（[PDF](#)）

■ 周辺各県における被災地のがん患者さんの受け入れ対応状況

国指定のがん診療連携拠点病院などの状況をまとめました。

- 周辺各県の病院における被災地のがん患者さんの受け入れ体制（[PDF](#)）

■ 被災地のがん患者さんの受け入れ状況の把握について

- 被災地において：「被災地 医療機関対応状況」
- 被災周辺地域において：「周辺地域 医療機関受入状況」

についての情報収集を、国立病院機構九州がんセンターから、がん診療連携拠点病院等のみなさまに依頼させていただきます。

【がん患者受け入れ状況等調査用ファイル】

- 被災地周辺地域受入体制調査フォーマット（[MS-Excel](#)）

ここに情報収集したい内容の
ファイルを置いています

■ 全国がん診療連携拠点病院・がん相談支援センター一覧

がん診療連携拠点病院等の情報は下記の資料（PDF）をご参照ください。

- 全国がん診療連携拠点病院・がん相談支援センターなど一覧（2017年7月 現在）（[PDF](#)）

■ 災害時関連情報

■ 臨時サーバーからの配信による影響

★被災地の各病院の状況
★周辺各県の受入対応状況
の**情報把握・共有**
にご協力ください。

災害対応時の情報共有のために：ふだんからの準備として

国立がん研究センター がん情報サービス ganjoho.jp 一般の方向けサイト

がん情報サービスは 国立がん研究センター が運営しています。

医療関係者向けサイトへ

国立がん研究センター がん情報サービス ganjoho.jp 医療関係者向けサイト

診療支援 研修・セミナー 多地点テレビカンファ がん相談支援 予防・検診 拠点病院連絡協議会

HOME > がん相談支援

がん相談支援

がん相談支援センターの円滑な運営をサポートするための情報やツールを提供しています。

■がん相談支援センター相談員研修の概要 ■地域相談支援フォーラム ■がん相談支援センター相談員サポート ■国指定がん診療連携拠点病院サポートページ

がん相談支援センター相談員研修の概要

研修の詳細については、「研修・セミナー」をご覧ください。

- 国立がん研究センターにおけるがん相談支援センター相談員の育成に関する教育・研修プログラム提供方針(PDF:340KB)
- 相談員研修に関するFAQ

国指定がん診療連携拠点病院等サポートページ

旧「都道府県がん診療連携拠点病院向け」、「がん相談支援センター相談員指導者研修修了者向け」、「都道府県がん相談員研修連絡担当者向け」サポートページを統合いたしました。

(閲覧には、都道府県がん診療連携拠点病院専用のID、パスワードが必要です。ID、パスワードは都道府県がん診療連携拠点病院メーリングリストにてご案内をいたしましたのでご確認ください。不明な場合には「がん情報サービス事務局」までお問い合わせください。)

■国指定がん診療連携拠点病院等サポートページ

旧「都道府県がん診療連携拠点病院向け」、「がん相談支援センター相談員指導者研修修了者向け」、「都道府県がん相談員研修連絡担当者向け」サポートページを統合いたしました。

(閲覧には、都道府県がん診療連携拠点病院専用のID、パスワードが必要です。ID、パスワードは都道府県がん診療連携拠点病院メーリングリストにてご案内をいたしましたのでご確認ください。不明な場合には「がん情報サービス事務局」までお問い合わせください。)

【ログイン】

【厚生労働大臣の指定を受けたがん診療連携拠点病院・がん診療病院の方へ】

- がん相談支援センター共通ログインについて(ロゴ、紹介カード、相談員バッジ)
- がん診療連携拠点病院がん相談支援センターメーリングリストのご案内
- がん相談支援センターPR資料の貸し出しについて

【ログイン】
ID = ○○○○○○
パスワード = ○○○○

→ 国指定がん診療連携拠点病院サポートページへ

- 災害対応時の情報共有ツールなどもここへ

← **ふだんから活用する**

がん診療連携拠点病院向け災害時情報 ページ

国立がん研究センター
がん情報サービス ganjoho.jp 医療関係者向けサイト

- 診療支援
- 研修・セミナー
- 多地点テレビカンファ
- がん相談支援

HOME > [がん相談支援](#) > 国指定がん診療連携拠点病院等サポートページ

国指定がん診療連携拠点病院等サポートページ

このページは、厚生労働大臣から指定を受けたがん診療連携拠点病院のがん専門相談員の対象とした情報を掲載しています。

■【厚生労働大臣の指定を受けたがん診療連携拠点病院・がん診療病院の方へ】

- がん相談支援センター共通ロゴについて(ロゴ、紹介カード、相談員バッジ)
- がん診療連携拠点病院がん相談支援センターメーリングリストのご案内
- がん相談支援センターPR資料の貸し出し/がん相談支援センターイメージングの利用について
- 「がん相談支援センター」紹介ラジオドラマCMについて
病院にある学校一覧

[がん診療連携拠点病院向け災害時情報](#)

■【都道府県がん診療連携拠点病院の方へ】

- 都道府県がん診療連携拠点病院がん相談支援センターメーリングリストのご案内
- 施設別がん登録件数検索システム関連資料
- 血群登録申請のご案内
- 都道府県がん相談員研修連絡担当者登録のご案内

■【指導者研修修了者の方へ】

- 研修素材についてのご案内
- 講義・パネルディスカッション(スライド)

こちらのページをぜひ一度ご確認ください。

国立がん研究センター
がん情報サービス ganjoho.jp 医療関係者向けサイト

- 診療支援
- 研修・セミナー
- 多地点テレビカンファ
- がん相談支援
- 予防・検診
- 拠点

HOME > [がん相談支援](#) > 国指定がん診療連携拠点病院等サポートページ > [がん診療連携拠点病院向け災害時情報](#)

がん診療連携拠点病院向け災害時情報

更新・確認日:2017年08月07日【履歴】

- 災害時:被災地のがん患者さんの受け入れ状況の把握について
- 事前の準備:全国のがん相談支援センターのみなさまへ
- 災害時連絡先:がん相談支援センターなどの連絡先一覧

災害時には、がん患者さんの受け入れ状況を把握し、情報共有をお願いします。

1. 災害時:被災地のがん患者さんの受け入れ状況の把握について

- 被災地において:「被災地 医療機関対応状況」
- 被災周辺地域において:「周辺地域 医療機関受入状況」
についての情報収集依頼を、
- 首都圏以外での災害発生時:国立がん研究センターがん対策情報センター
- 首都圏での災害発生時:国立病院機構 九州がんセンター
からご依頼させていただきます。

2. 事前の準備:全国のがん相談支援センターのみなさまへ

- ご依頼させていただいた際、および、事前の準備として定期的に、
- 1)Kyoten-CISCOのメーリングリストの登録者確認と更新
メーリングリストの登録については、以下のページをご覧ください。
[「がん診療連携拠点病院がん相談支援センターメーリングリストのご案内」](#)
 - 2)「被災地周辺地域受入体制調査フォーマット」(MS-Excel)への記載と情報提供する際の院内・地域内確認ルートの確認をお願いいたします。

3. 災害時連絡先:がん相談支援センターなどの連絡先一覧

災害時の連絡用として、「4.「がん相談支援センター」の探し方」の最後のところに「がん相談支援センターなど連絡先一覧」をPDFファイルにて掲載しています。

- がん相談支援センターの概要
- 地域性がん相談支援センター
- がん相談支援センターサポート

がん診療連携拠点病院向け災害時情報 ページ

災害時には、がん患者さんの受け入れ状況を把握し、情報共有をお願いします。

1. 災害時：被災地のがん患者さんの受け入れ状況の把握について

- 被災地において：「被災地 医療機関対応状況」
- 被災周辺地域において：「周辺地域 医療機関受入状況」
についての情報収集依頼を、
- 首都圏以外での災害発生時：

国立がん研究センターがん対策情報センター

- 首都圏での災害発生時：

国立病院機構 九州がんセンター

からご依頼させていただきます。



シミュレーション
の実施

がん診療連携拠点病院向け災害時情報 ページ

2. 事前の準備：全国のがん相談支援センターのみなさまへ

ご依頼させていただいた際、および、事前の準備として定期的に、

1) Kyoten-CISCのメーリングリストの登録者確認と更新

メーリングリストの登録については、以下のページをご覧ください。

[「がん診療連携拠点病院がん相談支援センターメーリングリストのご案内」](#)

2) 「被災地周辺地域受入体制調査フォーマット」(MS-Excel) への記載と情報提供する際の院内・地域内確認ルートの確認をお願いいたします。

The image shows a screenshot of an Excel spreadsheet used for disaster response planning. The table has multiple columns, likely representing different categories of information such as location, facility name, and operational status. The data is organized in a grid format with various colored headers.

●被災地 医療機関対応状況

- 患者さんの窓口：がん相談支援センター
- 化学療法：対応可否、可能な開始時期、臓器の限定など
- 放射線治療：装置稼働状況
- 緩和ケア病棟の状況

●周辺地域 医療機関受入状況

- 医療機関向けの他院からの患者受入窓口：地域連携室など
 - ・部署名、電話、対応状況
- 医療機関向けの他院からの受け入れ状況
 - ・入院、外来、など

3. 災害時連絡先：がん相談支援センターなどの連絡先一覧

災害時の連絡用として、「[4. 「がん相談支援センター」の探し方](#)」の最後のところに「がん相談支援センターなど連絡先一覧」をPDFファイルにて掲載しています。

緊急時には、「病院をさがす」のサーバ内の情報は、臨時のサーバには移行されませんので、こちらをご活用ください。

首都圏災害時対応シミュレーション

災害想定	<p>日時：2018年9月3日（月）14時過ぎ頃 場所：東京湾沖 震度7強 の揺れ、津波の心配あり 被害状況：不明 ニュースでは、首都圏の交通は麻痺している模様</p>
参加機関	<p>国立がん研究センターがん対策情報センター（NCC） 九州がんセンター 東京、神奈川、埼玉、千葉各都道府県拠点病院（5施設）</p>
シミュレーション内容	<p>①九州がんセンター → NCCへの被害状況確認 ②クラウドML (kyoten-cisc-cloud)への情報提供依頼 ③都道府県拠点5施設への個別連絡 ④5施設⇒九州がんセンターの状況報告ファイル送信 ⑤受け入れ体制情報公開（九州がんセンター）</p>
実施して判明したこと	<ul style="list-style-type: none"> • クラウドメーリングリストの設定ミス（メール送信されず） • 災害地域の受信確認の簡便化の必要性 • 電話がつかない施設があった→FAXでの連絡手段の確保、連絡が取れない場合の対応 • 都道府県拠点の被害が大きい場合の県内体制

本日の内容

4. がん対策情報センターおよび各県・ブロックからのお知らせ

(1) 地域相談支援フォーラム開催報告および開催予定

(2) 災害対策について

・首都圏災害時を想定したシミュレーション実施について

・愛媛豪雨災害への対応

四国がんセンター

福島美幸様

(3) 件数カウントの導入状況と新指針を踏まえた変更案について

(4) 「療養に関する情報の探し方」公開のお知らせ

(5) 平成30年度相談員研修・国立がん研究センター認定事業について

(6) がん相談支援センターと地域の図書館等との連携について

(7) 日本癌治療学会認定がんナビゲーター制度について

The background of the slide is a light gray gradient with several realistic water droplets of various sizes scattered across it, some at the top and some at the bottom.

愛媛県がん診療連携協議会 がん相談支援専門部会 2018年7月7日豪雨災害時対応について

国立病院機構 四国がんセンター
がん相談支援センター MSW 福島美幸

愛媛県

死者27名、安否不明者1名、災害関連死2名



○がん診療連携拠点病院・推進病院

がん診療連携拠点病院

全国どこでも質の高いがん医療を提供しようと国が指定した病院です。専門的ながん医療の提供や患者さんに対する相談支援・情報提供などを行っています。

がん診療連携推進病院

拠点病院と連携しながら専門的ながん医療の提供や地域のがん診療の連携協力体制の構築などの役割を担っています。愛媛県が独自に指定した病院です。



- ・豪雨災害**前**の情報収集・発信
- ・豪雨災害**後**の情報収集・発信

豪雨災害前の情報収集・発信

災害当日(7月7日)は、当県がん相談員研修会開催予定日

継続的な雨が続き、前日にこれまでにない記録的豪雨警報が出されていたが、翌日昼からの開催であるため、開催延期決定について前日午後まで、気象予報・ニュースから情報収集し判断に時間を要した。

東・中・南予のコアメンバーと相談し、決定！！

業務をしながらであり、延期・中止要件を定めていなかったため、判断に悩んだ。



豪雨災害**前**の情報収集・発信

→専門部会での取り決めが必要だと感じた。

(対策)

- ①災害時や予測される時の開催延期等の判断基準を作成
- ②緊急連絡網やメーリングリストの整備

豪雨災害後の情報収集・発信

情報収集

週明け7/9(月)

・専門部会MLや南予には直接電話での確認を行い、拠点・推進病院及びがん相談支援センターの被災状況を確認

・NPO法人患者サポート団体より被災したがん患者さんの相談窓口として拠点・推進病院のがん相談支援センターで行えることの情報発信の要請

⇒全ての施設で相談対応を行える体制にあることを確認

豪雨災害後の情報収集・発信

情報発信 ・被災患者さんや一般向けに愛媛県拠点病院としての受け入れやがん相談対応を行うことを情報発信

The screenshot shows the website for the Shikoku Cancer Center. At the top, there is a navigation bar with the center's name in Japanese and English, a logo, and contact information. Below the navigation bar, there are several tabs: "病院をご利用の方へ" (Selected), "医療関係者の方へ", "職員募集", "調達情報", and "アクセス". The main content area features a red header for a notice titled "2018年(平成30年)7月豪雨で被災された方々へ". The notice text explains the center's support for disaster victims, including free consultations and a support center. It provides a direct phone number (089-999-1114) and a website link. To the right of the notice is a map titled "アクセス" (Access) showing the center's location. Below the map is a green button for "お問い合わせ" (Inquiry), followed by contact details for initial and appointment consultations. At the bottom of the page, there are four colored boxes for "外来案内" (Outpatient), "入院案内" (Inpatient), "部署案内" (Department), and "病院案内" (Hospital), each with a list of services.

独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター
Shikoku Cancer Center
日本医療機能評価機構 iQdG: Ver.1.11 認定病院
新道府県がん診療連携拠点病院
受付時間 平日 午前7:30～午前12:00
文字のサイズ 標準 大
よくあるご質問 お問い合わせ サイトマップ for English

病院をご利用の方へ 医療関係者の方へ 職員募集 調達情報 アクセス

2018年(平成30年)7月豪雨で被災された方々へ

この度の被災について心よりお見舞い申し上げます。四国がんセンターでは愛媛県や近隣の県の皆様へ適切な支援をしていきたいと考えております。特にがん治療中の方で、いつも通っていた医療機関へいけない、お薬が切れる、今後の治療予定のめどが立たないなど様々な不安をお持ちの方もいらっしゃると思います。四国がんセンターがん相談支援センターで相談を受けし、今後の対策を一緒に考えます。まずはお電話ください。直通電話は089-999-1114です(平日8時30分から17時15分)、代表電話089-999-1111からも繋がります。

相談は無料です。四国がんセンターで診療を受けたことがなくても構いません。

また、県内のがん診療連携拠点病院すべての窓口でも対応してまいります。下記をご参照ください。

<http://www.shikoku-cc.go.jp/conference/subcommittee/support/>

また、愛媛がんサポートおれんじの会でもご相談に対応してくれます。

089-997-7638 (町なかサロン 平日10時00分から15時00分)

アクセス

アクセス 病院までの交通情報

お問い合わせ

初診の方(相談支援センター)
089-999-1114(8時30分～17時15分)
予約の方(予約センター)
089-999-1112(8時30分～17時)
代表番号

外来案内	入院案内	部署案内	病院案内
初診の方へ 外来診療担当表	お見舞いの方へ 証明書や診断書等	診療科・各診療部 門案内	病院概要 院長あいさつ

豪雨災害後の情報収集・発信

情報収集

◎DMAT本部 市立宇和島病院(地域がん診療連携拠点病院)

◎済生会今治病院(地域がん診療連携拠点病院)

- ・交通機関、道路事情などの情報
- ・診療機能
- ・入院受入状況
- ・がん患者の転院など協力要請の有無
- ・宇和島市、大洲市、野村、八幡浜(南予)、今治市・離島地域
近隣医療機関の稼働情報
- ・院外薬局の営業状況
⇒支援内容の共有

専門部会内で
情報共有

豪雨災害後の情報収集・発信 患者サポート団体からの声 情報発信協力

NPO法人愛媛がんサポート おれんじの会は、主に愛媛県内のがん患者と家族、その関係者が集う会です。

おれんじの会

町なかサロン
活動カレンダー
相談窓口一覧
EAYAN
おれんじの会
ブログ
お問い合わせ

仲間と一緒にがんのこと...
話しませんか?
相談しませんか?
情報を見つけませんか?

がんと向き合う人のための町なか
町なかサロンは、がんと向き合っている患者さん、ご家族、ご友人、大切な人、このサロンは、愛媛県が国の「地域医療振興

専門部会内で
情報共有

NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会 主催 2018年7月豪雨災害支援事業
ひとりじゃないよプロジェクト
～がん患者さんにケア用品を届けよう～

本会の事務局で、ウイッグなどお困りしている愛媛県内の患者さんのために、必要なケア用品を届けようプロジェクトです。

医療用ウイッグを希望する方へ

- 愛媛県内のがん経験者の方から提供していただいたウイッグをお渡しします。
- 市立宇和島病院と、町なかサロン(知山市)で実際に手に取って確認していただけます。
- お困りの方向けには、電話などでご希望をうかがってお送りいたします。
- ウイッグは無償で認知不要、送料も無料です。

市立宇和島病院「地域医療連携室」へお問い合わせください（平日9時～16時）
町なかサロン「知山市東広町17-9 手塚堂跡の向かい」（平日10時～15時）

ケア用品を希望する方へ

- 帽子、乳がん患者さんのための下着、リンパマッサージ用品についてご希望をうかがって購入し、ご連絡いたします。もともとお使いの用品の情報があればお知らせください。
- 用品によってはご希望に添えないこともあります。ご了承ください。
- ケア用品は無償、送料も無料です。

対象:愛媛県内在住で7月の豪雨災害で被災された方
被災の程度は問いませんが、ウイッグやケア用品を失った方を優先いたします。
※被災期間が不明な方は、被災期間が不明な方優先とさせていただきます。

実施期間:2018年8月上旬～9月30日(予定)

ウイッグの提供、ケア用品購入のための事務所と、広くご協力を呼びかけて実施します。事務局が災害対策の要となります。

ご希望の方はお気軽にお電話ください
089-997-7638 (町なかサロン 平日10時～15時)

協力: One Worldプロジェクトサポーター
日本赤十字社、日本赤十字社愛媛県支部、アソシエーション「アソシエーション」が協力しています
後援: 一般社団法人全国がん患者団体連合会

豪雨災害後の情報収集・発信 緊急連絡網の整備が必要！！

- ◎メールアドレス変更があった場合
 メーリングリストなど変更手続き
 ⇒速やかに行う!!
- ◎緊急時の電話番号一覧作成
 ⇒担当者や電話番号

情報発信が
遅滞する

課題/対策



◎情報収集・共有ルールを作成

各施設からの情報発信時期や手段、内容
情報共有の内容・方法など

◎連絡網の整備

緊急連絡網の作成整備やメールアドレス

(メーリングリスト)の速やかな更新、管理規程の作成など

◎研修等活動に関わる災害時対応の整備

判断基準/規程の作成

本日の内容

4. がん対策情報センターおよび各県・ブロックからのお知らせ

- (1) 地域相談支援フォーラム開催報告および開催予定
- (2) 災害対策について
 - ・首都圏災害時を想定したシミュレーション実施について
 - ・愛媛豪雨災害への対応
- (3) 件数カウントの導入状況と新指針を踏まえた変更案について**
- (4) 「療養に関する情報の探し方」公開のお知らせ**
- (5) 平成30年度相談員研修・国立がん研究センター認定事業について
- (6) がん相談支援センターと地域の図書館等との連携について
- (7) 日本癌治療学会認定がんナビゲーター制度について

件数カウントの導入状況と 新指針を踏まえた変更案について

相談記入シート
(相談記録のための基本形式)
及び
入力ツールEXCEL
バージョンアップ予定について

2019年1月～3月頃

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会での **相談記録のための基本形式 採用の経緯**

■ 2015年1月～

がん相談支援センターの活動の『最終アウトカム』に向けたPDCA
サイクル確保のために、活動の見える化に向けた検討WG

■ 2015年6月 第5回情報提供・相談支援部会

全国で統一した方式で相談件数を把握することの合意

■ 2015年11月～2016年3月 相談件数カウントパイロット調査 (研究班)

研究班として「相談記入シート」確定版を作成

■ 平成28年12月 第8回情報提供・相談支援部会

研究班が作成した相談記入シートを「相談記録のための基本形
式」として部会として採用し、導入可能な施設、都道府県から用
いていく

現在の相談記入シート (相談記録のための基本形式) のダウンロードページ

国立がん研究センター
がん情報サービス ganjoho.jp 医療関係者向けサイト

診療支援 研修・セミナー 多地点テレビカンファ **がん相談支援** 予防・検診 拠点病院連絡協議会

HOME > がん相談支援 > がん相談支援センター相談員サポート > がん相談支援センター相談記入シートのご案内

がん相談支援センター相談記入シートのご案内

更新・確認日: 2017年02月10日 [履歴]

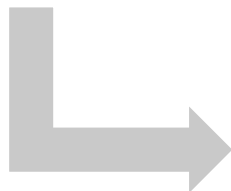
がん相談支援センターの運営(どのような相談が多く寄せられて、どの程度対応できているのかなどを評価する際)には、相談記録を保管し、相談内容を検討し、それをその後の活動に役立てていく必要があります。

平成27年6月に行なわれた、[第9回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会](#)において、全国で統一した方式で相談件数を把握することが合意されました。それを受けて「相談記入シート」の更新と試行のためのパイロット調査が研究班において行なわれ、研究班の確定版が作成されました(記入シート エクセルファイル [MS-Excel:112kB](#))。

さらに、平成28年12月に行なわれた、[第9回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会](#)において、研究班が作成した相談記入シートを「相談記録のための基本形式」として部会として採用し、導入可能な施設、都道府県から用いていくこととなりました。

なお、『相談記録のための基本形式』によるEXCELを用いた「入力ツール」は、研究班のホームページで公開されています。
[厚生労働省科学研究「がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究」](#)

https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/support/registration_sheet.html



がん相談支援

- がん相談支援センター相談員研修の概要
- 地域相談支援フォーラム
- がん相談支援センター相談員サポート
- がん相談支援センター相談員のためのガイドブック
- がん相談支援センターについてのQ&A

厚生労働省科学研究「がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究」

This is the homepage for the CANcer Performance Indicator (CANPI) project....

お知らせ

『相談記録のための基本形式』を用いた相談記録のための「記入シート」及び「入力ツール」
平成28年度 厚生労働省科学研究 がん対策推進総合研究事業(がん政策～指定)がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究班によりがん相談支援センターでの「相談記録のための基本形式」を作成しました。
その形式に基づいた「記入シート」及び「入力ツール」を研究班の成果物として本ページにて公開いたします。

■相談記録のための基本形式とは

全国のがん相談支援センターの体制や対応する範囲によって異なることから、1件とする相談や相談対応者など一定の規準のもとに記録できるようにしています。
また、がん相談支援センターに寄せられる相談の傾向を可視化し、各施設、地域や全国での対策に役立てられるように、研究班等での検討を踏まえてがん相談支援センターで対応していることを網羅的に記録できるようにしています。

各施設、地域や全国での活用など、さまざまな用途に合わせてご活用ください。
用途によっては、取り扱いに留意が必要な項目も含まれていますのでご注意ください。

■記入シート

『相談記録のための基本形式』により紙で記録するためのファイルです。

下記よりダウンロードください。

- 『相談記録のための基本形式』に基づいた記入シート (PDFファイル [soudankiroku.pdf](#) 774KB 11頁)
- (EXCELファイル [soudankiroku.xlsx](#) 110KB 6シート)

■入力ツール

1. データ入力ツール

『相談記録のための基本形式』により相談記録データをEXCELを用いて入力するためのツールです。

https://plaza.umin.ac.jp/~indicator/?page_id=583

相談記入シート

厚生労働省研究費補助金
「がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究班」 2016/9/1作成版

シート1: 相談記入シート

1. 受付日/受付番号	(年 月 日)		
2. 相談時間(分)	(分)		
3. 相談員	●氏名	()	
4. 相談形式	●場所	01 院内	02 院外()
	●方法	01 対面相談	02 電話相談
		03 FAX相談	04 E-mail
		99. その他(以下に具体的内容を記入)	
()			
5-1. 相談者	●相談者のカテゴリ	01 患者本人のみ	02 患者と
		03 患者以外の方のみ	
	●利用回数	01 初めて	02 2回目
		88. 不明	
●担当医からの紹介	紹介 あり	なし	
	●担当医(※) ()		

EXCELでの入力ツール

The screenshot shows an Excel spreadsheet titled "シート1: 相談記入シート" (Ver. 2.00). It features a form for entering consultation data. Key elements include:

- Buttons:** "入力を終了" (End Input), "修正を始める" (Start Correction), "初期設定" (Initial Settings), "送信用ファイルの作成" (Create File for Transmission).
- Form Fields:**
 - 修正する相談データの日付けを入力 (Enter date of consultation data to be corrected): 開始日付 (2018/11/15), 終了日付 (2018/11/15).
 - 送信する相談データの日付けを入力 (Enter date of consultation data to be transmitted): 開始日付 (2018/10/01), 終了日付 (2018/10/31).
 - 施設名 (Facility Name)
 - 入力パソコン愛称 (入力用愛称20文字以内) (Input PC Nickname)
 - 1. 受付日 / 受付番号 (修正時のみ) (2018/11/15)
 - 2. 相談時間 (分)
 - 3. 相談員 (氏名 (必須選択) *2) (相談員 氏名を選択してください)
 - 4. 相談形式 (場所, 方法) with radio button options for 01-04 and 99.
- Instructions:**
 - 複数台で操作する場合には必ず違う受付番号は新規登録時は空欄、修正
 - *2 「相談員 氏名を選択してください」反映されていることを確認して

「相談記録のための基本形式」相談データ送付用CSVファイル 仕様書 V1.0 (2017年2月1日作成)

CSVに変換時は、各データ内の各種改行コードは全角スペースに返してください。
各データ(カンマとカンマの間のデータは半角のダブルクォーテーション" "で括んでください。(例:"201512090001")
英数字は半角としてください。
日付は、YYYY/MM/DD型としてください。
フラグ項目は半角数字"1"を入れてください。
色付の欄は、予備データ欄です。[""]空白データとしてください。

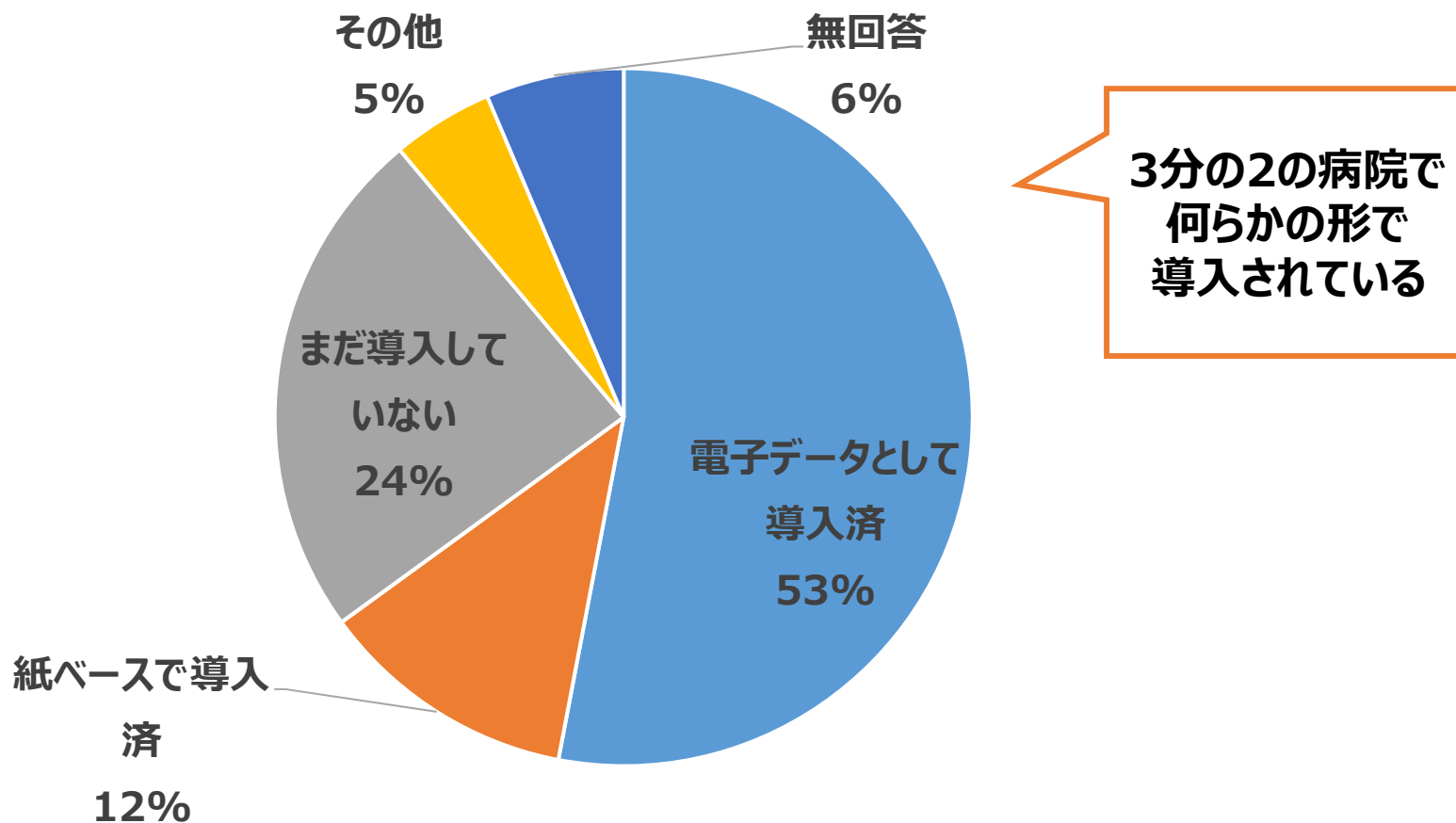
No.	タイトル	必須項目1 グループ単位1項目以上 必須項目2 条件付き必須項目3	データ種類または入力文字	サンプルデータ	備考
1	固有番号		1 半角数字	201512090001	受付日
2	受付日		1 YYYY/MM/DD型	2015/12/9	相談員
3	受付番号		1 半角数字	1	受付日 除算に 分で入
4	相談時間		1 半角数字	80	
5	相談員		1 "*****"	"*****"	マスク
7	職種		1 文字列	社会福祉士	選択時
8	職種(その他)		3 文字列	具体のJob内容の文字列	選択時
9	常勤/非常勤		1 文字列	常勤	選択時
10	勤務形態		1 文字列	専任(満期以上)	選択時
11	勤務形態(その他)		3 文字列	具体のJob内容の文字列	選択時
12	採録年数		1 半角数字	2	選択時
13	研修修会(1)		1 文字列	受講	選択時のみ必須
14	研修修会(2)		1 文字列	未受講	選択時の文字列を入力
15	研修修会(3)		1 文字列	受講	選択時の文字列を入力
16	採録番号		3 半角英数字	12345	直前直後が「受講」の場合必須
17	相談員ID		1 半角英数字	1	相談員一覧ファイルの相談員ID の番号
18	"		1 ""	"	
19	"		1 ""	"	
20	対応場所		1 文字列	院内	選択時の文字列を入力
21	相談形式		1 文字列	対面相談	選択時の文字列を入力
22	相談形式(その他)		3 文字列	具体のJob内容の文字列	直前直後が「その他」の場合必須
23	"		1 ""	"	
24	"		1 ""	"	
25	"		1 ""	"	
26	"		1 ""	"	
27	"		1 ""	"	
28	"		1 ""	"	
29	相談者のカテゴリ		1 文字		
30	"		1 ""	"	
31	利用回数		1 文字		
32	担当医からの紹介		1 文字		
33	情報入手経路 01 担当医		2 1		
34	情報入手経路 02 その他の医療・福祉関係者		2 1		
35	情報入手経路 03 家族・友人・知人		2 1		
36	情報入手経路 04 同僚やその他の家族・患者会		2 1		
37	情報入手経路 05 ネット		2 1		

相談記録のための基本形式 CSVファイル 仕様書

現在の相談記録のための基本形式の導入状況

～今回の部会の事前アンケート（2018/10）結果より～

がん診療連携拠点病院・地域がん診療病院 234病院施設

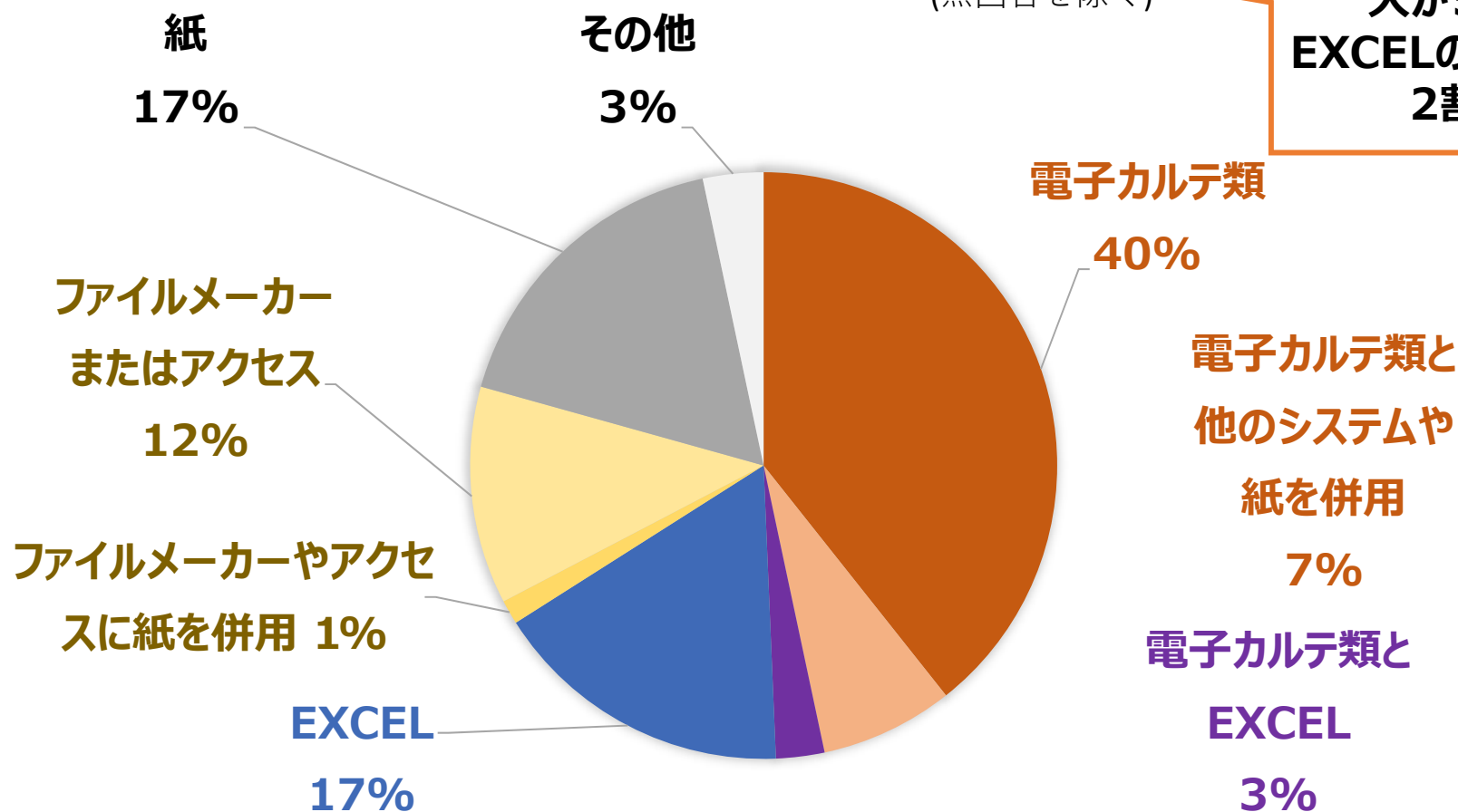


現在の相談記録のための基本形式の導入方法

～今回の部会の事前アンケート（2018/10）結果より～

相談記録のための基本形式を導入済み **150病院**
(無回答を除く)

電子カルテへの導入が5割
EXCELの利用が2割



※都道府県としての集計用に活用している **13都道府県**

相談記録のための基本形式-相談記入シート- 更新の契機

- がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針の改訂
- 現況報告書の項目の追加
- 部会事前アンケートでのご意見
- EXCELでの入力ツール利用者からのご意見

更新内容については資料6をご覧ください。

※必ずしもご意見に添えない場合があることを予めご了承ください。

相談記録のための基本形式-相談記入シート- 及び入力ツールEXCEL更新予定

2018年12月4日～20日（木） ご意見お伺い

ご意見がある方は

2018年12月20日（木）迄に<Joho_Sodan_Jimukyoku@ncc.go.jp>へ
ご連絡をお願いします。

2019年1月 相談記録のための基本形式 改定版 Ver2.0公開

相談記録シートの研究班ページを

がん情報サービス医療者向けページ

[がん相談支援センター相談記入シートのご案内](#) 頁へ移行

https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/support/registration_sheet.html

2019年3月 入力ツールEXCEL 更新予定

上記頁にて公開予定 データ結合ツール(管理者用) も更新します。

※公開後もお問い合わせには応じられる体制がございませんこと、ご了承ください。

「療養に関する情報の探し方」 公開のお知らせ

— 相談員の方へ**新規作成情報** —

国立がん研究センター
がん情報サービス ganjoho.jp 医療関係者向けサイト

診療支援 研修・セミナー 多地点テレビカンファ

HOME > がん相談支援

がん相談支援

がん相談支援センターの円滑な運営をサポートするための情報やツールを

■がん相談支援センター相談員研修の概要 ■地域相談支援フォーラム ■がん相談支援センター研修 ■国指定がん診療連携拠点病院サポートページ

■がん相談支援センター相談員研修の概要

研修の詳細については、「研修・セミナー」をご覧ください。

- 国立がん研究センターにおけるがん相談支援センター相談員の育成プログラム提供方針(PDF:340KB)
- 相談員研修に関するFAQ
- 研修教材公開収録会(がん専門相談員に必要ながんゲノム医療の基)のご案内 **NEW!**
- 平成30年度「相談対応の質保証を学ぶ」研修 講師依存依頼の募集の

国指定がん診療連携拠点病院等サポートページ

このページは、厚生労働大臣から指定を受けたがん診療連携拠点病院のがん専門相談員の対象とした情報を掲載しています。

■【厚生労働大臣の指定を受けたがん診療連携拠点病院・がん診療病院の方へ】

- がん相談支援センター共通ロゴについて(ロゴ、紹介カード、相談員バッジ)
- がん診療連携拠点病院がん相談支援センターメンバーングリストのご案内
- がん相談支援センターPR資料の貸し出し/がん相談支援センターイメージングの利用について
- 「がん相談支援センター」紹介ラジオドラマについて
- 病院にある学友一覧
- がん診療連携拠点病院向け災害時情報

■【都道府県がん診療連携拠点病院の方へ】

- 都道府県がん診療連携拠点病院がん相談支援センターメンバーングリストのご案内
- 施設別がん登録件数検索システム関連資料
- 血算登録申請のご案内
- 都道府県がん相談員研修連絡担当者登録のご案内

■【指導者研修修了者の方へ】

- 研修素材についてのご案内
- 講義「ヘルディスカッション」(スライド)

■【療養に関する情報について】

- がん情報サービス上の古い「療養に関する情報(コンテンツ)」の整理について
- 療養に関する情報の探し方

■国指定がん診療連携拠点病院等サポートページ

旧「都道府県がん診療連携拠点病院向け」、「がん相談支援センター相者向け」、「都道府県がん相談員研修連絡担当者向け」サポートページ

(閲覧には、都道府県がん診療連携拠点病院専用のID、パスワードが必要となります。ID、パスワードは都道府県がん診療連携拠点病院メンバーングリストにてご案内をいたしましたのでご確認ください。不明な場合には「がん情報サービス事務局」までお問い合わせください。)

【ログイン】

【厚生労働大臣の指定を受けたがん診療連携拠点病院・がん診療病院の方へ】

- がん相談支援センター共通ロゴについて(ロゴ、紹介カード、相談員バッジ)

がん情報サービス上の古い「療養に関する情報(コンテンツ)」の整理について

更新・確認日: 2018年11月15日 [履歴]

・2018年10月から順次新しく情報(コンテンツ)を作成していきます
 がん情報サービスの一般向けのページでは、「さまざまな症状への対応」として、2018年10月より新しく情報の作成を開始しました。ページの作成にあたっては、信頼できる参考文献を選び、そこから情報を精査のうえ書き起こすという作業を経て、本編1500字程度のコンテンツとして作成していきます。

・これまで一般公開していた古い情報(コンテンツ)は整理または削除していきます
 「療養に関する情報」は、これまで「さまざまな症状への対応」「副作用・合併症に関すること」「創傷とスキンケア」のページで掲載してきましたが、10年以上前の情報が多かったことから、整理を行っています。

・相談員の参照用の情報として暫定的に本相談員向けサイト内のみ掲載しています
 コンテンツの作成には時間がかかることから、がん情報サービス上に掲載がない情報については、本ページに古い情報であっても暫定的に掲載しています。しかし、古い情報は、医学の進歩とともに、現在においては誤った内容であることがありますので、あくまで相談員の方の参考としての利用とし、患者さんにプリントアウトしてお渡しすることは差し控えてください。

・参照される情報に困った場合には、本相談員向けサイト内の「療養に関する情報の探し方」をご参照ください
 がん情報サービス内で情報を作成するまでに時間がかかることから、がん情報サービスに掲載のない情報やより詳しい情報については、下記の「療養に関する情報の探し方」をご参照ください。

療養に関する情報の探し方

更新・確認日: 2018年11月15日 [履歴]

相談対応の場面で、がんの進行や治療に伴って患者の心身に起こる様々な症状への対処についての情報を必要とすることは多いと思います。中には、がん情報サービスに掲載のない情報やより詳しい情報が必要になることも多いのではないのでしょうか。

患者の心身に起こる様々な症状への対処についての情報は、主として、緩和ケアや支持療法と呼ばれる分野で取り組まれています。この分野は、治療などの情報と比べて科学的根拠(エビデンス)のある情報が少ない領域ですが、できる限り確かなエビデンスのある最新の情報をお伝えすることが大切です。

そのためには、相談員の方々がご自分で情報源を選別し、時には出典の参考文献にあたるなど、患者さんの問いに答えうる情報を積極的に得ようとしていただくことが必要です。

●療養に関する情報でも、できる限りエビデンスのある最新の情報を提供できるようにするために

以下に、療養に関する情報を作成する際に参考としている情報をお薦めの順に示します。情報を探し、提供する際にもこれを意識して活用することが薦められますが、知りたいことそれぞれのエビデンスの確認が重要です。また、情報の作成/更新年の確認も必要です。

表1 療養に関する参考文献の優先順位(レベル)

★★★★	レベル i 診療ガイドライン(参考文献の記載があるもの)
★★★	レベル ii 組織が作成した手引き(参考文献の記載があるもの)
★★	レベル iii 組織が作成したガイドラインや手引き(参考文献の記載がないもの)
★	レベル iv 個人が作成した教科書や手引き(参考文献の記載があるもの)

本日の内容

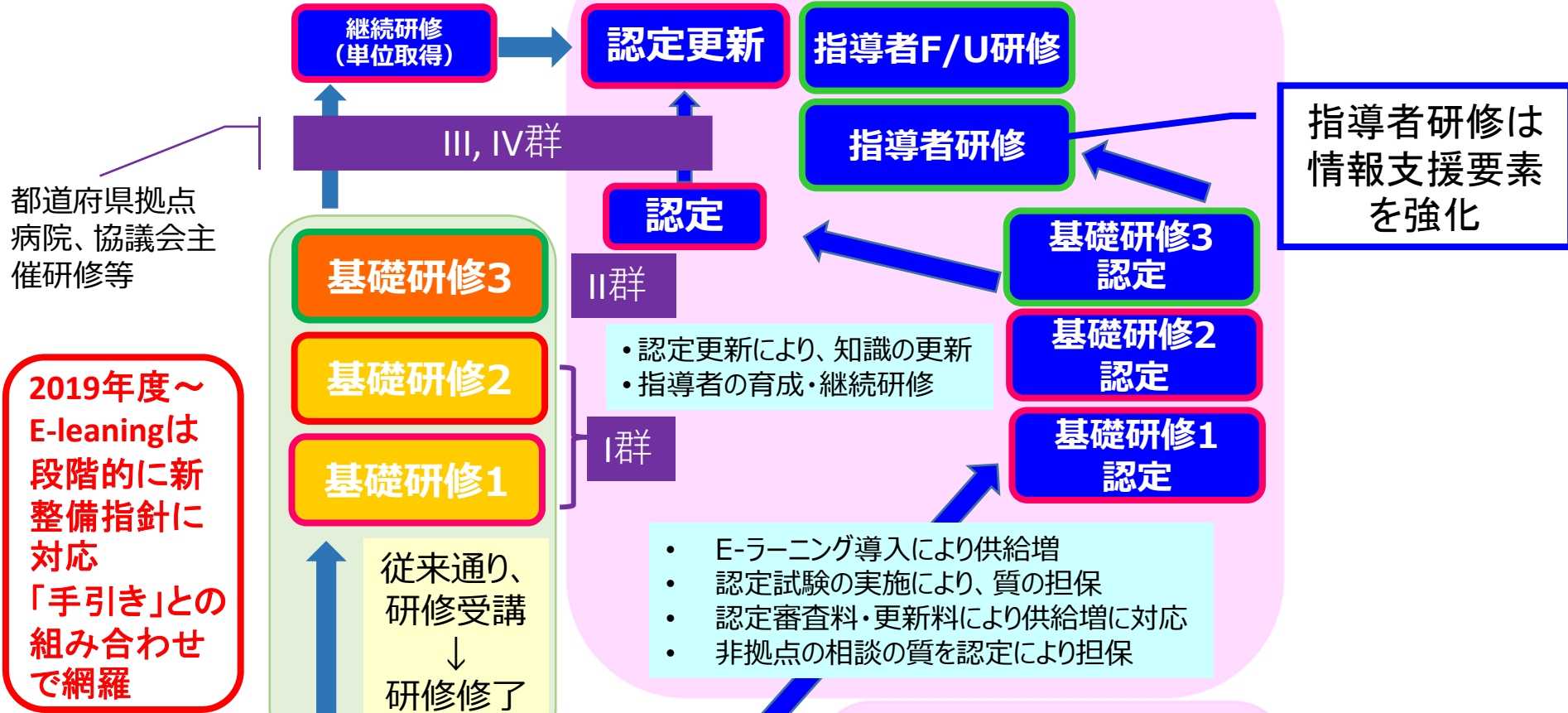
4. がん対策情報センターおよび各県・ブロックからのお知らせ

- (1) 地域相談支援フォーラム開催報告および開催予定
- (2) 災害対策について
 - ・首都圏災害時を想定したシミュレーション実施について
 - ・愛媛豪雨災害への対応
- (3) 件数カウントの導入状況と新指針を踏まえた変更案について
- (4) 「療養に関する情報の探し方」公開のお知らせ
- (5) 平成30年度相談員研修・国立がん研究センター認定事業について**
- (6) がん相談支援センターと地域の図書館等との連携について**
- (7) 日本癌治療学会認定がんナビゲーター制度について

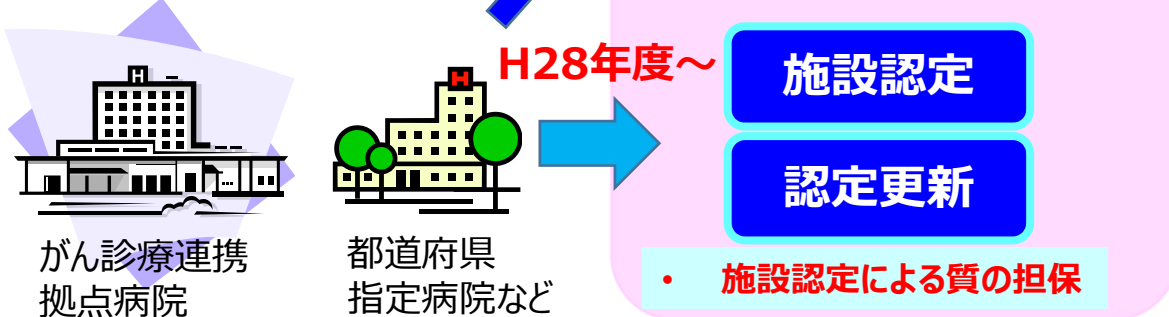
がん専門相談員の育成 H27年度～

集合研修 E-ラーニング
書類審査 有償

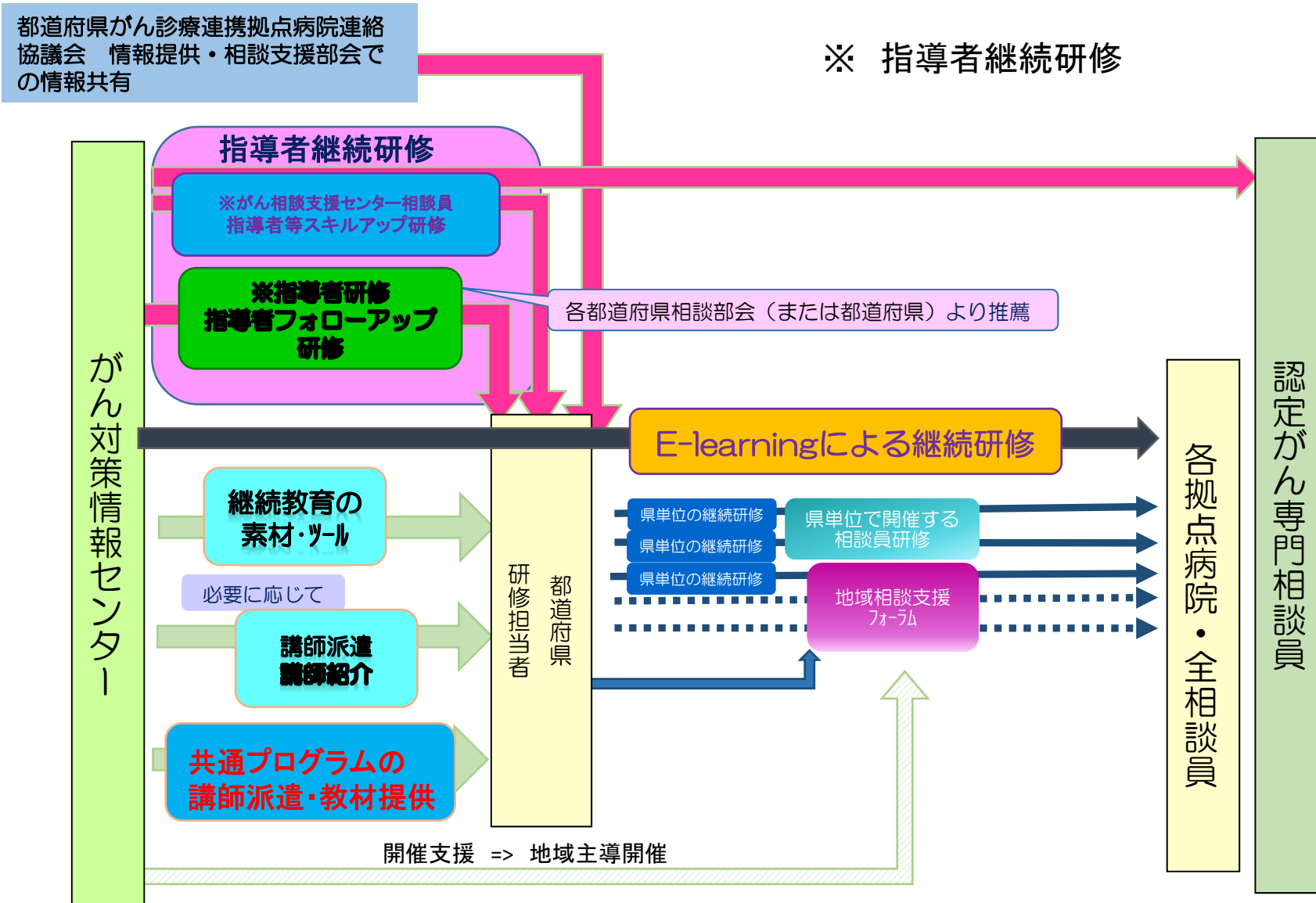
相談支援認定事業（相談員）



相談支援認定事業（施設）



(基礎研修以降の) 継続的・系統的研修機会の場の持ち方



継続教育のプログラムとその開催方式は地域毎の施設構成、ニーズ、実施能力に合わせて検討・実施

2018年度からの力点

全国的に展開が望まれるプログラムについては、E-learning教材の公開、講師派遣・教材提供を積極的に行う

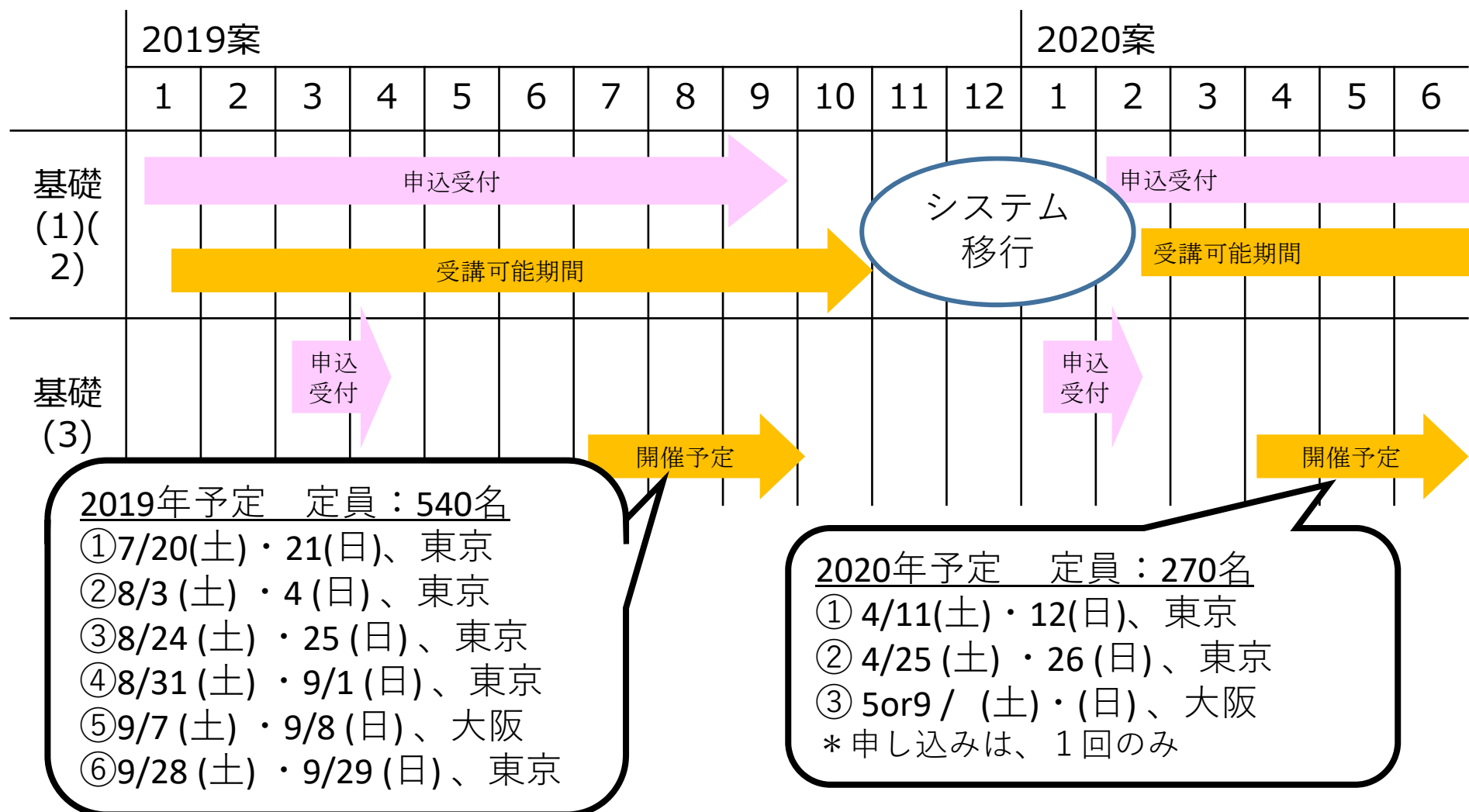
がん対策情報センターで提供している 研修プログラムの位置づけ(2018年=>2019)

形式	プログラムカテゴリ	指定要件になっている研修	主目的	今後の更新予定
	学習の手引き		全相談員が利用できる 相談員研修の副読本	新整備指針対応 購入手法の確保
E-learning	基礎研修(1)(2) (研修修了／知識確認)	○	基礎的知識の習得	新整備指針対応
	継続研修 (認定取得／認定更新)	—	基礎的知識のアップデート	新整備指針対応
	アップデート研修	—	基礎的知識のアップデート	新整備指針対応
集合研修	基礎研修(3)	○	対象者理解(地域のファシリテータの育成)	
	指導者研修	○ 都道府県拠点	地域の研修企画者の養成	情報支援プログラムを取り入れた構成 毎年開催へ
	指導者フォローアップ研修	—	地域の研修企画支援	オンデマンド型へ移行
	指導者等スキルアップ研修	—	地域の研修企画のトピック提供	オンデマンド型or必要時に開催

「相談対応の質保証を学ぶ」研修 講師派遣のご案内

- 「相談対応の質保証（QA：Quality Assurance）を学ぶ」をテーマとする研修企画に、国立がん研究センターがん対策情報センターから各地域へ講師を派遣します
 - 講師派遣期間：平成30年度～32年度
 - 平成30年度は13都府県に派遣
 - 平成31年度の講師派遣申込：平成30年12月を予定
 - 詳細はがん情報サービス>がん相談支援
http://ganjoho.jp/med_pro/consultation/index.html
に掲載のうえ、都道府県研修担当者にメールで連絡予定

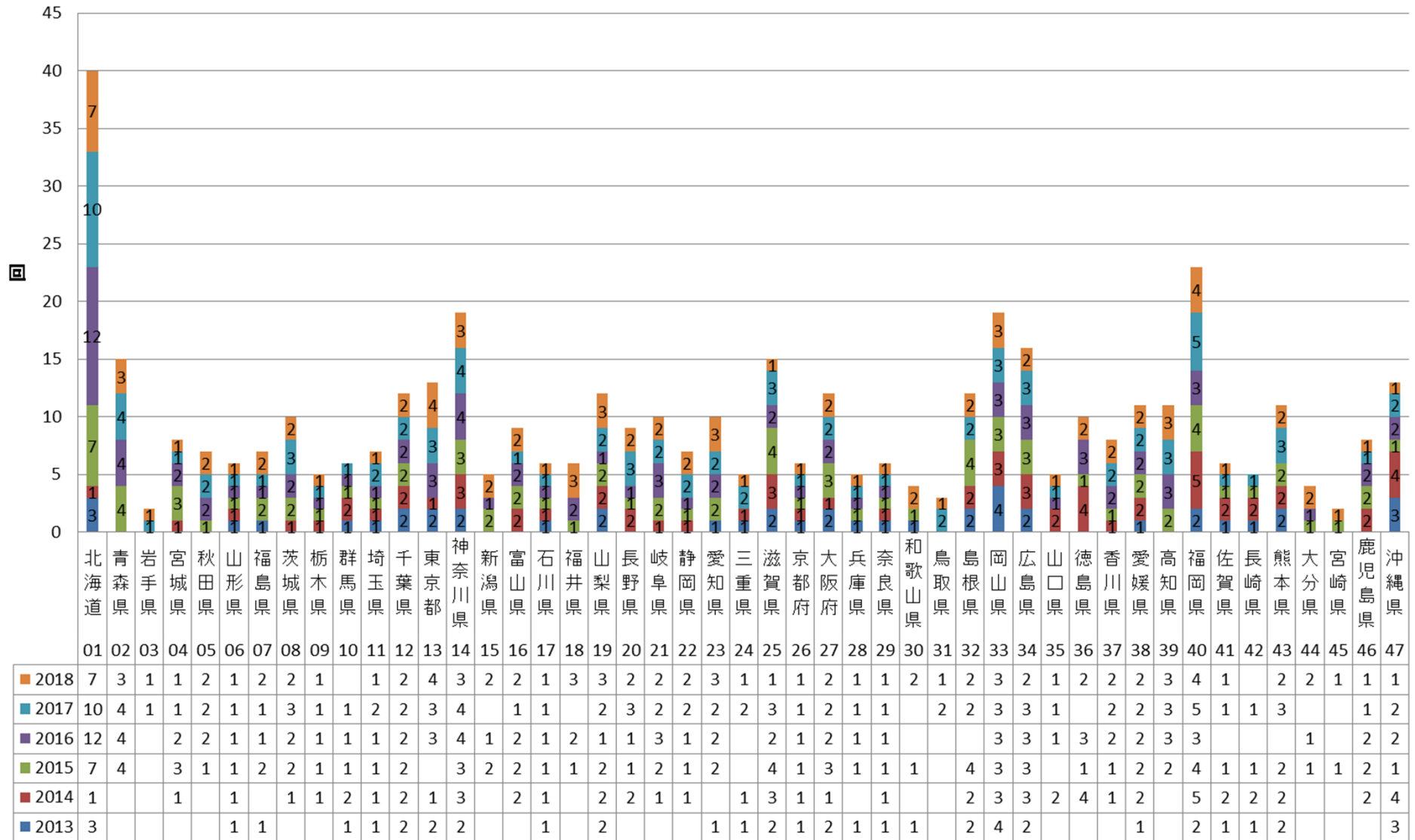
2019・2020年基礎(1)～(3)予定



東京オリンピックの開催と研修システム改修のためスケジュールと受講可能人数が通常と異なります。

2021年現況報告提出時期を見越した人員配置をお願いします

都道府県別III群研修 開催回数



認定事業について

国民が安心して利用できるがん相談支援センターや相談員の環境整備を目的として、以下の認定事業を実施しています。

■ 「認定がん専門相談員」認定事業

「がん診療連携拠点病院等の整備指針」に定められている

がん相談支援センターの相談員の研修受講要件を満たしているだけでなく、

国際がん情報サービスグループ（ICISG）が示す“Core Values”をはじめとした基本姿勢を遵守しているか、

相談対応に必要とされる知識や情報を更新するため継続的に学習し自己研鑽に励んでいるかなどについて、

一定の基準を満たした相談員を「国立がん研究センター認定がん専門相談員」として認定します。

■ 「認定がん相談支援センター」認定事業

「がん診療連携拠点病院等の整備指針」に定められている

がん相談支援センターの要件を満たしているだけでなく、

提供する支援サービスの質を維持・向上させていくための体制整備に努めているか、

相談対応を検証し評価・改善活動に取り組んでいるかなどについて、

一定の基準を満たした施設を「国立がん研究センター認定がん相談支援センター」として認定します。

認定がん専門相談員

申請受付期間：

2018年12月3日（月）～12月14日（金）



申請受付中

認定がん相談支援センター

2019年3月14日（予定）：
公開説明会



認定がん相談支援センター

申請受付期間（予定）：
2019年4月～6月中旬

詳細は募集要項をご参照ください。

国立がん研究センター＞がん対策情報センター＞プロジェクト＞

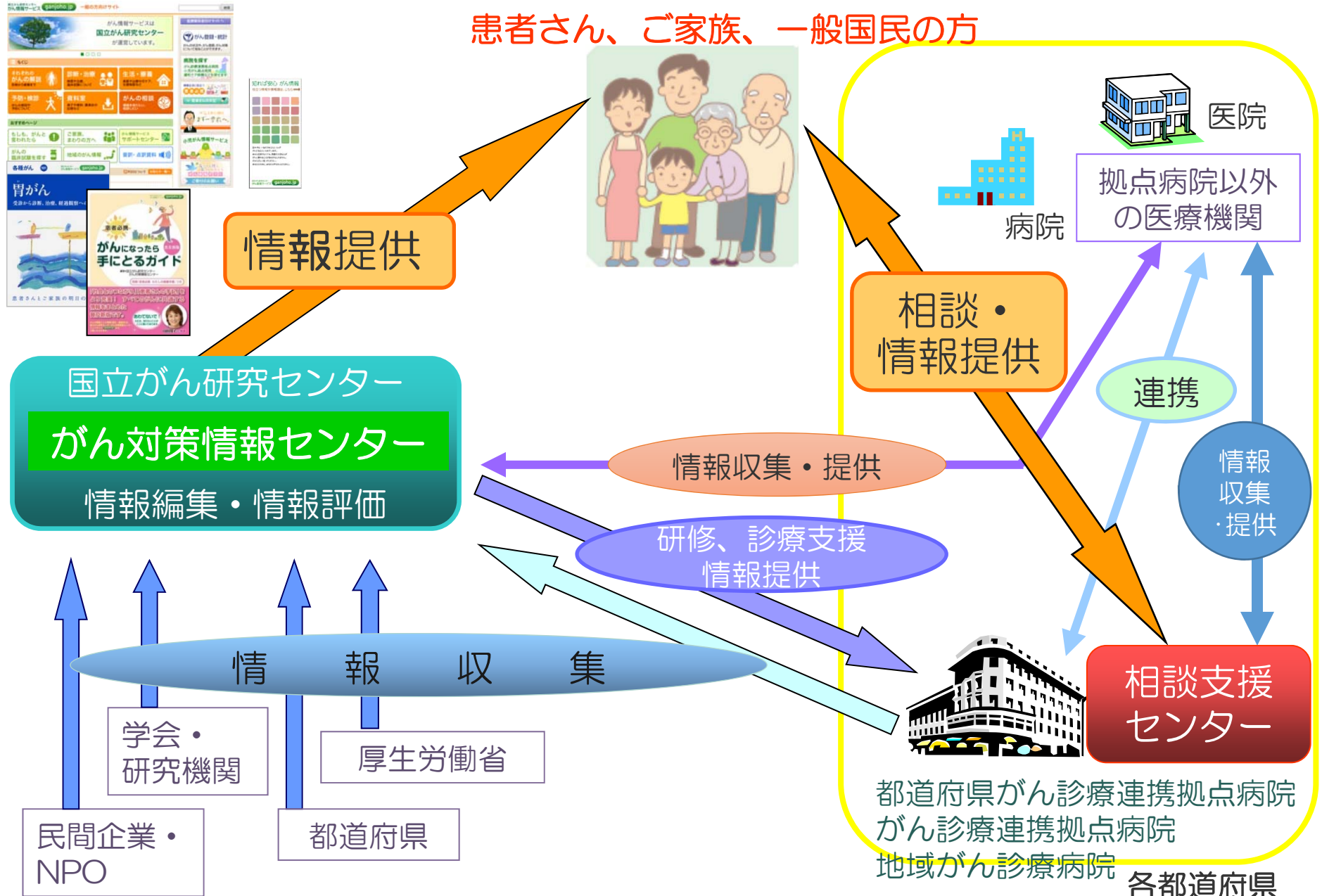
<https://www.ncc.go.jp/jp/cis/divisions/info/project/certification/index.html>

本日の内容

4. がん対策情報センターおよび各県・ブロックからのお知らせ

- (1) 地域相談支援フォーラム開催報告および開催予定
- (2) 災害対策について
 - ・首都圏災害時を想定したシミュレーション実施について
 - ・愛媛豪雨災害への対応 四国がんセンター
- (3) 件数カウントの導入状況と新指針における変更について
- (4) 平成30年度相談員研修・国立がん研究センター認定事業について
- (5) がん相談支援センターと地域の図書館等との連携について
- (6) 日本癌治療学会認定がんナビゲーター制度について 日本癌治療学会

現在進められている日本のがん情報提供ネットワーク



公立図書館との連携による「がん情報とがん相談支援センター」の周知 ～いつでも、どこでも、だれでもが、がんの情報を得られる地域づくりをめざして～

がん対策情報センター>プロジェクト>がん情報普及のための医療・福祉・図書館の連携プロジェクト>「いつでも、どこでも、だれでもが、がんの情報を得られる地域づくりをめざして」

九州・沖縄地区 図書館&がん相談支援センター連携ワークショップ
「いつでも、どこでも、だれでもが、がんの情報を得られる地域づくりをめざして」

日時: 2016年1月25日(月) 13:00~17:00
場所: 福岡県立図書館

国立がん研究センターでは、がんをまじめとする健康や医療に関する情報を、生活の中で身近に感じられるような環境づくりを目指して、図書館と医療機関が連携したプロジェクトを進めています。その取組みの一環として、九州・沖縄地区で、図書館関係者とがん相談支援センター関係者を対象とした図書館とがん相談支援センターとの連携ワークショップが開催されました。このワークショップでは、がん相談支援センターと図書館との連携の活動やそれによる効果や可能性について好事例を参考に、各地域での医療・健康情報の充実や医療・健康情報支援の輪を応げるため企画されました。

[▲このページの先頭へ](#)

■図書館&がん相談支援センターの連携への期待



当日の九州地区は、観測史上最高の積雪となり、沖縄でもそれを記録するなど、交通機関が影響を受ける中での開催となりましたが、図書館関係者、医療関係者、行政関係者など参加予定者85人中68人が集まり、関係者を含めて総勢83人の参加の下に行われました。

はじめに、福岡県立図書館の大場茂嘉館長から、公共図書館は、近年「地域の情報拠点」として、地域の抱えるさまざまな課題に対応した情報サービスを提供することを期待されていること、また最も敷居の低い公共施設として、高い専門性と信頼性を持つ医療機関との連携はとても意義深いことであり、本日のワークショップで、今後の手掛かりやヒントをつかんで具体的な取り組みへつなげていただきたいとの開会の挨拶がありました。



次に、このプロジェクトを担当する司会の高山智子部長(国立がん研究センターがん対策情報センター)より、「図書館とがん相談支援センターの連携プロジェクト」の趣旨が紹介されました。がんの情報を求める人の特徴、そして、がん診療連携拠点病院のがん相談支援センターの活動内容についての紹介があり、これまで九州・沖縄地区でがん相談支援センター間の連携を重ねてきた中で、難病なども多いこの地区において、しっかりとがんに関する情報の



- 九州・沖縄ブロック 第1弾 H28/1/25
- 第18回図書館総合展in パシフィコ横浜 H28/11/9
- 九州・沖縄ブロック 第2弾 H28/11/28 (大分)
- 東北ブロック H29/1/23(岩手)
- 東海・北陸ブロック : H29/11/10(金)
- 北海道ブロック : H30/9/14(金) => 地震のため中止
- 中四国ブロック : H30/12/14 (広島)
- 東京地区 : H31/2/1 (東京)



大分



盛岡



岐阜

がん情報ギフトプロジェクト

国民の皆様からの寄付で、がん情報を身近な図書館へ



本プロジェクトをがん相談支援センターの周知や地域での情報提供のための連携一つのきっかけとしてご活用ください。

1都1道1府31県の計103図書館に寄贈(2018年11月時点)
今月、さらに20箇所寄贈予定

本日の内容

4. がん対策情報センターおよび各県・ブロックからのお知らせ

- (1) 地域相談支援フォーラム開催報告および開催予定
- (2) 災害対策について
 - ・首都圏災害時を想定したシミュレーション実施について
 - ・愛媛豪雨災害への対応
- (3) 件数カウントの導入状況と新指針を踏まえた変更案について
- (4) 「療養に関する情報の探し方」公開のお知らせ
- (5) 平成30年度相談員研修・国立がん研究センター認定事業について
- (6) がん相談支援センターと地域の図書館等との連携について
- (7) 日本癌治療学会認定がんナビゲーター制度について**

日本癌治療学会

九州がんセンター

藤也寸志様

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会
第11回 情報提供・相談支援部会
2018/12/04

日本癌治療学会 認定がんナビゲーター制度

Cancer Network Navigator

Cancer Network Senior Navigator

日本癌治療学会
がん診療連携・認定ネットワークナビゲーター委員会

藤 也寸志

(国立病院機構九州がんセンター・院長)

第2期および第3期 がん対策推進基本計画

■第2期がん対策推進基本計画

第4 分野別施策と個別目標 2. がんに関する相談支援と情報提供
(取り組むべき施策)

- 国・地域公共団体・拠点病院等の各レベルでどのような情報提供と相談支援をすることが適切か明確にし、学会、医療機関、患者団体、企業等の力も導入した効率的・効果的な体制構築を進める。

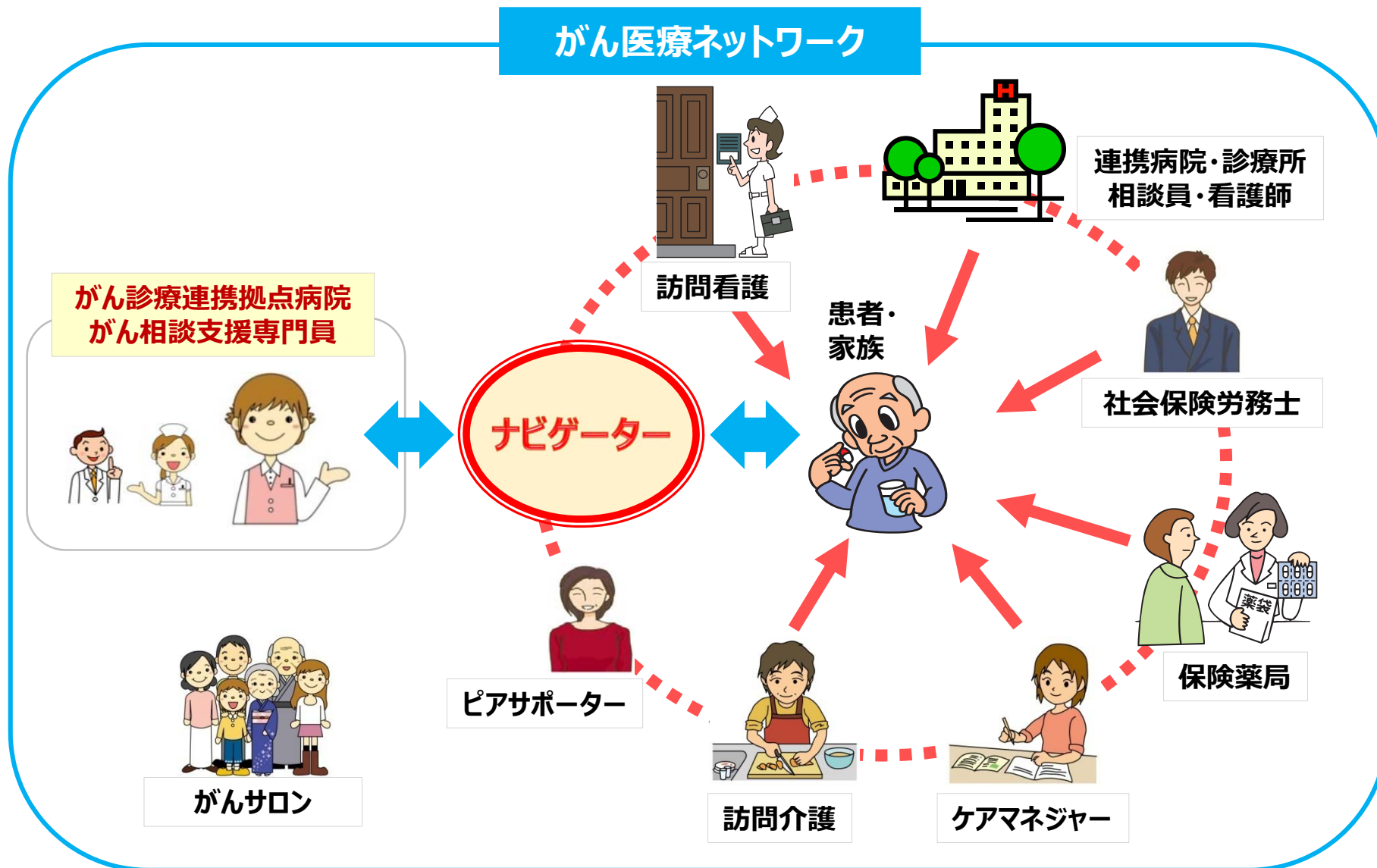
■第3期がん対策推進基本計画

第2 分野別施策と個別目標 3 (2) 相談支援及び情報提供

②情報提供 (取り組むべき施策)

- 国、国立がん研究センター及び関係学会等は、引き続き協力して、がんに関する様々な情報を収集し、科学的根拠に基づく情報を国民に提供する。また、ウェブサイトの適正化の取組を踏まえて、注意喚起等を迅速に行う。

がん相談員を支援する（外部の）人材が必要



認定の流れ

e-LEARNING

視聴料10,000円

ナビゲーター認定

申請料2,000円

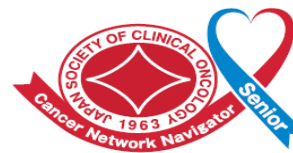
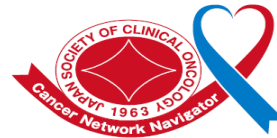
コミュニケーションスキル セミナー

受講料5,000円

実地見学

シニアナビゲーター認定

申請料5,000円
+ 認定料10,000円



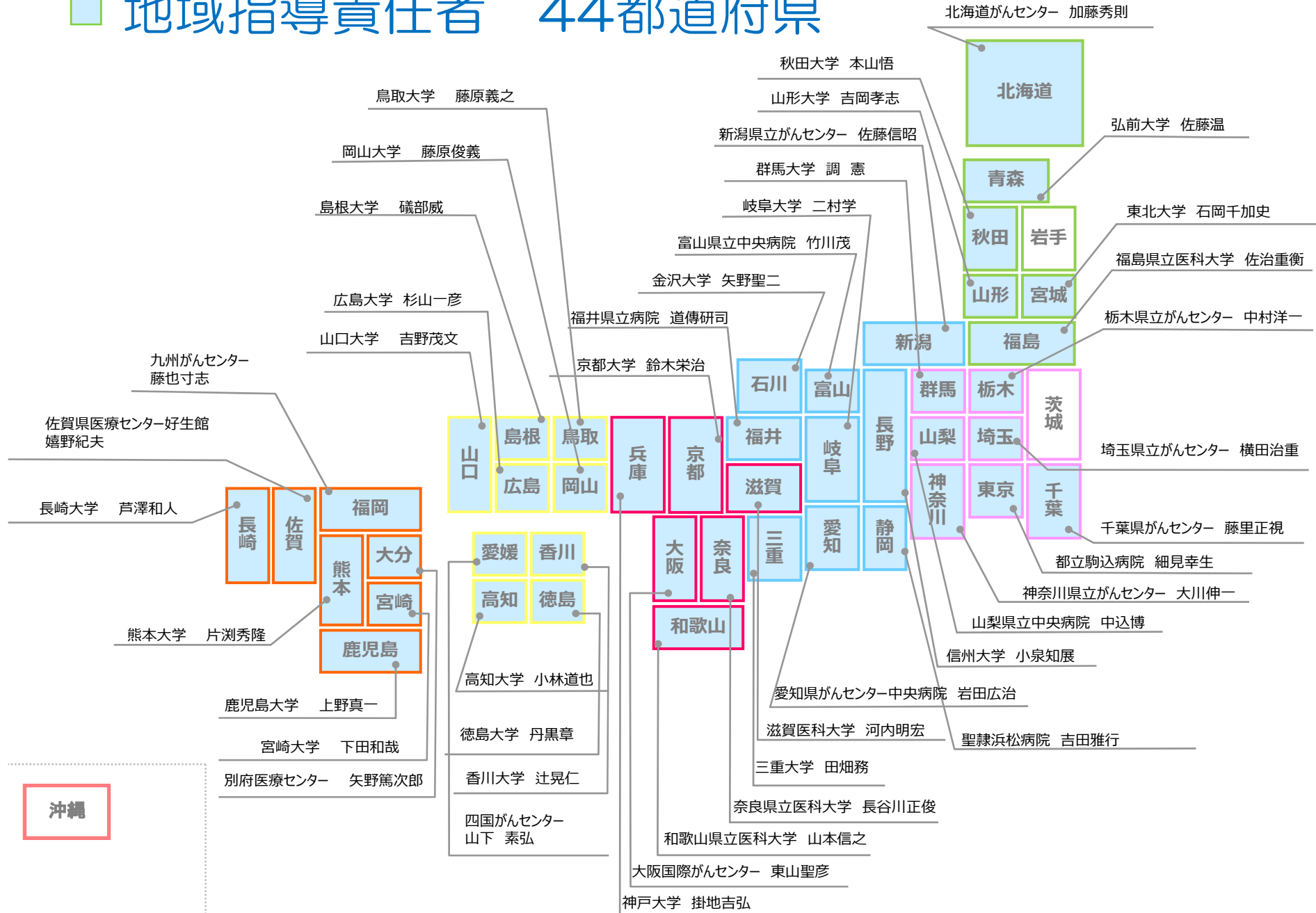
5年毎の更新

ナビゲーター養成進捗状況

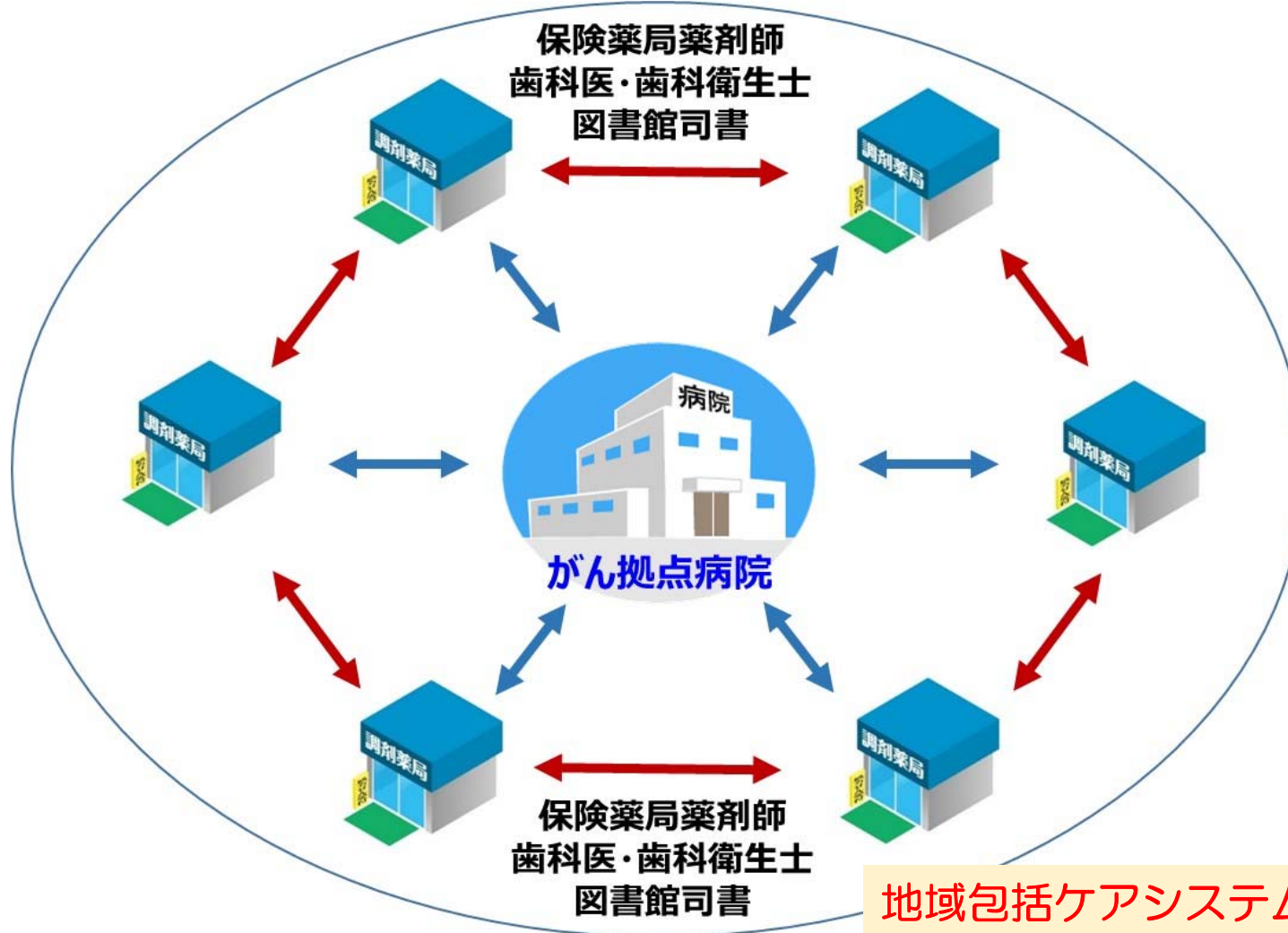
• e-ラーニング履修者	496名
• コミュニケーションスキル履修者	162名
• 実地見学者	25名
• ナビゲーター認定者	99名
• ナビゲーター申請者	11名
• シニアナビゲーター認定者	44名
• シニアナビゲーター申請者	2名
<hr/>	
• 認定見学施設	77施設
• 認定見学施設申請	1施設
• 地域指導責任者（47都道府県）	44か所

2018.10.31現在

地域指導責任者 44都道府県



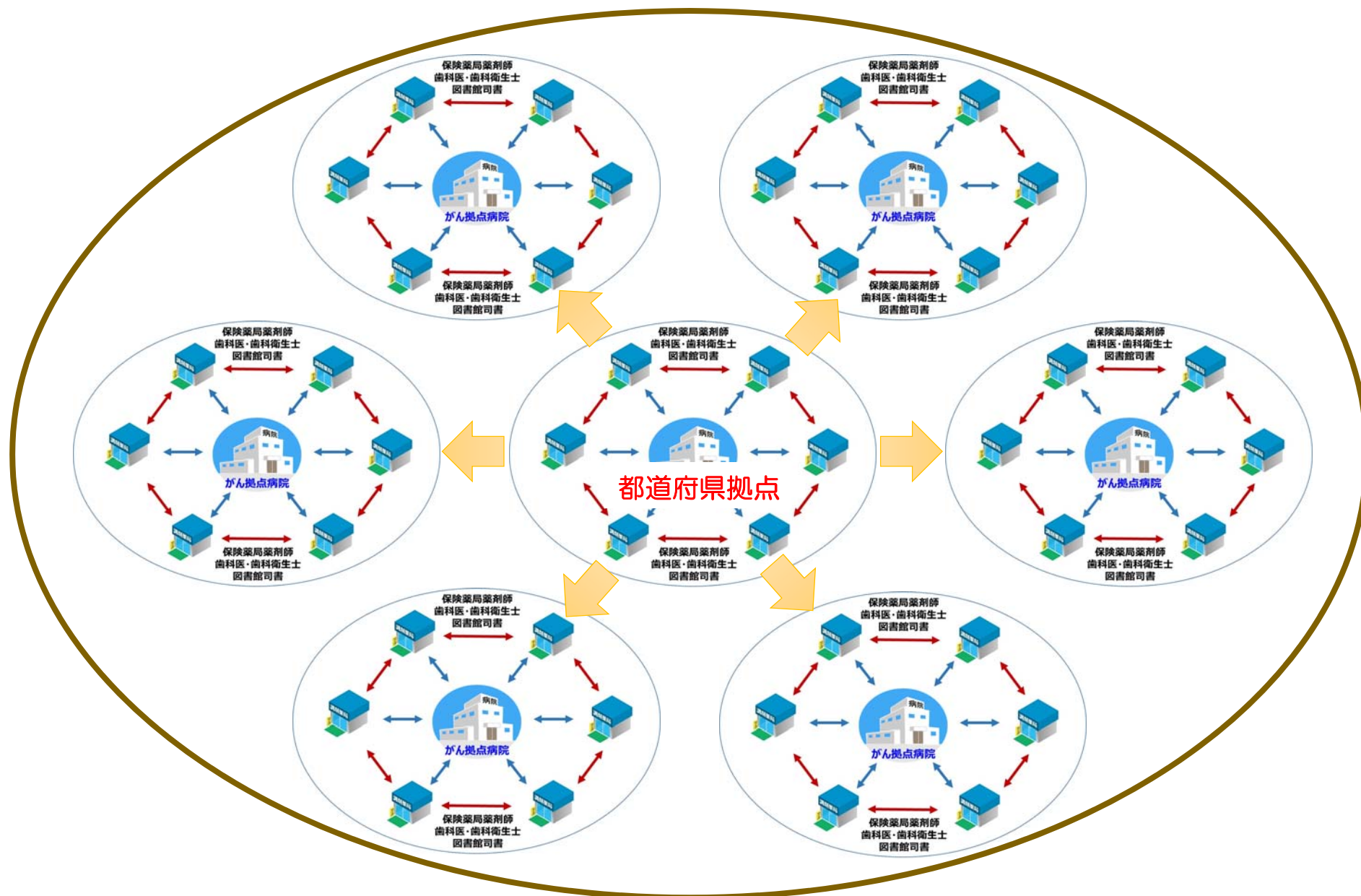
ナビゲーターネットワークの最小単位



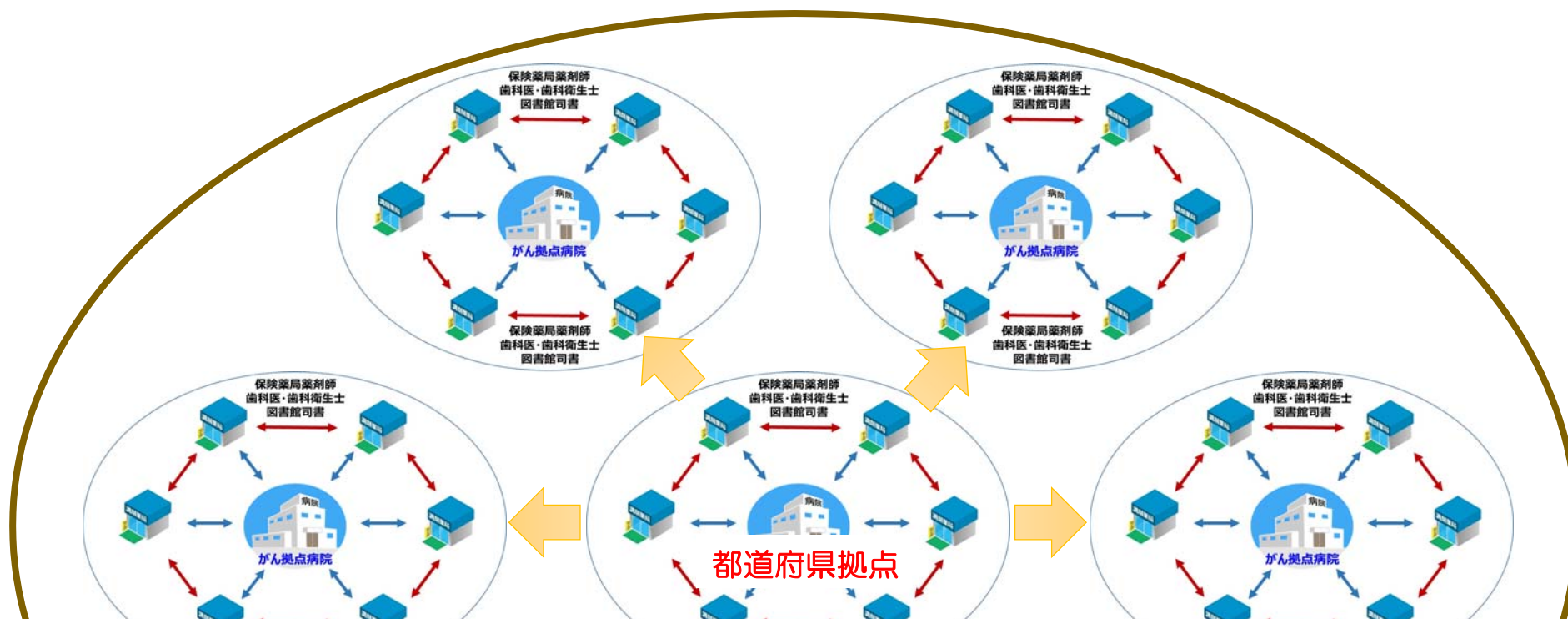
↔ ナビゲーター間の情報共有システム

介護福祉士
ケアマネジャー
訪問看護師・介護士

都道府県がん拠点 → 地域がん拠点への展開



都道府県がん拠点 → 地域がん拠点への展開



- ナビゲーターをどうやって増やすか？
- ナビゲーターをどうやって活躍させるか？
(活躍の場の提供が必要)
- ナビゲーターをどうやってレベルアップさせるか？
(質の評価とフィードバックが必要)

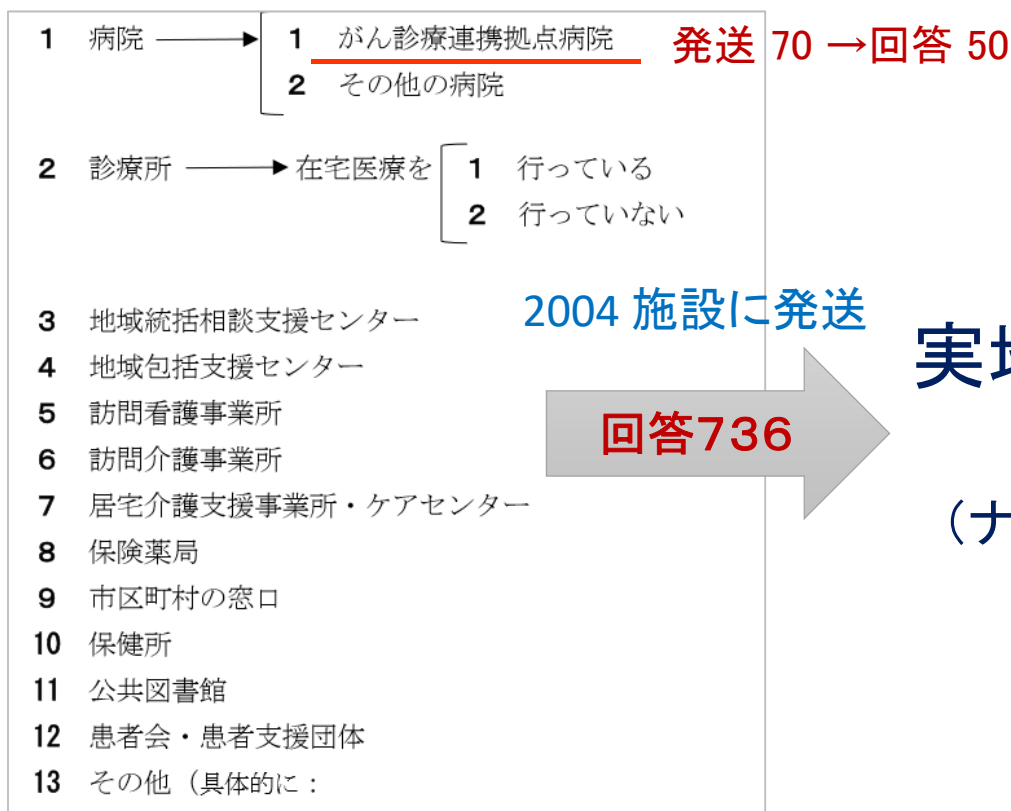
厚生労働科学研究費(がん対策推進総合研究事業)

生活・療養環境による要望特性に応じた
がん情報 提供・相談支援体制の在り方:
地域ニーズの検証と活性化人材の育成と普及

【研究代表者】(群馬大学)西山 正彦

がん患者さんにご家族向け支援の実態調査

群馬
東京
神奈川
福岡
熊本
大分



実地の聞き取り調査
を計画中
(ナビゲーターも参加して)

皆様に協力をお願いしたいこと

本活動の理解と各都道府県における周知活動

(各がん診療連携協議会や相談支援関連部会を通じて)



ナビゲーターの実地見学認定研修施設への登録と受け入れ



ナビゲーターとの顔の見える連携の構築と
それに基づいた教育指導

(各都道府県のがん相談員研修や連絡会への参加の許可など)

詳細は、癌治療学会ホームページをご参照ください。

<http://www.isco.or.jp/jpn/index/page/id/1343/>

どうぞよろしくお願い申し上げます。

6. その他

連絡事項

■「相談記入シート」の改訂へのご意見は、**12月20日（木）**までに下記事務局までお送りください。

■ 第12回情報提供・相談支援部会

日時：**2019年5月23日（木） 13:00～16:30**

場所：国立がん研究センター新研究棟1階

※一部資料について、webでの事前公開にさせていただきます可能性があります。

ご協力のほど、お願い申し上げます。

情報提供・相談支援部会事務局

■ FAX : 03-3547-8577

■ mail: joho_sodan_jimukyoku@ml.res.ncc.go.jp